

資料

# 電子コラボレーションビジネスに向けて

ebXML 実装検討報告

平成14年3月

財団法人 日本情報処理開発協会

電子商取引推進センター



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

## はじめに

EDI(Electronic Data Interchange:電子データ交換)は産業情報化の共通基盤として重要性が認識されている。しかしながら、従来型EDIは主に大手企業間でVAN(Value Added Network:付加価値通信網)などの閉域ネットワークを用い、継続的な取引を行う場合には業務の合理化などの効果を上げているが、中小企業など情報化の遅れている企業では導入が進んでいない。また、大企業間の取引がEDIにより自動化されている一方で、大企業と中小企業間の取引は依然として紙の伝票と人手による処理が残っている。このような状況が大企業の内部にも非効率を生んでおり、我が国産業界全体の効率化を実現するためには、中小企業へのEDIの普及が急務である。また、EDI化の進まない中小企業が淘汰される状況も生まれつつあり、中小企業の保護育成の観点からもEDIの普及促進が求められる。

現在コスト面で安価なインターネット、XML(eXtensible Markup Language:拡張可能なマーク付け言語)及びそれらの関連技術並びにオブジェクト指向技術を応用することにより、既存のEDIに比べて容易に導入できる次世代EDIの検討が進められている。これにより、いつでも、誰とでも、早く、簡単に、安くEDIが実現できるようになることが期待されており、この次世代EDIの技術を導入することで、中小企業へのEDI導入を促進することができる。

さらに、この次世代EDIは、インターネット上の世界単一電子市場という新しいビジネスの基盤を形成する原動力の一つとなっており、国際的企業間電子商取引の中核をなすものになると考えられる。

次世代EDIの検討作業には、各国の電子商取引推進機関及び標準化機関も参加しており、我が国も情報先進国の一員としてグローバルスタンダードの策定に貢献する必要がある。我が国が推進するデジタル経済がグローバルビジネスの中で正当に認知され、電子商取引分野における我が国産業界の国際競争力を維持するために、国の施策としてこの検討に参加することが必要である。我が国経済が国際電子市場の中で世界と歩調を合わせて成長していく過程で、この次世代EDIの検討作業が目指す成果は、直接グローバルビジネスに携わる企業のみならず、産業界全体へ波及効果をもたらすことが期待される。

本事業では、これらの共通基盤の整備を図り、中小企業を含む我が国産業界の高度情報化に資することを目的とする。次世代EDIの普及に資するため、成果は途中結果を含めてインターネットのWeb上で公開するとともに、次世代EDIを判り易く解説したXML/EDI ニュースレターを昨(H12)年度より発刊してきたが、XML/EDI ニュースレターは次世代EDIを理解する上で大変好評のため、平成12～13年度刊行のXML/EDI ニュースレターNo.1～8の内容を最新情報で更新の上、報告書として再編集した。

電子商取引推進協議会では、平成13年度、XMLを中核とするB2Bの世界的標準化活動に対応するため、次の専門委員会およびWGを設置し、その下に各々2つの小委員会およびSWGを設置し、活動を展開した。

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| XML/EDI 標準化専門委員会   | (委員長:大久保 秀典) |
| ビジネスプロセス標準化小委員会    | (委員長:森田 勝弘)  |
| 情報技術フレームワーク小委員会    | (委員長:成田 雅彦)  |
| XML/EDI 普及促進WG     | (主査:伊東 健治)   |
| シンプル(ベーシック)EDI SWG | (主査:関根 直弘)   |
| アジア地区普及SWG         | (主査:鈴木 耀夫)   |

なお、XML/EDI 当標準化活動を推進するにあたっては、上記の委員長・主査を始めとする国内有識者の方々の積極的なご協力のもとに、技術研究および審議を行っていただいた。

ここに、本標準化活動の実施に当たってご指導・ご協力を頂いた当該委員会およびWGの方々に深く感謝の意を表すものである。

平成14年3月

財団法人 日本情報処理開発協会  
電子商取引推進センター

## 目次

1	なぜ今XML/EDIなのか	1
1.1	なぜ今XML/EDIなのか	1
1.2	XMLとは	2
1.3	標準化が課題	3
1.4	ebXMLイニシャチブの活動	4
2	ebXMLイニシャチブの要求仕様	7
2.1	ebXMLイニシャチブの活動	7
2.2	ebXMLの要求仕様	8
2.2.1	ebXMLのビジョンと適用範囲	8
2.2.2	ebXML要求仕様の目的、適用範囲	9
2.2.3	ビジネス上の必要要件	9
2.2.4	ebXMLの技術的枠組みの必要要件	11
2.3	ebXMLイニシャチブ東京会議	13
2.4	ebXML東京フォーラム	14
3	ebXMLの基幹技術仕様	15
3.1	ビジネスプロセス(BP)	15
3.2	コアコンポーネント(CC)	18
3.3	電子交換協定(CPP/CPA)	19
3.4	メッセージ搬送(MSG)	20
3.5	レジストリ・リポジトリ(R&R)	21
4	UN/CEFACTモデリング手法	24
4.1	作業フェーズおよび工程	25
4.2	UMM 成果物	27
4.3	UMM フレームワーク	28
4.4	UMM パターン	29
5	ebXML仕様の検証	31
5.1	ebXMLウイーン会議の概要	31
5.2	POCの概要と成果	32
5.2.1	POCの参加企業	32

5.2.2	今回の仕様検証の要点 .....	33
5.2.3	電子交換協定の検証デモ(Track 0) .....	33
5.2.4	eマーケットプレイスでの受発注・出荷・決済の検証デモ(Track 1) .....	35
5.2.5	医療分野の検査データ交換の検証デモ(Track 2) .....	36
5.2.6	モデリング手法UMMに従ったビジネスプロセスの構築の検証デモ.....	37
5.2.7	ビジネスサービス(アプリケーション)の構築デモ .....	37
5.2.8	コアコンポーネントを用いたメッセージ構築の検証デモ.....	37
5.3	ECOMの本(H13)年度の活動 .....	38
6	ebXML 後の新体制 .....	39
6.1	ebXMLの新しい体制と活動内容.....	39
6.2	ebXMLの日本語用語集の作成 .....	40
6.3	ベーシックEDIの推進 .....	41
6.4	アジア地域ebXML活動の推進 .....	43
6.4.1	ebXMLアジア会議 (ebXML ASIA Committee) .....	43
6.4.2	アジア地区普及サブワーキンググループ .....	44
7	ebXML 採用事例 .....	46
7.1	日本国内の状況.....	46
7.1.1	旅行電子商取引促進機構の有志企業 .....	46
7.1.2	日本鉄鋼連盟 (JISF) .....	47
7.1.3	石油化学工業協会 (JPCA) .....	47
7.1.4	株式会社(食料品, 家庭用品などの小売販売の流通業).....	47
7.1.5	電子情報技術産業協会 (JEITA).....	47
7.2	アジア地区の状況 .....	49
7.2.1	韓国ナショナル・レジストリ(韓国) .....	50
7.2.2	PAA (Pan Asia e-commerce Alliance) .....	50
7.2.3	Trade Facilitation Project (貿易促進プロジェクト, 台湾) .....	51
7.2.4	IFX (Interactive Financial Exchange Project, 金融データ交換プロジェクト, 台湾) .....	52
7.3	欧米の状況 .....	52
7.3.1	GCI (Global Commerce Initiative) .....	52
7.3.2	OTA (Open Travel Alliance).....	52

7.3.3	OAGI (The Open Application Group, Inc.) STAR (Standards for Technology in Automotive Retail).....	52
7.3.4	DGI (Drummond Group Inc.) .....	53
7.3.5	CIDX (Chemical Industry Data Exchange) .....	53
8	CPP/CPA と関連仕様.....	55
8.1	ebXMLのビジネスプロセス仕様とサービスインタフェース構成 .....	55
8.2	ビジネスプロセスの事例.....	56
8.3	ビジネスプロセス文書 (Process-Specification Document).....	57
8.4	CPP / CPA文書 (Collaboration-Protocol Profile and Agreement).....	58
8.5	CPA文書 とビジネス電文ヘッダー情報.....	60
付属 1	用語集_解説付.....	63
付属 2	XML/EDI 標準化専門委員会.....	85
付属 3	XML/EDI 普及促進ワーキンググループ.....	93

# 1 なぜ今XML/EDIなのか

XML / EDIとは、XML言語を利用したEDIシステムである。次世代のインターネットEDIシステム構築の標準として期待されており、現在、国際的に標準化活動が推進している。

## 1.1 なぜ今XML / EDIなのか

### (1) EDI普及の壁

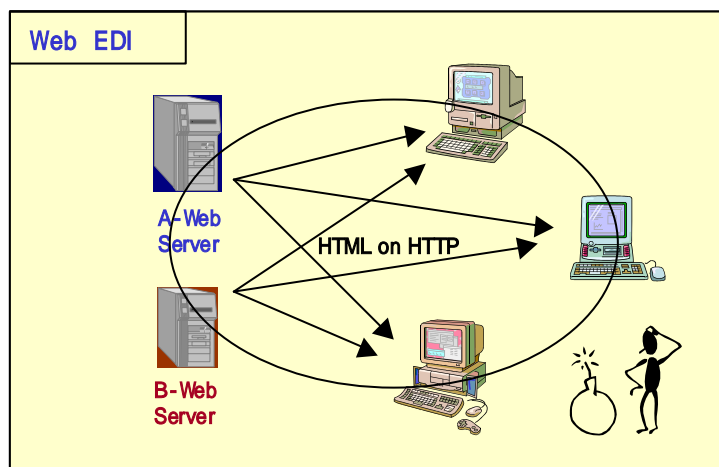
- ・EDI(企業間電子データ交換)は、1980年代から導入が進み、タイムリーで正確な取引、取引業務の自動化による省力化など、主としてデータ量が多く、頻度の高い継続的な取引の合理化に大きな成果を出してきた。
- ・しかし、中小企業へのEDI導入がなかなか進んでいない。
- ・その理由は、EDI構築・運用の費用(導入費用、運用費用)と、導入に手間がかかることにある。

### (2) インターネットEDIの登場と課題

- ・EDI普及の費用の面での解決策として、インターネットEDIが1996年から登場し、各企業への導入が進んでいる。
- ・インターネットEDIは、採用する通信プロトコルの分類から、ファイル転送型、E-mail型、Web型の3方式があります。簡単に導入できて、運用費も安価な理由からWeb型の導入が進んでいる。
- ・但し、ここで以下の課題がある。

発注者主体のWeb - EDI(ブラウザ処理)では、受注者側に人間が介在して、受注者側の業務の効率化には寄与しにくい。

Web上のEDI情報(取引情報)の意味情報が、発注企業毎に異なり、複数の発注企業と付き合う受注企業(例:部品メーカー)は受注処理の合理化(社内システムとの連動)が困難になる。





### (3) XML / EDIで簡便で標準化されたEDIの実現

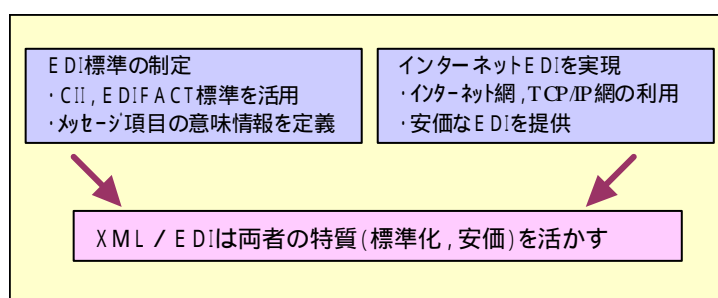
上記の課題を解決するために登場したのがXML / EDIである。

EDI標準の制定

- ・従来のEDI標準を取りこみ，XML言語を用いることで，情報の意味情報を含めての標準化を目標としている。

インターネットEDIの実現

- ・基本的にインターネット網，閉域TCP / IPネットワーク網を利用したEDIシステムであり，インターネットEDIとしての簡便性，安価な運用を実現する。



## 1.2 XMLとは

XML (eXtensible Markup Language, 拡張可能なマーク付け言語)は，現在Web - EDIで利用されているHTML (HyperText Markup Language)に代わるものとして実装の標準化作業が進むページ記述・メタ言語である。HTMLで普及したリンク(関連付け)機能などを拡張するとともに，SGML (Standard Generalized Markup Language)をインターネット向けに最適化した。XML文法は，1998年2月にWWWコンソーシアムより第1版の標準仕様が公表された。現在，企業間ECなどで採用が始まっている。(例: 企業の製品カタログの電子化，受発注や納期のデータ交換，文書データの作成や保守を省力化する文書管理など)

メタ言語 (metalinguage) : 言語の意味を記述するための言語のこと。言語記述言語とも呼ばれる。

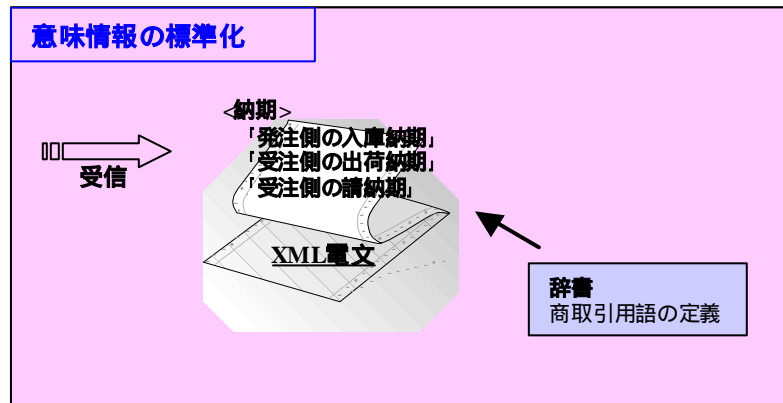
### XML言語の特長:

独自にタグを設けて業務システムを記述できる言語である。(タグ: 情報を表す文字あるいは記号)例えば，EDIでは<発注者コード>，<受注者コード>，<製品コード>，<発注金額>，<納期>などのタグを設けることができ，これらのタグを用いてEDIメッセージを表現してやれば，どこが「製品コード」なのか，データ入出力プログラムにも判断できる。従って，発注者側でのアプリケーション業務ファイルからのEDIメッセージの作成，受注者側でのその受信電文からアプリケーションシステムへの出力が，人手を介さずに自動化できるようになる。

### 1.3 標準化が課題

XML言語は、情報の意味を定義できる言語であるが、その意味情報の標準化が課題である。

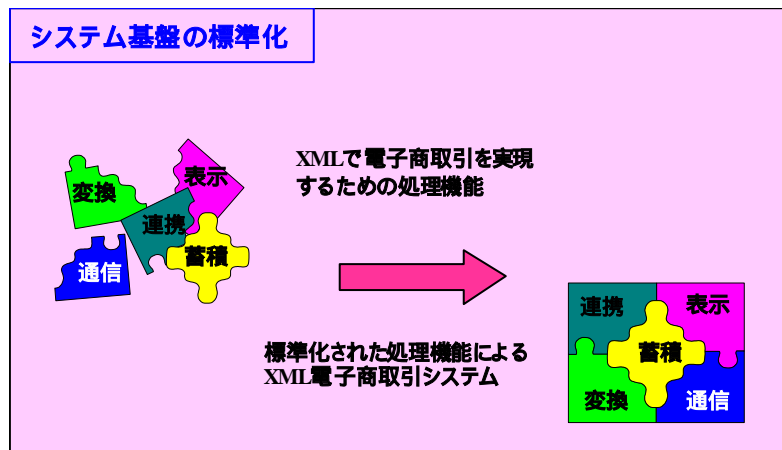
商取引が成立するためには、商談に使用する言葉が相互に正しく理解できなければならない。「納期」と言っても、「在庫納期」、「出荷納期」、「請納期」など種々の納期があり、送信者、受信者双方が同じ意味としての認識が必要になる。



XML電文を処理する為には、種々の周辺機能(変換, 通信, 蓄積など)が必要であり、それぞれは整合性を持って動作するように標準化されなければならない。

XMLは、独立のタグを設けて、情報の意味を定義する機能を持っているが、その内容の意味情報や表現形式の標準化がなされて始めて複数の企業で、共通の一つの方式、フォーマットで電子データ交換が可能になる。XMLアプリケーション実用化の成功の鍵は意味情報や表現形式の標準化なのである。

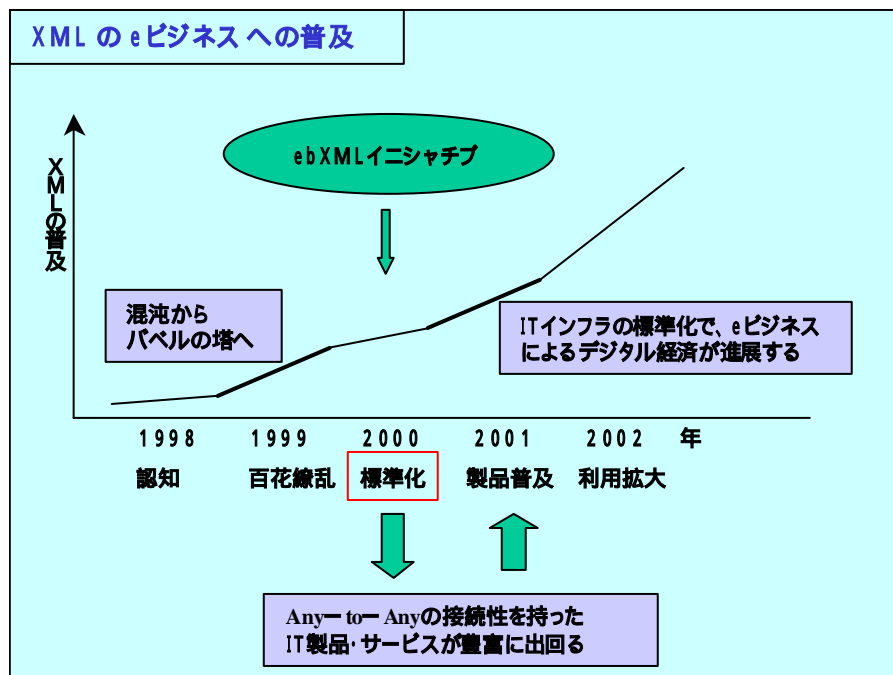
XML / EDIは、XML言語を用いて意味情報・表現形式の標準化とシステム基盤の標準化の実現を目標としている。



XML文法の標準仕様が公表されるとともに、そのEDIへの適合性が認知され、幾多のXML / EDI方式が提案されてきている。

しかしながら、それら提案されているXML / EDIは相互運用性がなく、XMLをEDIに適用するためのフレームワークの標準化が急務といえる。

そのために誕生したのがebXMLイニシャチブである。このイニシャチブによるXML / EDIの標準化が進められれば、その標準に則った製品やサービスが提供され、相互運用性を確保したXML / EDIによる世界規模のeビジネスが容易に展開されることが期待できる。



#### 1.4 ebXMLイニシャチブの活動

標準化XMLベースのeビジネス標準基盤を提供することを目的に、UN / CEFAC T (UN / EDI FACTの標準化を進めている国連の組織)と米国のXML実装標準化を推進しているコンピュータ企業と業界団体の幅広いコンソーシアムであるOASIS (高度構造化情報システム推進組織)は共同で、1999年11月に、「ebXMLイニシャチブ」を設立した。

参加団体は、各国の標準化推進組織、業界団体、私企業など130以上の組織・企業、1000人以上のメール会員が参加している。

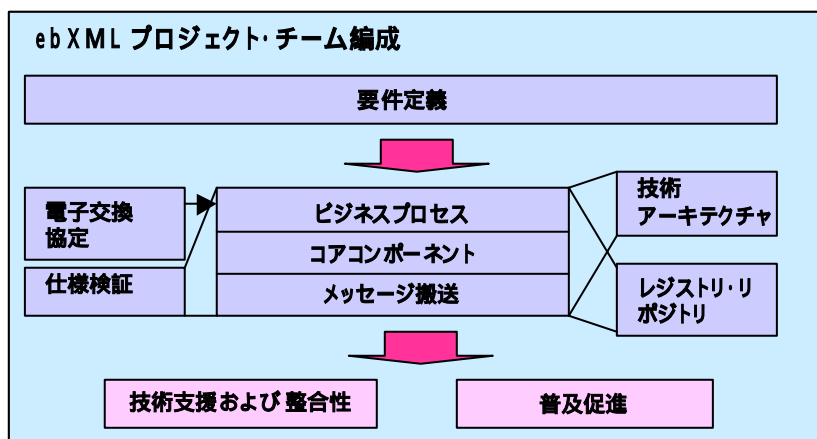
スローガン: Creating a Single Global Electronic Market (世界単一電子市場の創造)

ミッション: 電子ビジネス参加者の全てが、相互運用性があり、セキュリティが保たれ、矛盾のない一貫した方法で、電子ビジネス情報を世界規模で使用可能にする、標準XMLベース構造基盤を提供する。

ebXMLプロジェクトは下図の10のチーム編成で活動している。

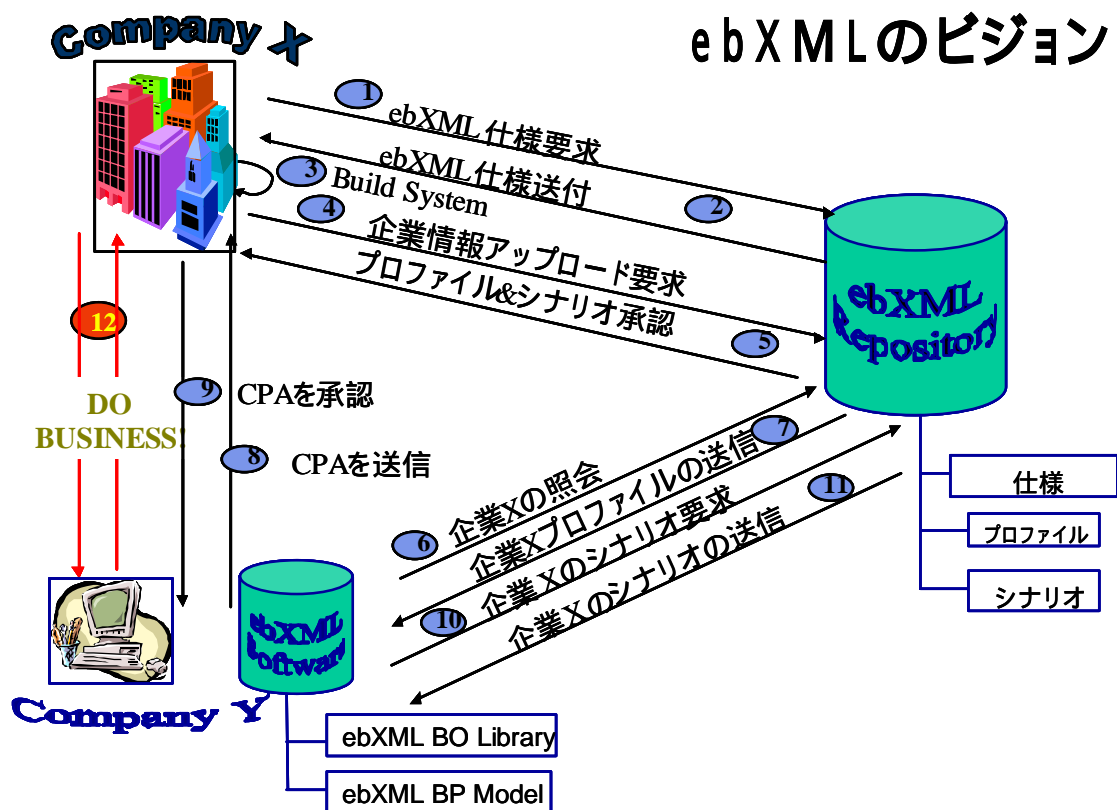
電子データ交換電文の標準化では、構文/内容として標準化する。コアコンポーネント、さらにビジネスプロセスの標準化も目標としている。また、誰でも最新のebXML標準情報を正しく参照できるように標準リポジトリの仕組みを規定する。

図 1-1



ebXMLでは、初めての取引先であっても容易に電子商取引が実施できることも一つの目標である。

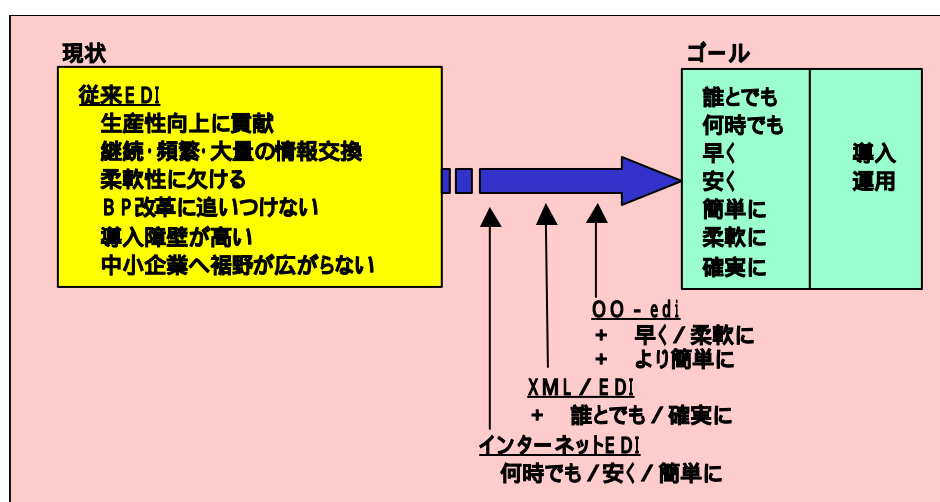
図 1-2



ebXML標準が普及し、企業情報やビジネスプロセスに必要な各種の情報が、標準のリポジトリから導入可能になったときの電子商取引のイメージを、図 1-2に描いてみた。図 1-2の通り、ebXML標準リポジトリを検索することにより、Company XもCompany YもebXMLビジネスオブジェクトLibraryとebXMLビジネスプロセスModelを共有し、ビジネスを行うことができる。

ebXMLイニシャチブは、短期での集中した標準化活動を推進しており、2001年5月までの標準制定を目標としている。

**eビジネス(B2B)のゴール:**現状のWeb-EDIに代表されるインターネットEDIの簡便さを継承して、XML/EDIは、誰とでも確実にEDIを実現する。OO-edi(オブジェクト指向EDI)は、新しいビジネスモデルでのより柔軟なeビジネスを構築することを目標にしている。



## 2 ebXML イニシャチブの要求仕様

XML / EDIなどの、XML言語を採用したeビジネスソリューションの標準化を推進する国際的なコンソーシアム「ebXMLイニシャチブ」は、1999年11月に設立され2001年5月に、当初の予定通り ebXML 仕様第1版を発表した。

本章では、ebXML活動の概要とebXML仕様全体を規定した「ebXML要求仕様」を説明する。

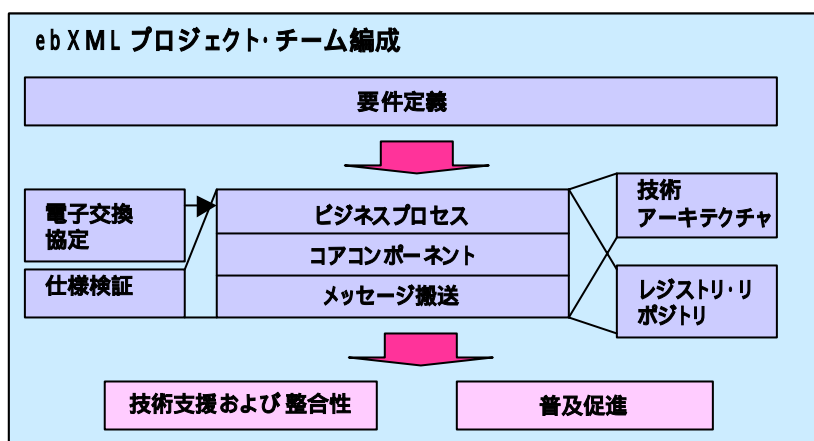
### 2.1 ebXMLイニシャチブの活動

標準XMLベースのeビジネス標準基盤を提供することを目的に、UN / CEF ACT (UN / EDI FACTの標準化を進めている国連の組織)と、米国のXML実装標準化を推進しているコンピュータ企業と業界団体の幅広いコンソーシアムであるOASIS (高度構造化情報システム推進組織)は共同で、1999年11月に、「ebXMLイニシャチブ」を設立した。

この組織は、各国の標準化推進組織、業界団体、私企業など130以上の組織・企業と1000人以上のメール会員で構成され、1年半の活動により電子ビジネスコラボレーションを実現するためのフレームワーク「ebXML仕様」を公表した。

ebXMLイニシャチブのプロジェクトの中核は、図2-1中の10の**技術チーム**編成で活動を行ってきた。その他に、技術支援・整合性を図るチーム(プロジェクト管理チーム)、普及促進を図るチーム(マーケティングチーム)も設立され、仕様の品質管理と広報活動を担ってきた。

図 2-1



#### [各技術チームの役割]

##### 要件定義

ebXML全体の標準仕様の要件を規定する。中核は、ビジョン、適用範囲、ビジネス要件、技術要件

##### ビジネスプロセス

ビジネスプロセスの標準化のため、その定義方法や共通化できる枠組みを定義する。

<b>技術アーキテクチャ</b>	ebXML全体の技術構造を規定する。各技術チームの仕様のインタフェースをまとめる。
<b>コアコンポーネント</b>	商取引項目(データ要素、ビジネスオブジェクト)の構造、表記方法、項目の標準化をまとめる。
<b>メッセージ搬送</b>	電子商取引文書(メッセージ電文)のパッケージング方法、メッセージの搬送・配信方法を規定する。
<b>レジストリ・リポジトリ</b>	標準ebXMLの内容のレジストリ(登録)及び格納されるリポジトリ(データハウス倉庫)の技術仕様をまとめる。
<b>電子交換協定</b>	オンライン電子商取引交換規約を策定する。ビジネスプロセスチームと密接に連携する。
<b>仕様検証</b>	各技術チームが作成した技術仕様を検証する。実証システムによる動作検証も行う。

## 2.2 ebXMLの要求仕様

ebXML仕様全体を規定するものとして、ebXML要求仕様(ebXML Requirement Specification)が定められ、その要求仕様に基づいて各技術グループは各技術仕様の検討・策定を実施した。(ebXML要求仕様Version1.0は、2000年5月に開催された第3回ベルギーブリュッセル会議で承認された。)

以下にebXML要求仕様の概要を紹介する。

### 2.2.1 ebXMLのビジョンと適用範囲

#### (1) ビジョン

「国際的に承認を受けた、唯一の技術仕様群を提供する。」

このebXML技術仕様で、唯一のグローバル電子市場(Single Global Electronic Market)を形成することとなる。この実現のため、

- ・W3Cの作成するXML技術仕様に完全に適合し、W3Cの推奨を得る。
- ・ebXMLに適合する取引企業等のアプリケーション間で、相互運用性を提供する。
- ・互換性、効率化を最大化しつつ、既存のEDI標準、及び開発が進行中のXML商取引規格からの乗り換えを可能にする。
- ・国際的に認知された適切な標準化団体に提出し、国際規格として認可を受ける。

## (2) 適用範囲

ebXMLイニシャチブは、経済社会の隅々まで浸透させることを目標にしており、B2B及びB2C取引を実施する国際コングロマリットから中小企業まで、適用できることを目標にする。

### 2.2.2 ebXML要求仕様の目的, 適用範囲

#### (1) 目的

ebXMLプロジェクトチームのメンバーが一貫した姿勢で活動成果(deliverables)の開発を続けられるようにする。

ebXMLに関心を持つ団体に、ebXMLの目的、適用範囲、ビジョンを伝える。

#### (2) 適用範囲

ebXML要求仕様は、活動中のebXMLプロジェクトチームの作業に対して適用される。

#### (3) ebXML技術仕様作成の基本理念

- ・XMLを使用した、単純、簡単、普遍的な電子商取引を可能にする。
- ・利用可能な最大限まで、XML仕様を使用する。
- ・B2B及びB2Cに利用できる規格として、産業横断的でオープン、相互運用可能、グローバルな規格を提供する。
- ・多岐に渡るXMLソリューションの構造、内容の各コンポーネントを融合させて、使用可能な一つのXML標準規格としてまとめあげる。
- ・複数言語をサポートする。

### 2.2.3 ビジネス上の必要要件

#### (1) 取引全般(各企業にとって以下の特徴を持ったソリューションを提供する)

- ・縦方向(例:業界、機能的、組織的)、及び横方向(例:業界横断、複数機能的、組織に依存しない)の両方のソリューションを提供する。
- ・中小企業への導入を考慮した、基本的・低コストのソリューションから、大企業向けの全てのオプションを含む包括的実装まで、広範な実装をサポートする。
- ・完全に相互運用可能なメッセージ搬送ソリューションを提供する。
- ・企業秘密扱いの取引を可能にするセキュリティ・ソリューションを可能とする。
- ・オープンでいつでもアクセス可能、かつ無期限に無償提供される技術仕様および技術標準とする。

#### (2) グローバリゼーション



- ・グローバル電子市場の実現のため、既存の情報交換規格の手法の単純化と実現手段の融和が必要になる。この単純化や融和は、文法的に中立なコアコンポーネントと連携した商取引メタモデルを開発することで可能になる。
- ・全ての作業は英語を用いる。他言語への翻訳はユーザの責任に委ねられる。
- ・文字コードはUnicode及びISO/IEC 10646、言語識別タグはInternet RFC 1766、言語名コードについてはISO 639、国名コードについてはISO 3166に準拠する。

### (3) 公開性(レジストリ・リポジトリ)

- ・公開性を確保するために、オープンでかつ簡単にアクセス可能なレジストリ(登録)、リポジトリ(データベース倉庫)を装備する。
- ・レジストリは、コンピュータアプリケーションはもとより、人間によるアクセスをサポートするインタフェースを持つ。
- ・相互通信可能なレジストリ・リポジトリのネットワーク構想をサポートする。例: 1レポジトリの内容から別のリポジトリの内容を参照可能

### (4) 相互運用性

ebXMLの相互運用性を最大限に確保するため、ebXMLアーキテクチャとして以下の特徴を持つ

- ・共通のビジネスプロセス(Common Business Process): 特定のデータ交換の当事者は、商取引の過程で双方共に同じトランザクションを実行している必要がある。
- ・共通のセマンティクス(Common Semantics): 使用される単語、表現方法、提示方法を明確にすることにより、意味の共通化を図る。
- ・共通の語彙、共通の表現方法、共通のセキュリティ実装、共通のデータ転送プロトコル、共通のネットワークレイヤー

ebXMLの相互運用性を最大限に確保するため、メッセージ搬送は以下を実現する。

- ・XMLを搬送することが出来る任意のネットワークを介して、メッセージの安全な送受信を実現する。
- ・署名、暗号化のサポートのため、ラッパー(包み紙)、ヘッダー、及びメッセージに含まれるその他任意のデータ形式、構造を規定する。

拡張性

- ・ebXMLでは、中核になる規格との一致を保証しながら、拡張性が提供されている必要がある。

#### 既存の技術との互換性

- ・企業には既に、各種EDI標準に基づく膨大なEDIアーキテクチャ及びビジネス・ソリューションが導入されている。
- ・ebXMLソリューションによって、唯一のグローバル電子市場が実現可能になるが、それでも依然として、元々稼動していた既存のEDI及びXMLソリューション(RosettaNet, BizTalk, XML.ORG, OAGなど)とebXMLの枠組み上に構築されたソリューションの間で相互動作できることを要求する。

#### 既存のEDI及びXMLソリューションからの移行

- ・既存のEDI及びXMLソリューションからの乗り換えは、ebXMLにとって鍵を握る要素であるが、ebXML技術仕様を開発する際、ebXMLの相互運用性を確保することが優先される。

#### (5) セキュリティ

- ・秘匿性、送信者の認証、受信者の認証、完全性、送信の否認防止、受信の否認防止機能を必要とする。

秘匿性:送信者及び受信者以外には、文書コンテンツを解釈できてはならない。

### 2.2.4 ebXMLの技術的枠組みの必要要件

技術的枠組み(フレームワーク)を構築するための要求仕様は、ebXMLのビジョン・目的・視野および方向性と合致するように、各プロジェクトチームとの密接な調整に基づいて定義されている。

#### (1) 一般的な要求仕様

- ・各技術チームの技術成果(Deliverables)は、ebXMLのビジョン・適用範囲及び基本理念に適合する形で開発され、ビジネス上の必要要件(2.3項)を満足すること。
- ・承認された、他のebXML技術仕様に全面的に適合すること。中核をなす必須機能と、オプション機能を明確に示すこと。

#### (2) 要求定義

- ・ebXML要求仕様を作成する。
- ・ebXML要求仕様に関して、必要に応じて、各技術チームに対して技術調整、サポートを行う。

#### (3) ビジネスプロセス

- ・ビジネスプロセスを定義する(BPDS: business process definition)ための技術仕様を提供

する。

- ・明示的に指定されたプロセス・メタモデルにより、中小企業から大企業までが産業横断的かつグローバルに使用することができる。
- ・ある組織が、別の組織にも解釈可能な形でビジネスプロセスの詳細を表現することにより、商取引における情報交換並びにビジネスプロセスの統合が可能になる。
- ・OAG, RosettaNet, HL7 等、蓄積された経験を ebXML の「スーパーセット:母集合 (superset)」に継承することにより、BPDSの互換性を提供する。
- ・BPDSの再利用性/拡張性を提供するために、企業が基準・テンプレート・または実際に用いられるビジネスプロセスを再利用・拡張可能にする。
- ・BPDSベースのビジネスプロセスをコンピュータでアクセス可能にするために、XML 等を用いて視覚的に表示可能にする。

#### (4) 技術アーキテクチャ

- ・ebXML仕様の各種コンポーネントの役割・相互作用及びインタフェースを規定する。コンポーネントとしては、ビジネス・プロセスのメタモデル、コアコンポーネント、レジストリ・レポジトリ、メッセージ搬送などがある。
- ・長期的な投資を抑制しつつ、ビジネスプロセス、及びこれを実現する技術の両方が独立して進化できるようにする。
- ・分散化されたビジネスプロセス及び新規・レガシーシステムを電子的に統合するための、ロードマップ及びメッセージ設計ガイドラインを提供する。

#### (5) コアコンポーネント

- ・ビジネスプロセス技術チームと連携し、ビジネスプロセス・メタモデルの枠内でコアコンポーネントを記述するための方法論を提供する。
- ・コアコンポーネントのコンテンツ及び構造を定義し、再使用及び拡張をサポートする。
- ・コアコンポーネントは、ANSI X12, UN/EDIFACTのような特定のシンタックスに依存しないが、必要に応じてISO/IEC 11179規則を導入する。
- ・XML/EDIのインスタンス化についての方法論と適用例を提供することにより、XML/EDIによる電子商取引標準の作成を可能にする。

#### (6) メッセージ搬送

- ・商取引文書(メッセージ電文)のエンベローピング方法を規定し、そのメッセージの搬送・配信方法(SMTP, HTTP, FTPなどの通信プロトコル)を規定する。

- ・柔軟なトランザクション境界の提供と、プラットフォームに依存しない相互運用性を提供する。
- ・信頼性の高いメッセージ転送及びエラー処理を提供することにより、サービス品質を納得できるレベルに維持する。
- ・セキュリティ関連の要求仕様を満たす。また、再起動および復旧をサポートする。

#### (7) レジストリ・リポジトリ

- ・開かれた管理プロセスを使用し、オープンかつ自由なアクセスが無期限に保証されており、既存・計画中の XML 取引規格のレポジトリとのインタフェースを持つ。
- ・技術仕様の保管と修正を可能にし、開発時及び運用時に閲覧可能とする。

技術仕様には、「既存の標準から将来の ebXML 標準への変換を可能にするマッピング・テンプレート」、「既存の仕様が進化を続けられる柔軟なワークフロー」、「ビジネスプロセスに用いられているコンテキストデータの定義方法」等が含まれる。

- ・システムサービスは必須サービスとオプションサービスから構成されている。

必須サービスには、「クエリーサービス」、「ワークフローサービス」、「ログ作成サービス」等があり、オプションサービスには、「オブジェクトを別の形式に変換するサービス(例: IDEF-1X XMI, XMI XML Schema)」、「ebXML 情報サービス」等がある。

### 2.3 ebXML イニシャチブ東京会議

第5回 ebXML イニシャチブ東京会議は、H12年11月6日(月)～10日(金)の間、臨海副都心のタイム24ビルで開催された。

会議には米・欧・東アジア等、海外から XML / EDI の実装に携わる、世界最先端のエキスパートを始めとして、約200名が参加した(国別参加者の比率は図 2-2図の通り)。

東京会議は ebXML イニシャチブにとって胸突き八丁とも言えるべき重要な時期に開催され、各プロジェクトチームから多くの活動成果(Deliverables)が提出された。主要な成果は以下の通りである。

- (1) 混乱気味であった個別チームの技術仕様が統一のアーキテクチャの基に整合できる見通しが立った。
- (2) それに基づく仕様検証デモが成功裏に行われた。
- (3) メッセージング仕様(V08)が承認された。

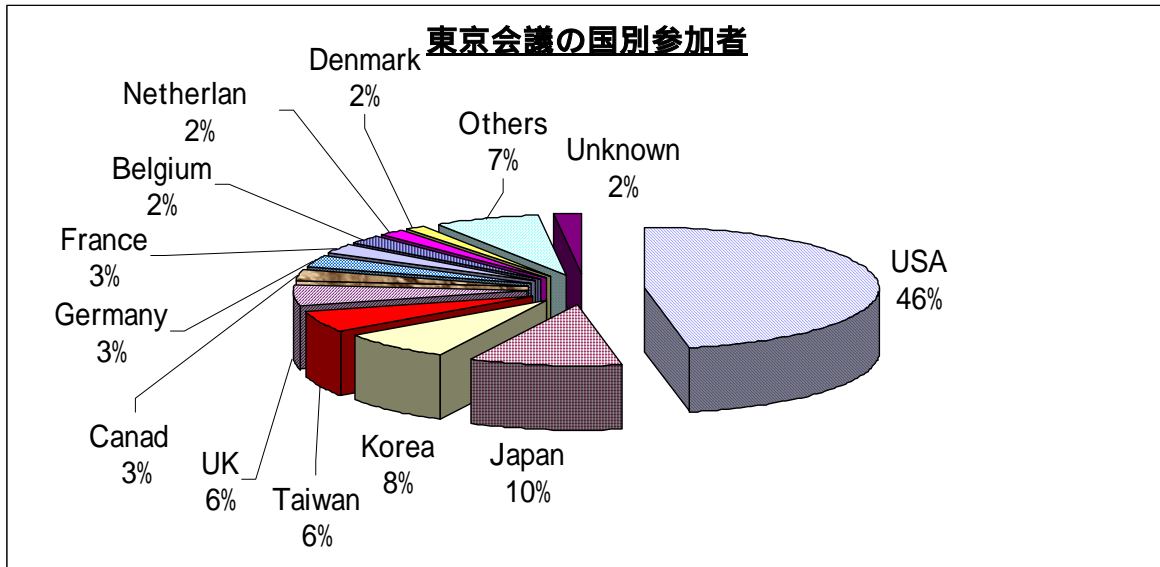


図 2-2

#### 2.4 ebXML東京フォーラム

電子商取引推進協議会(ECOM)では、日本の産業界でXMLソリューションを企画・推進している関係者を対象として、ebXML標準の具体的方向性を説明する場として、H12年11月11日(土)に下記内容のebXML東京フォーラムが開催された。

XML/EDIの実装に携わる、世界の最先端のエキスパートから直接話しを聞ける絶好の機会ということで、約300名が参加した。

主催: 電子商取引推進協議会		
協賛: コマースネットジャパン, 後援: EDI推進協議会		
日時 :	10:00 ~ 17:30	
場所 :	タイム24ビル 2階 セミナールーム1,2	
<b>プログラム</b>		
10:00 ~ 10:15	<b>開会挨拶</b>	宮川秀真 (ECOM 所長)
10:15 ~ 11:00	<b>ebXML 概説</b>	K. Naujok (ebXML 議長)
11:00 ~ 11:45	<b>技術アーキテクチャ</b>	A. Grangard (アーキテクチャ技術チームリーダー)
13:00 ~ 13:45	<b>ビジネスプロセス</b>	J. Clark (ビジネスプロセス技術チーム)
13:45 ~ 14:30	<b>コアコンポーネント</b>	菅又久直 (ECOM)
14:45 ~ 15:30	<b>ebXML デモンストレーション</b>	原裕貴, 岩佐和典 (富士通)
15:30 ~ 16:15	<b>レジストリ・リポジトリ</b>	S. Nieman (レジストリ・リポジトリチームリーダー)
16:15 ~ 17:00	<b>メッセージ搬送</b>	中垣俊平 (NEC)
17:00 ~ 17:15	<b>閉会挨拶</b>	木村紀 (コマースネットジャパン 国際部会長)

### 3 ebXMLの基幹技術仕様

ebXML仕様の骨格を構成している ビジネスプロセス(BP), コアコンポーネント(CC), 電子交換協定(CPP/CPA), メッセージ搬送(MSG), レジストリ・リポジトリ(R&R)の5つの中心的な技術仕様を説明する。

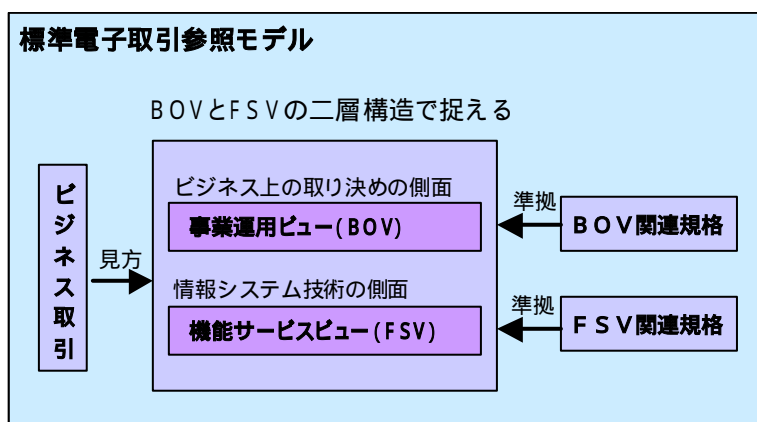
[ ebXML ]



ebXMLの技術構造は, 標準電子取引参照モデル(Open edi Reference Model, ISO 14662, JIS X 7001)を規範としている。

ここでは, 電子取引をビジネス記述部分(BOV: Business Operational View)とコンピュータ記述部分(FSV: Functional Service View)の二層構造で捉える。二層間のインタフェースを定義し, 相互独立性を維持することにより, それぞれの部分の独立した変更が可能となる。

この構成コンセプトは, ebXML仕様体系上は, BOVはBPとCCに展開され, FSVはTPA, TRP, R&Rに展開されている。



#### 3.1 ビジネスプロセス(BP)

ビジネスプロセス(BP: Business Process)は, BOVの領域の標準化を目指している。ebXMLビジネスプロセスでは, モデリング手法の統一化とモデリングで使用する標準パターンにより, ビジネスプロセス標準を実現する。このとき, ビジネスプロセスの表現はUML(Unified Modeling Language)の各種図で表現する。

実装対象となるビジネスプロセスは, 通常, 各業界が標準ビジネスプロセスを作成・標準化することになる。電子商取引を実行する各企業は, 業界で決めた標準ビジネスプロセスと必要に応じて, 自社の作成したビジネスプロセスを作成・登録することになる。

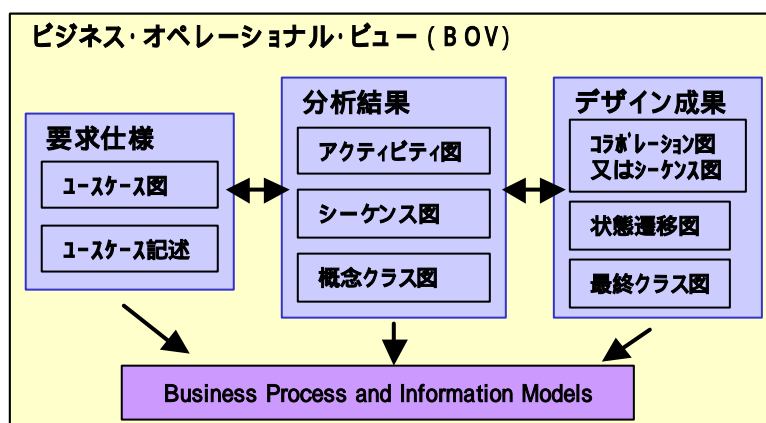


図 3-1

ビジネスプロセスのモデリングは、図 3-1のように3つの作業ステップで標準化を進める。

第1ステップ: ビジネスプロセスの要求仕様をユースケース図で表現する。これにより、ビジネスの範囲、ビジネスを構成するサブプロセス、およびビジネスに関する当事者 (Actor) が明確になる。

第2ステップ: ビジネスプロセス分析のステップとして、各ユースケースの具体的な定義、すなわちアクティビティ図、シーケンス図、概念クラス図を作成する。

第3ステップ: 最後のステップのビジネスプロセスのデザインでは、実装システムの構成要素 (ソフトウェア等) にマッピングできるように詳細な定義を行う。すなわち、コラボレーション図 (又はシーケンス図)、状態遷移図、最終クラス図を作成する。このデザイン成果 (UMLセット) がXMLに自動変換され、ビジネスプロセスシナリオになり、レジストリ・リポジトリに登録される。

第2ステップの分析フェーズでは、ビジネスプロセスの仕組みをアクティビティ図で表現する。

図 3-2の例は、ビジネス文書の要求と回答のプロセスフローパターンを示したアクティビティ図の一つで、現実のプロセス分析におけるテンプレートとなる。

これを含めて、プロセスフローパターンの基本テンプレートは以下の6種が用意されている。

ビジネストランザクション (Business Transaction)

回答文書付きビジネストランザクション (Commercial Transaction with Responding Business Document)

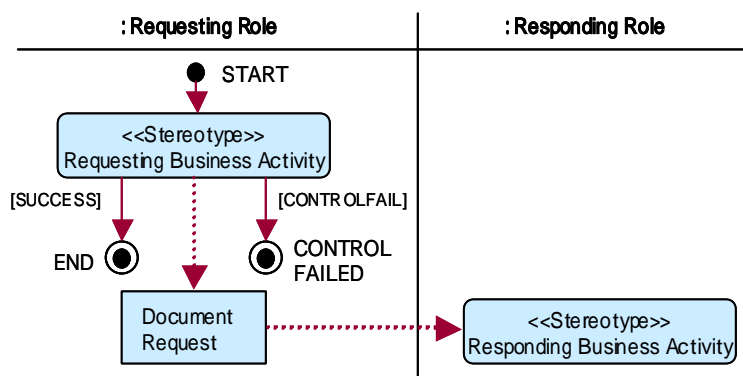
質問と回答 (Query/Response)

要求と回答 (確認) [Request/Response(Confirm)]

通知(Notification)

情報配布 (Information Distribution)

図 3-2  
プロセスフローパターン(アクティビティ図)



第3ステップのデザイン工程では、コラボレーション図(又はシーケンス図)を作成する。コラボレーション図は、取引当事者2者間と中間のエージェントを含めた3者間の5種類の標準テンプレートがある。

Service-Service

Agent-Service-Service

Service-Service-Agent

Service-Agent-Service

Agent-Service-Agent

コラボレーション図と同等のシーケンス図を図 3-3に示す。

本例は、取引当事者の2者間でのやり取り(Service-Service)でビジネス文書の交換(例:見積依頼,メッセージ受信確認,見積依頼受領,見積回答,メッセージ受信確認)を定義している。

シーケンス図(取引当事者2者間)

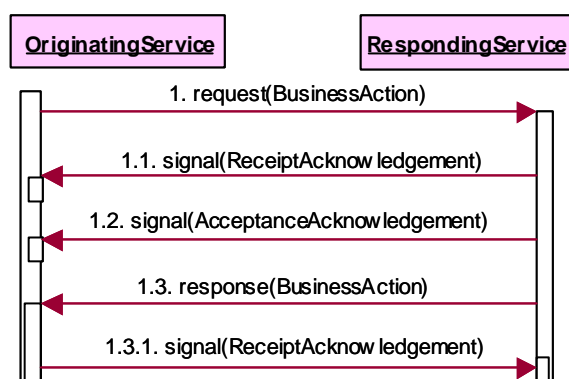


図 3-3



## 3.2 コアコンポーネント (CC)

コアコンポーネント (CC: Core Component) は、eXMLの核となるデータ構造を定義している。

例えば、取引当事者として企業を定義するには、取引先コード、企業名、住所の定義が必要である。また、住所には郵便番号、都道府県名、市町村名、建物名の情報が必要である。これらの構造化されたデータそれぞれをコアコンポーネントと呼び、eXMLのコアコンポーネントでは、この標準構造を定義する。

取引当事者は、ビジネスプロセスの中では、例えば、売り手、買い手、または運送業者の役割を持つ。これらのビジネスプロセス定義に関連付けられる情報を役割 (コンテキスト, context) として定義する。

企業内システムへの実装の観点では、ビジネスプロセス実行のための「シナリオ」が記述される。このシナリオは素材としてビジネスオブジェクトを利用する。

コアコンポーネントは、2種類の機能を持っている。

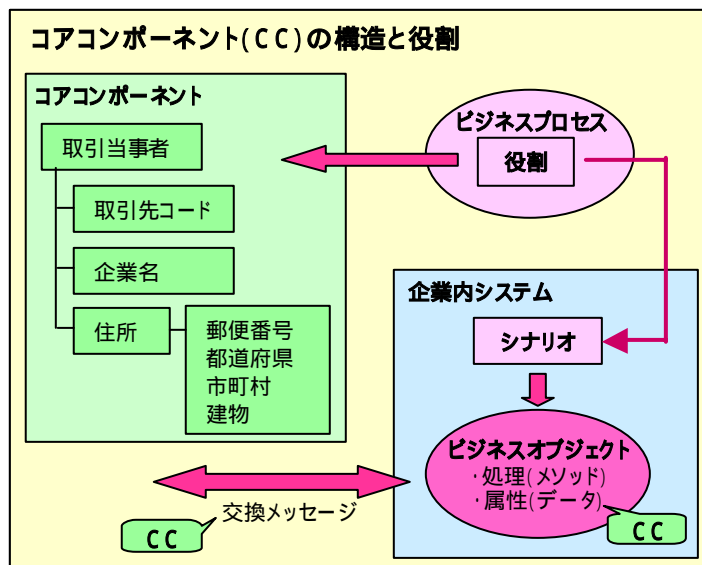
企業内アプリケーションで実行される処理コンポーネント「ビジネスオブジェクト」のデータ属性を定義する。

交換メッセージの構造化データを定義する。

コアコンポーネントで定義された構造化データが、EDIなどの交換メッセージ本体を構成することになる。

現在 (2000年12月)、eXMLのコアコンポーネント (CC) 候補として、33種が定められている。一部を以下に紹介する。

- ・取引当事者を特定するCC: 取引当事者名 (Party), 住所 (Address), 連絡先 (Contact)
- ・取引金額に関するCC: 費用 (Charge), 税金 (Tax)
- ・商品に関するCC: 商品分類 (Classification Goods/Service), 量 (Quantity)
- ・輸送に関するCC: 出荷情報 (Shipment Information), パッケージ方法 (Packaging)



### 3.3 電子交換協定 (CPP/CPA)

従来から、取引当事者間の契約(TPA:Trading Partner Agreement)は、次のように示すような内容に基づく「基本取引契約書」として、取引当事者間で紙ベースで作成され、取引開始前に交換されていた。

ビジネス取引契約、法的事項に関する項目(例:取引成立条件、準拠する法律、知的所有権、秘密保持、紛争時の管轄裁判所)

IT技術に関する項目(例:採用する通信プロトコル、暗号化方式、認証方式、採用するビジネスプロトコル)

eXMLでは、上記の (IT技術に関する)取引契約をオンラインで電子媒体ベースで契約を結ぶ。これをCPA(Collaboration-Protocol Agreement)と呼ぶ。

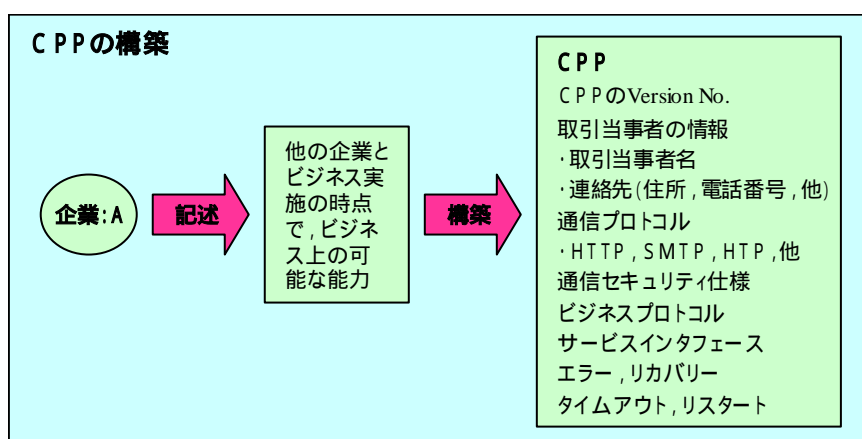
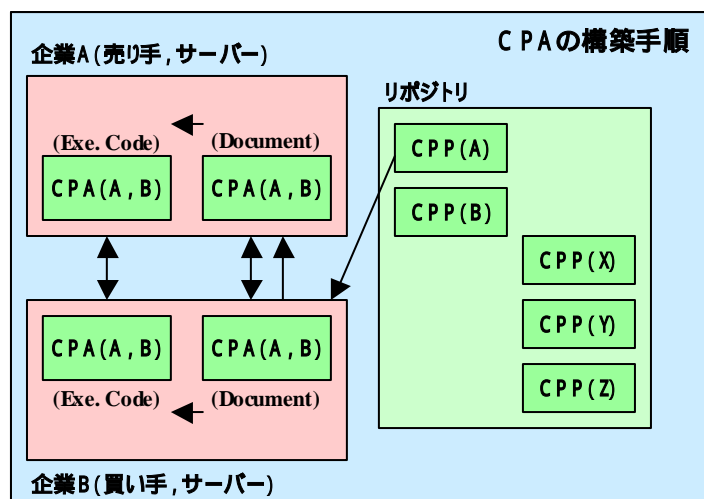


図 3-4

各取引当事者はインターネット取引に関する情報を、CPP (Collaboration-Protocol Profile)

として構築する。

図 3-4に示すように、CPPに含めて定義する項目には、取引当事者の情報、実行可能な通信プロトコル、通信セキュリティ仕様[暗号化仕様(S S Lなどのプロトコルの指定、X 5 0 9 . V 3などの認証仕様、鍵長さ、採用する認証局名とID No. など)、認証仕様]、ビジネスプロトコル、サービスインタフェース(例:注文書電文と応答の仕様)などがある。



取引を開始したい当事者同士が互いのCPPから合意の取れる範囲でCPAを作成し(自動的又は手動にて)、オンラインでの取引合意書として締結する。

リポジトリを含めてのCPA構築の手順は図 3-5のようになる。

それぞれの企業(A, B)のCPPをリポジトリに登録。

買い手企業(B)が、リポジトリに格納されている企業AのCPPを探し出し、自社のサーバにダウンロードする。

買い手企業(B)が、互いのCPPから、合意のとれると思われるCPAを作成し、売り手企業(A)に送付する。

二者間で、合意の取れるように調整する(ネゴシエーション)。

コンピュータ上で動作可能となるCPAを生成する。

EDIなどの電子商取引を開始する。

### 3.4 メッセージ搬送 (MSG)

e bXMLでの通信メッセージの搬送、経路、パッケージングの仕様を本仕様(Message Service Specification)で規定する。

通信メッセージの構造は、大きくヘッダーとメッセージ本体で構成される。ヘッダーは、メッセージ識別と経路ヘッダーで構成する。

メッセージ識別:メッセージ本体の識別を記述(例:注文書)

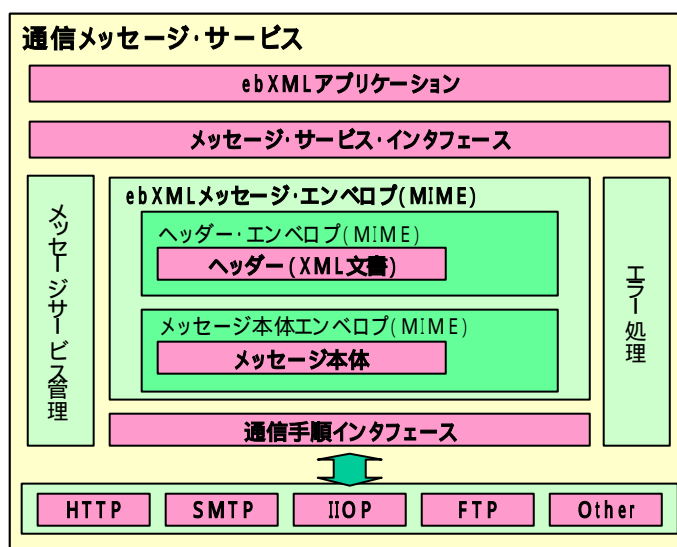
経路ヘッダー:経路情報を記述(例:From/To,TPA 情報,メッセージデータ,信頼性メッセージなど)

メッセージ本体は、EDI電文などの伝送内容が格納される。

それぞれは、MIMEのエンベロプで区分される。

通信プロトコルとして、HTTP、SMTP、IIOP、FTPをサポートする。

MIME(Multipurpose Internet Mail Extensions):インターネットの電子メールで、日本語など英語以外の言語や、マルチメディアデータを送るための拡張仕様。RFC1521、1522で仕様を規定している。



### 3.5 レジストリ・リポジトリ (R&R)

リポジトリ (Repository) は、ebXMLに関するデータベース倉庫であり、格納される主な内容は以下の3種類がある。

ebXMLの仕様

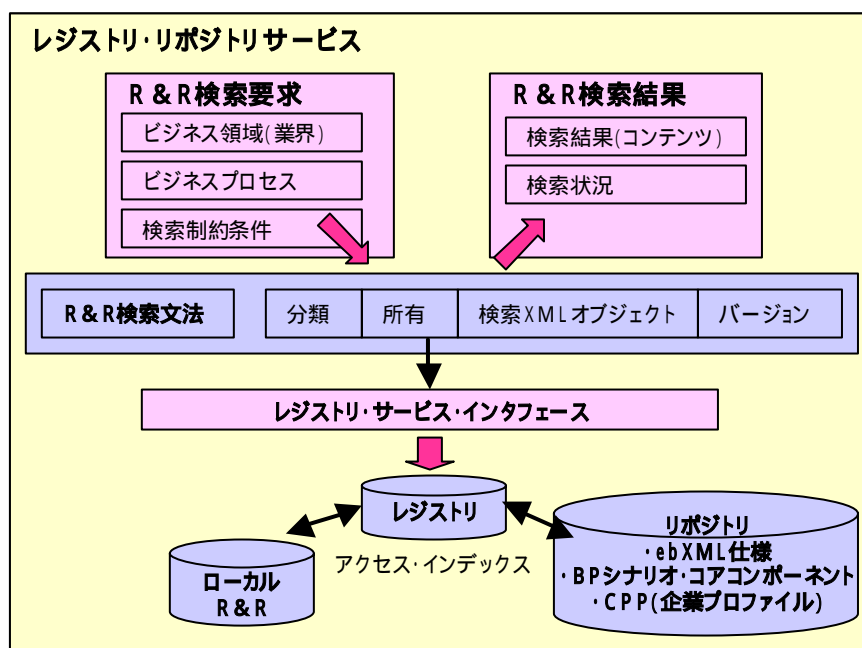
- ・ebXMLの仕様そのものが格納されて、オンラインで参照できる。
- ・ベンダが開発時に参照したり、各社のebXML適合システムを社内サーバに構築するときに参照される。

ビジネスプロセス定義のためのシナリオとコアコンポーネント

・業界標準および各企業毎にビジネスプロセスのシナリオ及び実行可能なコアコンポーネントが格納される。

企業プロフィール(CPP: Collaboration-Protocol Profile)

・CPA(取引合意書)構築のための、各企業毎の取引契約情報の基本情報が格納される。



リポジトリへのアクセスは、登録・参照ともレジストリ(Registry)経由になる。他にレジストリの機能として、更新、削除、有効期限の管理などがある。

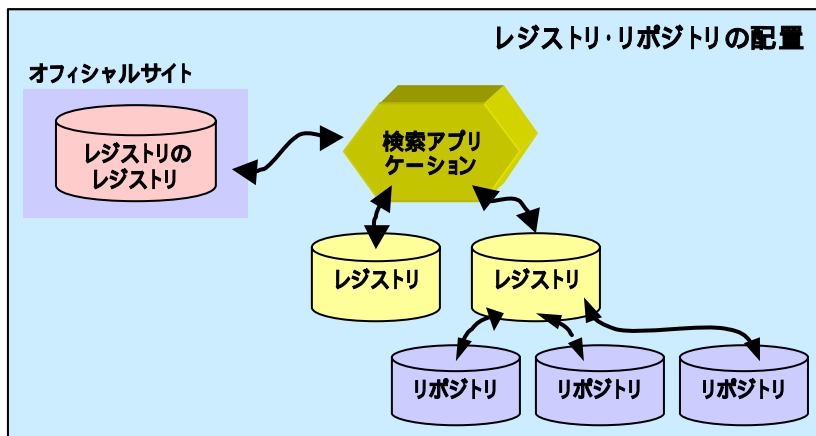
レジストリに分類(Classification)があり、リポジトリの内容(オブジェクト)とURLなどのアクセス・インデックスでリンクされている。

検索時は、検索条件として、ビジネス領域(業界)、ビジネスプロセス、バージョン番号、検索範囲、検索制約条件、検索結果出力内容指定などをパラメータにして検索要求する。検索要求に対し、検索用アプリケーションソフトは検索条件に従い、レジストリにリンクされているリポジトリから、自動的に該当項目を検索してくる。検索後、検索結果として指定された通り、コンテンツと検索状況が通知される。

レジストリおよびリポジトリは分散概念となっている。

企業毎に持つ場合とグループ毎、地域毎に持つ場合が考えられる。

複数の分散レジストリを検索するための「レジストリのレジストリ」が提案されている。



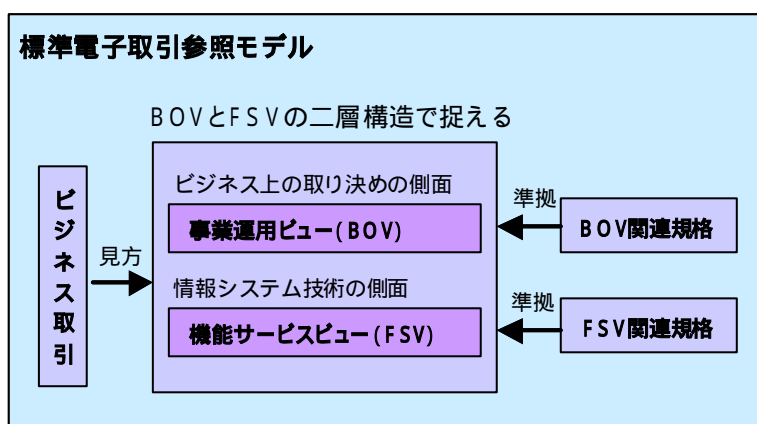
## 4 UN/CEFACT モデリング手法

本章では、次世代EDI基盤を提供する ebXML ビジネスプロセスに採用されている UN/CEFACT モデリング手法 (UMM: UN/CEFACT Modeling Methodology) について説明する。 UMM は、ビジネスプロセスをモデリングし、新時代の電子商取引に用いられる ebXML のみならず既存の EDI の開発にも適用できる。

**[ 国連 C E F A C T モデリング手法 ]** 国際 EDI は、現在 UN/CEFACT(United Nations/Center for Trade Facilitation and Electronic Business)を中心に標準化活動が展開されている。 UN/CEFACT の UMM ビジネスプロセスのモデリング手法では、ISO/IEC IS(International Standard) 14662 (JIS X7001 標準電子取引参照モデル)に定義される標準電子取引(Open edi) シナリオを記述する技法として、UML(Unified Modeling Language) を採用している。 標準電子取引参照モデルは図 4-1のように、IS 14662 の BOV(Business Operational View:事業運用ビュー) および FSV(Functional Service View:機能サービスビュー) の二層構造で把握されるが、UN/CEFACT モデリング手法の適用範囲については、前者の BOV を対象にしている。つまり、「商取引シナリオの記述に必要不可欠な、ビジネス上の意思決定および企業間の契約締結の側面に限定して表現する」と定義され、情報交換を伴うビジネスプロセスをシステムの実装に依存しない方法で仕様化/モデリングするための手順を提供する。

標準電子取引の BOV 仕様は、標準電子取引シナリオを実装するために選ばれたIT製品およびサービスに対して適用される要件である。BOV 関連の手法は、どのような FSV の実装にも対応できるビジネスプロセスおよび情報交換の仕様を提供する。

図 4-1



FSV の実装に分散オブジェクト技術、XML、UN/EDIFACT、CII、独自データプロトコル等いかなるビジネスプロトコルが使用されていても問題はない。

UN/CEFACT の主目的の 1 つとして、中小企業および新興経済圏が電子商取引に参加できるよう支援を行っている。そのために UN/CEFACT は低価格ソフトウェアコンポーネントの開発を可能にするビジネスナレッジを取り上げ、提供している。ビジネスプロセスおよび情報モデルを開発する際、システムの実装に依存しないように特に配慮することにより、開発した新規格が将来においても有効であることを保証できる。つまり XML などの新技術や、10 年先 15 年先に新しい技術が出現したときに、こうした新技術に合わせてモデルを再適用することが可能になる。

#### 4.1 作業フェーズおよび工程

作業フェーズおよび作業工程図

作業工程	作業フェーズ			
	モデルの設定	モデルの詳細化	システムの構築	実業務への移行
ビジネス領域モデリング	■			
電子ビジネス要件	■			
分析		■		
設計		■		
導入			■	
テスト			■	
展開				■

図 4-2 の作業フェーズは、モデリングの各作業フェーズにおける、UN/CEFACT の UMM 手法の適用範囲と、ソフトウェアベンダー (ISV : Independent Software Vendors) およびユーザの作業範囲を示している。UN/CEFACT 基準の開発プロセスでは、システムの実装に依存しないモデリングを最重要視している。そしてこのことはシステム開発における、ビジネス領域モデリング、電子ビジネス要件、分析および設計の各作業工程を通じて反映されている。UN/CEFACT のメッセージ設計 (EDIFACT, XML) は導入工程において実行されるが、実装プロセスの大部分は個別のソフトウェアベンダーに委ねられている。また、テストおよび展開工程は UN/CEFACT モデリング手法の範囲外である。

図 4-2

表 4-1 は各作業フェーズのアクティビティを示している。

モデルの設定およびモデルの詳細化作業フェーズでは、UMM はビジネスニーズを理解するために必要な工程に重点を置いている。そして、こうしたビジネスニーズに関する知識を元に、ビジネスシナリオ、ビジネスオブジェクト、ビジネス提携などが生み出される。

・ **ビジネス領域モデリング**工程では、企業間の EC アクティビティに関する意味合いを提供する。



これには、ビジネスの主要な構成概念を分類する際に用いることのできるビジネスプロセス概念図の作成等が含まれる。

・**電子ビジネス要件**工程では、企業間のアクティビティに関する要件を理解するための重要な情報として、ビジネスモデルを使用するビジネスの主要な構成概念に対する解説や、ユースケース図を作成する。

表 4-1  
UN/CEFACT の各作業フェーズのアクティビティ

作業フェーズ	アクティビティ
モデルの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初にアイデアをUMMを使用して文書化する。</li> <li>・適用工程: 1) ビジネス領域モデリング 2) 電子ビジネス要件</li> </ul>
モデルの詳細化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアを更に改良し拡張する。</li> <li>・適用工程: 1) 分析, および 2) 設計</li> <li>・成果物をリポジトリの既存のコンテンツと比較する。</li> <li>・新モデル或いは既存モデルに改良したものをリポジトリに組み入れる。</li> </ul>
システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EDIFACTメッセージ/OO-EDIメッセージが設計される。</li> <li>・XML DTD/スキーマの開発</li> <li>・ソフトウェア開発は ISVが行う。</li> <li>・適用工程: 1) 導入, および 2) テスト</li> </ul>
実業務への移行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テストは ISV が完成させる。</li> <li>・適用工程: 展開</li> </ul>

・**分析**工程では、ビジネス要件を記述したユースケースに対してモデルの詳細化が加えられる。すなわち、発生する可能性のある事ながらを元にモデルを詳細化し、ユースケースをさらに具体化し、活動中に生成された上位レベルのオブジェクトを識別する。また、必要に応じてこれらのオブジェクトに対してクラス図を作成する。

・**設計**工程では、当初作成したクラス図に詳細化されたモデルを加える。すなわち、オブジェクト同士がどのように連携しているかについて調べ、各オブジェクトが実業務へ移行することできるようにモデルを更に詳細化する。

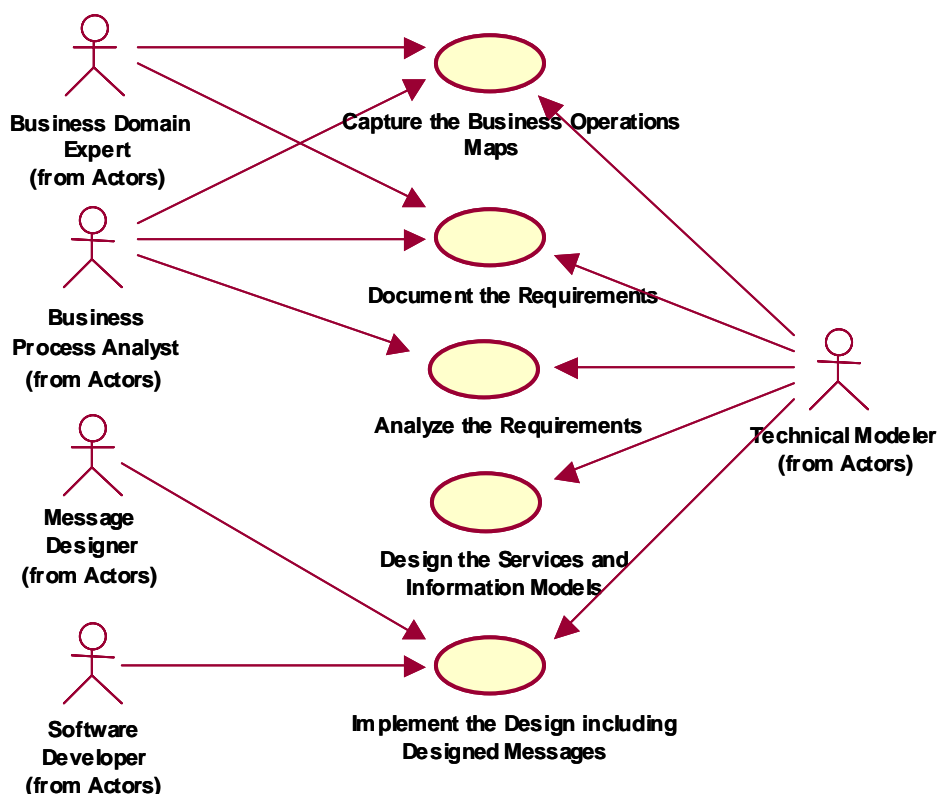
これらの各作業工程内には生み出される成果物がある。

原文書(UN/CEFACT-TMWG N090)にはテンプレートが用意されていて、これらの成果物が作成しやすくなっている。全てのプロセスは相互に影響しあっていて、追加や変更が発見され次第、その他の作業工程内で確認され取り込まれる。メンテナンスや改良に伴う追加や変更は必ず必要である。UN/CEFACT モデリング手法のユースケース図(図 4-3)では、UMM のビジネス領域モデリング、電子ビジネス要件、分析および設計の各作業工程において、ビジネス領域のエキスパ

ート, ビジネスプロセスのアナリスト, メッセージ設計者, ソフトウェア開発者およびモデル設計技術者がどのような役割を演じるかが描かれている。

図 4-3

UN/CEFACT モデリング手法のユースケース図(図1)



#### 4.2 UMM 成果物

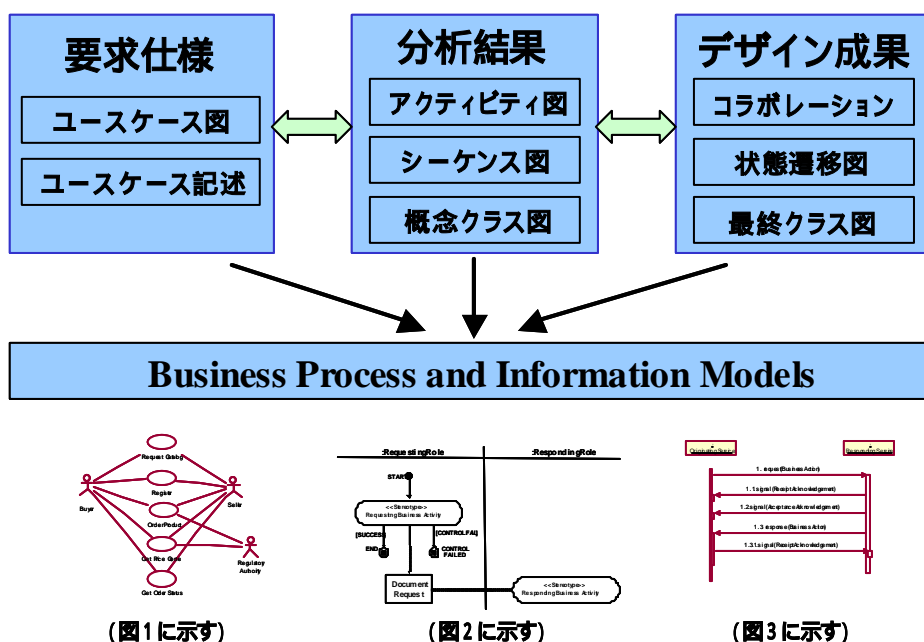
次ページの図 4-4では, 各作業工程における成果物が表示されている。

UMM ではまず, ビジネスをモデリングする作業から始め, UML パッケージとして表現されたモデルアーキテクチャとして, 最初のユースケース図を作成する。通常, ビジネスユースケースは, 先ず最初に作成する(トップレベルの)ビジネスアクティビティ図(図 4-5)として提供される。電子ビジネス要件工程では, 初めてビジネス管理者の要求が考慮される。通常, ここでアクティビティ図の第1案に対してさらにモデルの詳細化が加えられ, 新たなユースケースが見出される。こうしたユースケース, および結果として得られるアクティビティ図にはビジネス管理者の意向や企業の要求が大きく影響する。分析工程では, ビジネス役割間の連携に着目し, ビジネス情報の流れのパターンが割り当てられ, さらに, ビジネス役割間を流れる情報バンドル(information bundles)について, 理解を始める。こうした情報バンドルは, 概念的なクラス図を用いて表現できる。設計 (Design)

工程では、情報モデルを詳細に決定し、全てのクラスモデルに対してビジネスオブジェクトを適用し、サービスプロトコルのシンタックスおよび意味情報の詳細を決定し、ビジネスサービス相互作用 (Business Service Interaction) の各パターンを適用する。ビジネスオブジェクトライブラリのコンテンツは、今日多くの業界で用いられている既存のビジネスオブジェクトに照らし合わせて分析して、作成される。情報モデルと、同一の業種および他業種で保管されているその他のモデルを統合するには、まずは両者の間で調整を行う必要がある。

図 4-4

作業工程および生成物の概要図



### 4.3 UMM フレームワーク

UMM フレームワーク (UN/CEFACT Modeling Methodology Framework) は、工程の各作業フェーズで使用される相互関係、パターン、およびモデルの生成物を定義する。各作業フェーズにおいて、適切に定義された意味情報を持ったモデリング要素を使用したパターンに対して、メソッド (プログラム) が適用される。前ページの UMM フレームワーク表は、メソッド間の関係、パターン、およびこれらメソッドが工程の各作業フェーズに対して生成する成果物を示している。これらの成果物は UML で記述されており、実装段階では XML に変換されてシステム構築される。

### UMMフレームワーク表

作業工程	手法(メソッド)	パターン	モデル生成物 [UMLで記述]
ビジネス領域モデリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス領域分析</li> <li>・ユースケース分析</li> <li>・ビジネスプロセス探索</li> <li>・アクティビティのモデリング</li> </ul>	・ビジネスパターン	<b>BOM</b> (Business Operations Map) ・ビジネス分野 [パッケージ] ・ビジネスプロセス分野[パッケージ] ・ビジネスプロセス [ユースケース][アクティビティ図]
電子ビジネス要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要件収集</li> <li>・ユースケース分析</li> <li>・ビジネスプロセス分析</li> <li>・アクティビティのモデリング</li> </ul>	・ビジネス連携	<b>BRV</b> (Business Requirement View) ・ビジネスプロセス[ユースケース] ・ビジネス連携 ・ビジネス連携 [連携-ユースケースの実現]
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスプロセス分析</li> <li>・アクティビティのモデリング</li> <li>・概念クラスモデリング</li> </ul>	・ビジネストランザクションのモデリングパターン	<b>BTV</b> (Business Transaction View) ・ビジネス連携のprotocols [アクティビティ図] ・ビジネスTransactions [アクティビティ図] ・ビジネス 文書 (概念クラス) [クラス図]
設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスプロセス分析</li> <li>・ビジネス連携のモデリング</li> <li>・メッセージ シークエンス</li> <li>・情報モデリング</li> <li>・メッセージ モデリング (プロトコルに依存しない)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスサービスのインタラクションパターン</li> <li>・情報モデリングのパターン</li> </ul>	<b>BSV</b> (Business Service View) ・サービスの 連携 [オブジェクトの 連携] ・ネットワーク コンポーネント [クラス図] ・ビジネスサービス [クラス図] ・サービス トランザクション [シークエンス図] ・ビジネス 文書 (詳細) [クラス図]
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メッセージ翻訳</li> <li>・ソフトウェア開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メッセージ設計規約</li> <li>・UMLから XMLへのマッピング</li> </ul>	<b>FSV</b> (Functional Service View) ・コンポーネント図 ・メッセージ仕様 ・ソフトウェア コンポーネント

#### 4.4 UMM パターン

UMM パターンは、再利用可能なビジネスプロセスを一般化、抽象化したもので、多くの領域に適用可能である。パターンが規定する構造は、特定のビジネスプロセスシナリオの要件に合致している。パターンとは、共通のビジネスプロセスに対するアプリケーションである。この表現により、特定のビジネスプロセス領域に対して適用される共通の構造および意味情報を把握することができる。

プロセスフローパターン(アクティビティ図) (図2)

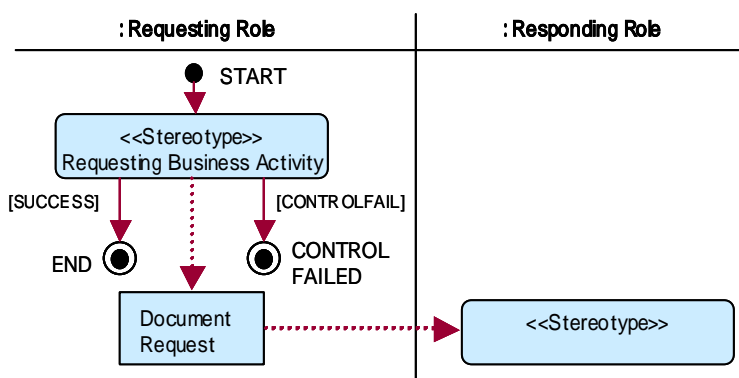


図 4-5

分析工程では、ビジネスプロセスの仕組みをアクティビティ図で表現する。

図 4-5の例は、ビジネス文書の要求と回答のプロセスフローパターンを示したアクティビティ図の

一つで、現実のプロセス分析におけるテンプレートとなる。

これを含めて、プロセスフローパターンの基本テンプレートは以下の6種が用意されている。

ビジネストランザクション(Business Transaction)

回答文書付きビジネストランザクション(Commercial Transaction with Responding Business Document)

質問と回答(Query/Response)

要求と回答(確認)[Request/Response(Confirm)]

通知(Notification)

情報配布(Information Distribution)

シーケンス図(取引当事者2者間)(図3)

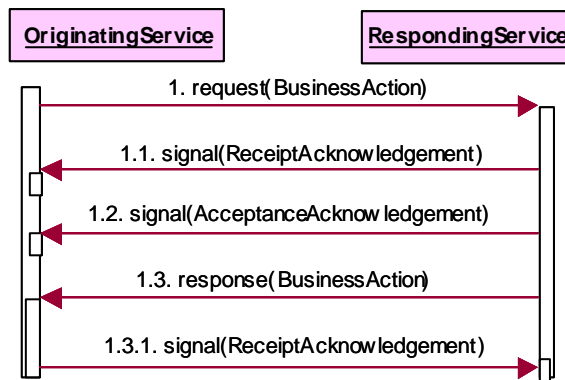


図 4-6

設計工程では、コラボレーション図(又はシーケンス図)を作成する。コラボレーション図は、取引当事者2者間と中間のエージェントを含めた3者間の5種類の標準テンプレートがある。

Service-Service

Agent-Service-Service

Service-Service-Agent

Service-Agent-Service

Agent-Service-Agent

コラボレーション図と同等のシーケンス図を図 4-6に示す。

本例は、取引当事者の2者間でのやり取り(Service-Service)でビジネス文書の交換(例:見積依頼,メッセージ受信確認,見積依頼受領,見積回答,メッセージ受信確認)を定義している。

## 5 ebXML 仕様の検証



### 5.1 ebXML ウィーン会議の概要

ebXMLイニシャチブ最後の第7回会議が、以下にて開催され、ebXML仕様(V1.0)が策定された。

**(1)日程:** 2001年5月7日(月)～11日(金)

**(2)場所:** ウィーン(オーストリア)

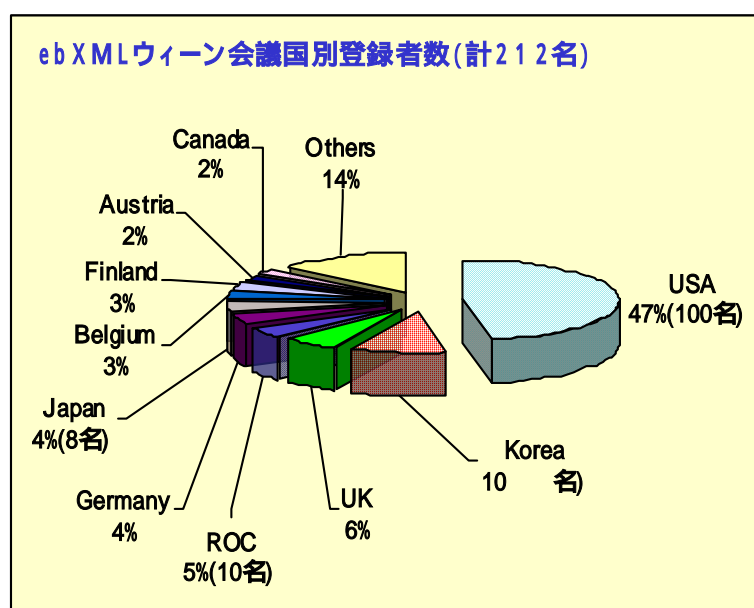
**(3)参加者:** 200名以上(登録者:212名)

今回の特徴は、アジア地域から多くの参加者があった。(韓国,台湾,日本)

**(4)成果:** 本会議の最大の成果は、当初計画通り18ヵ月の活動を経て、標準仕様書(V1.0)を完成したことにある。

品質レビューチームによる第三者検証、及び1～2回の公開レビューを経て、最終仕様を完成し、会議参加者により承認されました。仕様書類は、全体で25冊、約1,000ページ(英文)で構成されている。

仕様書類は、ebXMLホームページからダウンロードできる。(http://ebxml.org/)



## ebXML仕様書類(冊数)

技術チーム	SP	TR	REF	WP	計
要求仕様	1				1
技術アーキテクチャ	1	1	1	1	4
ビジネスプロセス	1	4		1	6
コアコンポーネント		9			9
レジストリ・リポジトリ	2			1	3
電子交換協定	1				1
メッセージ搬送	1				1
合計	7	14	1	3	25

SP: Specification(仕様書)

TR: Technical Report(技術レポート)

REF: Reference(解説文書)

WP: White Paper(作成中ドキュメントでプロジェクト内で承認)

### (5)今後の取組み体制

ebXMLイニシャチブの活動はウイーン会議を持って終了になったが、ebXML仕様の継続開発・維持管理及び周辺の活動は以下にて実施される。

ビジネスプロセス、コアコンポーネント関連仕様の継続開発・維持管理は、UN / CEFACTが実施する。

IT関連仕様のレジストリ・リポジトリ、電子交換協定、メッセージ搬送の継続開発・維持管理は、OASISが実施する。

上記の活動の調整及び周辺の活動の推進のため、ebXML調整委員会 (coordination committee)を設置する。(UN / CEFACT代表3名、OASIS代表3名、技術要員4名、普及促進担当1名で構成) **POCの概要と成果**

ebXMLイニシャチブのウイーン会議で大規模なPOC (Proof Of Concept, 仕様検証) デモが成功裏に実施され、ebXMLの仕様検証、及びebXMLが想定しているebXML準拠のeビジネスモデルの理解に貢献した。ここでは、POCデモの概要及びその成果を説明する。

#### 5.2.1 POCの参加企業

以下に示す31社が参加した。日本からは、富士通、NTTコミュニケーションズ、NTTデータの3社が参加した。

前回(2000年11月の東京会議)の16社に比較して倍増した。

• BEA Systems	• Data Access Tech.	• <b>NTT communications</b>	• Sun Microsystems
• Bind Systems	• <b>Fujitsu</b>	• <b>NTT Data</b>	• Sybase
• bTrade.com	• GE	• Mega	• Viquity
• Bowstreet	• Covisint	• Samsung SDS	• TIBCO
• CareData	• IBM	• Savvion	• webMethods
• Commerce One	• Intalio	• Schemantix	• XML Global
• Contivo	• IONA	• Seeburger	• XML Solutions
• Cydone Commerce	• IPNet	• Sterling Commerce	

## 5.2.2 今回の仕様検証の要点

前回の東京会議のPOC検証からのebXML仕様の完成度を考慮し、以下の要点で仕様検証を実施した。

TRP: SOAP V1.1の採用, デジタル署名‘XMLDSIG’の検証, 信頼性メッセージの検証

R & R, CPA: R & Rに格納されたCPPの発見, CPAの合成, CPAの契約

BP: モデリング手法UMMに基づいてモデリングし, ビジネスプロセスのBPSS仕様に準拠してビジネスプロセス定義を生成

CC: リューザブルのコアコンポーネントにコンテキストを加えて伝票メッセージの組立

仕様検証システムのネットワーク環境: 実際のインターネット網を利用してメッセージ交換

備考: BP (Business Process): ビジネスプロセスの定義方法や枠組の標準仕様

CC (Core Component): 商取引項目(データ要素, ビジネスオブジェクト)の構造, 表記方法, 項目の標準仕様

CPA (Collaboration-Protocol Agreement, 電子交換協定): 取引基本契約書のIT部分のオンライン契約に関する標準仕様

R & R (Registry and Repository): ebXML仕様で格納される, レジストリ(登録), 及びリポジトリ(データベース倉庫)の標準仕様

TRP (Transport, Routing, and Packaging, メッセージ搬送): メッセージ電文のパッケージング, 搬送, 及び配信の標準仕様

BPSS (Business Process Specification Schema): モデリング手法UMMに基づいて, ビジネスプロセスをXML言語で記述する標準仕様

## 5.2.3 電子交換協定の検証デモ(Track 0)

**(1)目的:** R & R, CPA, TRPの仕様の相互運用性を検証する。

**(2)方法:** R & Rに格納されている企業(Seller)のCPPを発見し, 2者間のCPAを構築する。メッセージ交換はTRP仕様のメッセージ搬送を利用する。具体的には以下の段階を踏んで検証する。



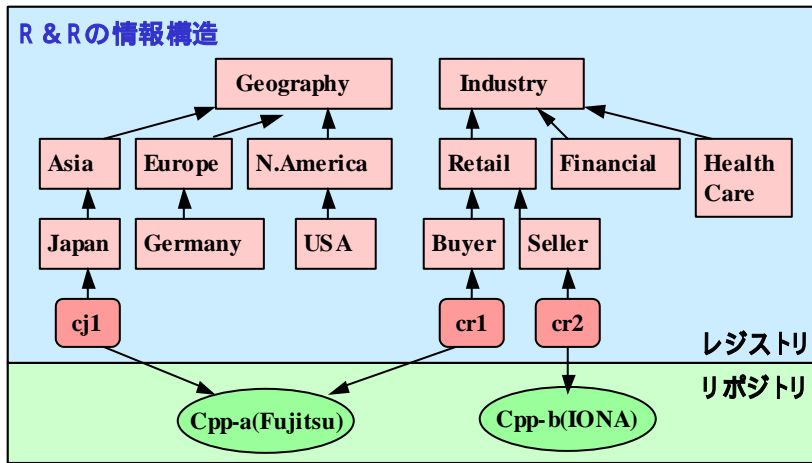


図 5-1

R & Rに、事前に、CPP (Fujitsu, IONA)を格納する。

図 5-1は、R & Rの情報構造 (RIM: Registry Information Model)を示す。それぞれの (長方形) はR & RのRIMオブジェクトを示す。レジストリの情報構造が、地理的情報構造、およびインダストリー情報構造のツリー構造に構築されており、CPPの検索が地理情報、インダストリー情報などで検索可能となっている。

cj1, cr1, cr2は分類オブジェクトで、リポジトリに格納されているCPPのポイント情報を持つ。

CPP (Collaboration-Protocol Profile): 取引基本契約書のIT部分に関する企業のプロフィール

CPA (Collaboration-Protocol Agreement): 取引合意書

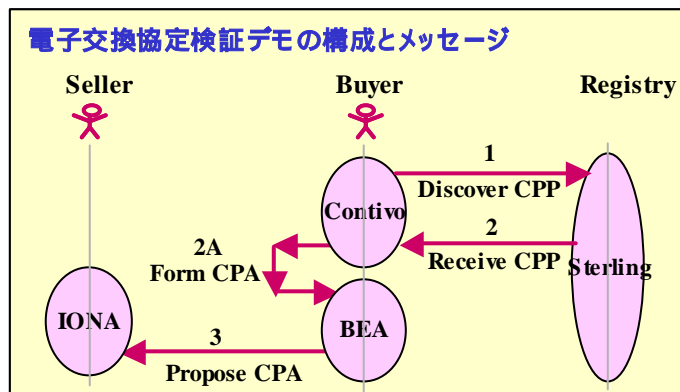


図 5-2 [CPA策定のプロセス(図 5-2)]

1: Buyerが、レジストリからSellerのCPPを発見の検索をかける

2: 発見されたSellerのCPPを受信する

2A: BuyerがCPAを構築する

3: Buyerが構築したCPAをSellerに提案する

### (3)検証成果

以下が実証された。

- ・R & Rの機能の実証, 相互運用性の実証 (Sterling, Contivo)
- ・CPAの機能, 相互運用性の実証 (Contivo, BEA)
- ・TRPの実証 (SOAP V1.1ベース)

備考: 図 5-2での会社名は本検証デモに参加した会社名を示す。

#### 5.2.4 eマーケットプレイスでの受発注・出荷・決済の検証デモ(Track 1)

**(1)目的:** 複雑なビジネスモデルをebXML仕様上で稼動することを検証する。

**(2)方法:** eマーケットプレイスでの小売のビジネスを想定して, 受発注から商品の出荷, 銀行決済までのビジネスプロセスを, ebXML仕様に準拠して動作させる。

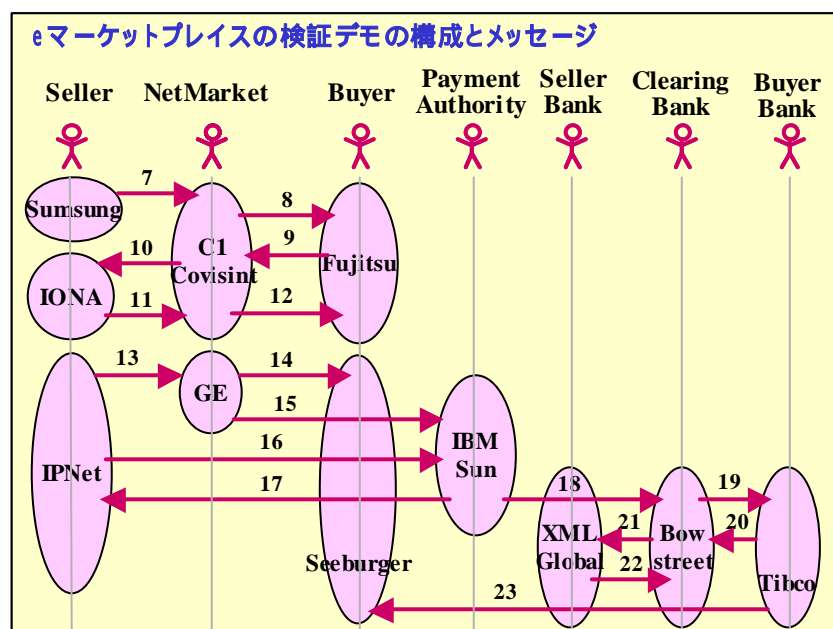


図 5-3

#### [ビジネスモデル]

eマーケットプレイス経由で商品を購入し, 商品の出荷案内の受領, 及び支払い機関を通して商品の対価の支払い決済を以下のビジネス電文の交換で実施する。

##### 受発注(7~12)

- 7: SellerがNetMarketに商品登録
- 8-9: Buyerが商品カタログを入手し, 商品を発注
- 10-12: NetMarket経由, 商品発注, 受領書受領

##### 出荷(13-14)

SellerがNetMarket経由Buyerに出荷案内書を送付

## 支払い決済(15-23)

15: NetMarketが支払機関に支払い処理を委託

16-17: Sellerからの請求書発行と受領通知

18-22: 支払機関からの指令により銀行決済

23: 取引銀行から商品の対価の引き落としを通知

備考: 図 5-3での会社名は本検証デモを実施した, 担当の会社名を示す。

### [採用した標準メッセージ]

左表のように, RosettaNet, OAG, ANSI - X12,

ebXMLのCC, SWIFT, OFXの各メッセージを採用した。

標準メッセージと準拠標準	
(7) Sales Product Notification	RosettaNet PIP2A1
(8) Product Catalog	OAG BOD128
(9) Place Order	OAG POBOD#3(Reliable Messaging)
(10) Purchase Order	ANSI vXXXX 850
(11) Purchase Order Ack	ANSI vXXXX 855
(12) Place Order Ack	OAG POA BOD #4
(13, 14) Advance Shipment Notice	AIAG
(15) Payment Authorization	ebXML Core Component
(16, 17) Invoice & ACK	ebXML Core Component
(18) Settlement Authorization	ebXML Core Component
(19) Payment Request	SWIFT
(20) Funds Transfer	SWIFT
(21, 22) Funds Transfer & ACK	OFX
(23) Statement	OFX

### (3)検証成果

- ・TRP(メッセージ搬送)機能が, ebXMLのCC準拠のメッセージだけでなく, 従来から多くの実績のある業界標準メッセージでの交換が可能であることが実証された。
- ・eマーケットプレイス経由の調達, 及びその後の支払い決済までの大規模なビジネスプロセスを, ebXML仕様の適用システムで構築可能であることを示した。
- ・TRPに信頼性メッセージを組み込んで, インターネット上で, セキュリティの高いメッセージ交換を実現した。

## 5.2.5 医療分野の検査データ交換の検証デモ(Track 2)

**(1)目的:** 受発注と異なるビジネスモデルを持つ, 医療の検査データ交換ビジネスモデルをebXML仕様上で稼動することを検証する。

**(2)方法:** 医療分野で多くの実績を持つ, HL7準拠の標準メッセージをebXMLのTRP仕様上に載せて動作させる。

**(3)検証成果:** 患者の病院登録から、検査機関での検査実施、検査結果の病院への通知までのビジネスモデルをebXMLのTRP仕様上で動作・実証した。XMLDSIG準拠のデジタル署名を含んだセキュリティ機能メッセージ搬送を実証した。

#### 5.2.6 モデリング手法UMMに従ったビジネスプロセスの構築の検証デモ

**(1)目的:** ビジネスプロセスのモデリング手法、及びBPSS仕様を検証する。(アプリケーションレベルでの明確な相互運用性の検証)

**(2)方法:** UMMに従ってビジネスプロセスをモデリングし、その結果をBPSS仕様形式で保存するビジネスプロセスエディタを実演する。対象のビジネスプロセスはTrack1、Track2のものを使用する。(IONA、Mega、Bind Systems、富士通が担当)

**(3)検証成果:** UMMにより実際のビジネスプロセスがモデリングできることを実証した。また、BPSS仕様に準拠してツール間(4社の独立なツール)のビジネスプロセスモデルの相互交換が実証された。

#### 5.2.7 ビジネスサービス(アプリケーション)の構築デモ

**(1)目的:** BPSS仕様準拠のビジネスプロセス定義文書から、アプリケーションシステムを構築可能なことを検証する。

**(2)方法:** OMG提供の‘Enterprise Collaboration Architecture’に基づいて、BPSS仕様で定義されたビジネスプロセスプレート部品を素材に、ビジネスプロセスサービスを構築する。(Data Access Tech.が担当)

**(3)検証成果:** ebXMLビジネスプロセスのBPSS定義文書から、アプリケーションシステムを構築できることを実証した。

#### 5.2.8 コアコンポーネントを用いたメッセージ構築の検証デモ

**(1)目的:** コアコンポーネント仕様に基づいてユーザ定義メッセージを構築できることを検証する。

**(2)方法:** VISA請求書伝票を想定して、ebXMLコアコンポーネントから伝票メッセージのDTD定義を作成する。

コアコンポーネント仕様が定義したリユーザブルなコアコンポーネント部品を利用して、ユーザ固有のコアコンポーネントリストを作成する。

別途、伝票の項目構成を規定する伝票アセンブリリスト、及びユーザ固有のコンテキスト(文脈)ルールの両方をXML文書で作成する。

これらを自動合成して、ユーザ固有の伝票メッセージのDTD定義を作成する。

**ユーザ固有コアコンポーネントリスト(抜粋)**

```
<SimpleCC UID="100001" Type="Text">
  <Name>AbsoluteDate</Name>
</SimpleCC>
<SimpleCC UID="100002" Type="Text">
  <Name>PaymentDate</Name>
</SimpleCC>
<SimpleCC UID="100003" Type="Text">
  <Name>Tax Value</Name>
</SimpleCC>
<ComplexCC UID="100004">
  <Name>PaymentTerms</Name>
  <EmbeddedList>
    <EmbeddedC UID="100032">
      <Name>PaymentTermType</Name>
      <Occurs Min="1"Max="1"></Occurs>
    </EmbeddedC>
    <EmbeddedC UID="100001">
      <Name>AbsoluteDate</Name>
```

**構築したVISA請求書メッセージのDTD定義(抜粋)**

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!ELEMENT Invoice (InvoiceHeader,InvoiceDetails+,InvoiceSummary)>
<!ATTLIST Invoice sectorUsageVersion CDATA #IMPLIED>
<!ELEMENT InvoiceHeader
  (InvoiceType,InvoiceStatus,TaxTreatment,DiscountTreatment?,InvoiceTre
  atment,InvoiceNumber,InvoiceDate,TaxPointDate?,Currency,Party*,Paym
  ent?,PONum?,DeliveryNoteNum?,Ref*,Date*,GenText*)>
<!ELEMENT InvoiceType (#PCDATA)>
<!ATTLIST InvoiceType stdValue (380|381) '380' stdName (UNTDID:1001)
  'UNTDID:1001'>
<!ELEMENT InvoiceStatus (#PCDATA)>
<!ATTLIST InvoiceStatus stdValue (9|10|53) '9' stdName (UNTDID:1225)
  'UNTDID:1225'>
<!ELEMENT TaxTreatment (#PCDATA)>
<!ATTLIST TaxTreatment stdValue (NIL|GIL|NLL|GLL|NON) 'NLL' stdName
  (VISA:TAXT) 'VISA:TAXT'>
<!ELEMENT DiscountTreatment (#PCDATA)>
.....
```

**(3)検証成果:** ebXMLコアコンポーネントが標準化した,リユーズブル(再使用可能)なコアコンポーネントを利用して,ユーザ固有のメッセージを構築できることを実証した。

**5.3 ECOMの本(H13)年度の活動**

ECOMでは,昨(H12)年度に引き続き,XML/EDI標準化委員会,及びXML/EDI普及促進ワーキンググループを設置して,ebXML仕様のフォロー,普及促進活動を精力的に推進致します。

**XML/EDI標準化委員会**

(メンバーは有識者で構成)

・ebXML標準の技術アーキテクチャ,及び標準の開発・保守の管理体制を検討する。小委員会を統括する。

**ビジネスプロセス標準化小委員会**

・ビジネスプロセス,コアコンポーネント(BOV関連)について調査・検討する。ebXML関係会議に参加する。

**技術情報フレームワーク小委員会**

・レジストリ・リポジトリ,電子交換協定,メッセージ搬送(FSV関連)について調査・検討する。ebXML関係会議に参加する。

**XML/EDI普及促進ワーキンググループ**

(メンバーはECOM会員,IEDIC会員で構成)

・ebXML標準準拠のプロジェクトの調査,解説書の作成,研修会の実施など推進する。サブワーキンググループを統括する。

**シンプルEDIサブワーキンググループ**

・UN/EDIFACT及びCIIのXML化プロジェクトにおいて,ebXML標準基盤上でどのような簡易実装が可能か調査・検討し,実装ガイドラインを作成する。

**アジア地区普及サブワーキンググループ**

・ebXMLアジア委員会(日・韓・台湾)にて取り上げられるテーマにつき検討する。

## 6 ebXML 後の新体制

本章では、ebXMLイニシャチブ終了後の体制と日本での対応等を説明する。

### 6.1 ebXMLの新しい体制と活動内容

ebXML イニシャチブの所期の活動は、世界のユーザ業界と IT ベンダーに合意された電子ビジネスのためのフレームワーク関連仕様を発表し、2001 年 5 月に終息した。その後の ebXML 仕様の拡張および保守については、ビジネス適用に関する仕様(BOV)は UN/CEFACT が、IT の実装に関する仕様(FSV)は OASIS が引き継ぐ事になり、精力的な活動が開始されている。日本からも積極的な参加が期待される。

UN/CEFACT: UN/EDIFACT の標準化を進めている国連の組織

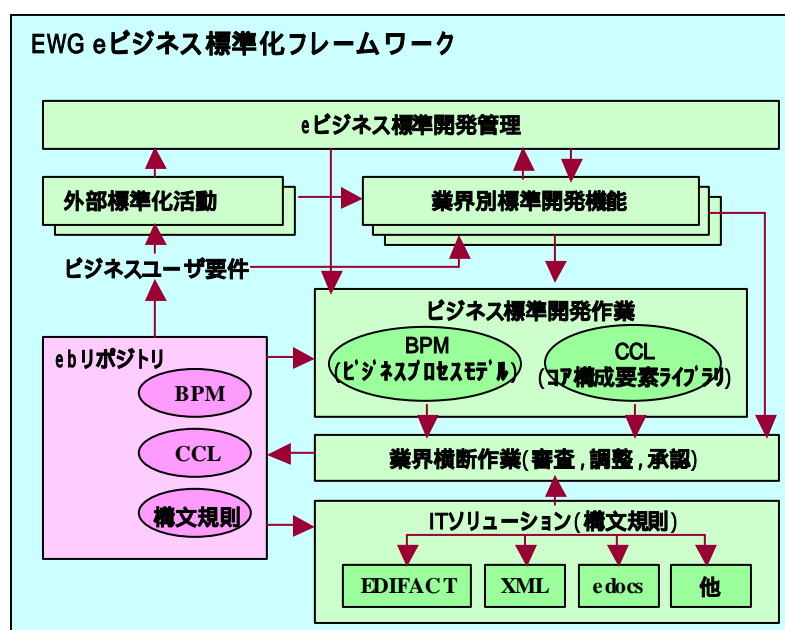
OASIS: 高度構造化情報システム推進組織、米国主体のコンピュータ企業と各種業界団体の幅広いコンソーシアム

#### (1) UN/CEFACT 配下での ebXML の活動

ビジネス適用に関する仕様(BOV)、すなわちビジネスプロセスの標準化とコア構成要素の標準化についての取り組みは、平成 14 年 3 月現在、eBTWG(e Business Transitional ad hoc WG: UN/CEFACT-EWG 内の新体制移行グループ)の基で推進されている。

なお、2002 年 5 月以降は、UN/CEFACT-EWG の新体制(eBWG)による ebXML 仕様の拡張・保守が開始される予定である。eBWG では、図 6-1 に示す e ビジネス標準化フレームワークに示す各活動を実施する予定である。

図 6-1



## (2) OASIS 配下での ebXML の活動

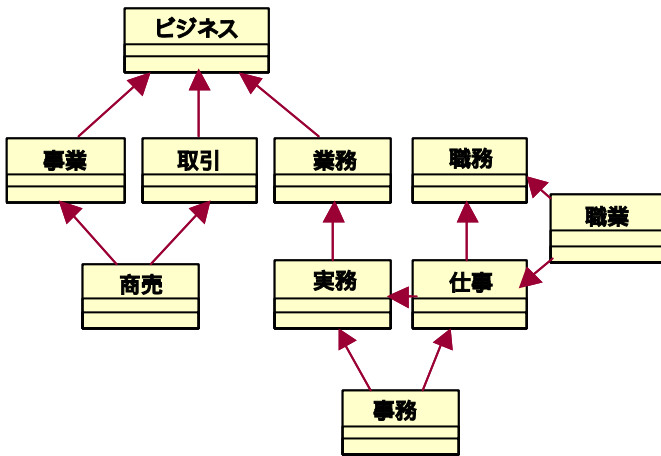
OASIS 配下では、ebXML に関する TC (Technical Committee, 技術委員会) が 2001 年 7 月から設置され、活動を開始している。

TC	位置付け	活動内容	備考(会議日程など)
ebXML Messaging TC	・ ebXML イニシャチブの TRP (Transport, routing, and Packaging) プロジェクトチーム活動を OASIS の TC として引き継いだもの	ebXML TRP 仕様 V1.0 のメンテナンス 新しい機能仕様の開発 [スケジュール] ・ V1.1 の開発 (V1.0 のメンテナンス版) : 2001 年 12 月 ・ V2.0 の開発 (二次開発) : 2002 年 9 月	第 1 回 TC: 2001-7-17,18 第 2 回 TC: 2001-10-3,4,5
ebXML Registry TC	既に実在している OASIS Registry/Repository TC 活動に ebXML Registry/Repository 仕様を取り込む。かつ TC の名称を変更した	2 種の ebXML Registry/Repository 仕様書 [RIM (Registry Information Model V1.0, RS (Registry Service Specification V1.0)] のメンテナンス UDDI レジストリに ebXML レジストリを載せるために 'T-models' 仕様を開発する [スケジュール] 次期バージョン : 2002 年 4 月	第 1 回 TC: 2001-9-24,25,26
ebXML CPPA TC (Collaboration Protocol Profile and Agreement)	・ ebXML イニシャチブの TP (Trading Partners) プロジェクトチーム活動を OASIS の TC として引き継いだもの	ebXML CPP/CPA 仕様 V1.0 のメンテナンス 新しい機能仕様の開発 (例: CPA ネゴシエーション) 技術レポート、実装ガイドラインなどの作成 [スケジュール] ・ V1.1 の開発 (V1.0 のメンテナンス版) : 2002 年 3 月 ・ V2.0 の開発 (二次開発) : 2002 年 12 月	第 1 回 TC: 2001-7-25,26 第 2 回 TC: 2001-10-1,2,3
ebXML IIC TC (Implementation, Interoperability, and Conformance)	・ ebXML イニシャチブの POC (Proof of Concept) プロジェクトチーム活動を OASIS の TC として引き継いだもの	コンFORMANCE 計画の作成 (コンFORMANCE の作成, コンFORMANCE と相互運用性のテスト仕様の作成, 他) API を含む実装ガイドラインの作成 [スケジュール] ・ コンFORMANCE 計画の作成 : 2001 年 11 月 (第 1 版) ・ 全体の仕様作成の目標: TC 発足から 1 年以内	第 1 回 TC: 2001-8-14
UBL TC (Universal Business Language)	複数の B2B の XML ビジネス電文が発生している混乱を整理するために新規に発足する TC	実在している B2B の XML ビジネス電文を統合する XML ベースコンポーネント (ビジネス電文項目) の開発 JCC と連携する [スケジュール] 発足から 1 ~ 2 年間で開発	第 1 回 TC: 2001-10-29

## 6.2 ebXML の日本語用語集の作成

ebXML 仕様は、電子ビジネスコラボレーションをその中核の概念とし、Open-edi、オブジェクト仕様、そして XML という新しい技術で構築されている。そのため、定義に使用される英語も新しい概念を紹介するものが多く、適切な日本語化が必要になっている。例えば、「Business」という英語を訳するとき、図 6-2 に示す広範囲な意味解釈が存在している。ECOM で主催している「XML/EDI 標準化専門委員会」では、これらの「Business」に関する語句の日本語の定義作業を進めており、その日本語訳を次ページ表のように定めた。この表の日本語訳以外にも、ebXML 仕様で使用されている英文語句の日本語訳及びその定義を定めている。(190 語句)

図 6-2



英文	日本語訳
Business	意味に従って、ビジネス・業務・取引を使い分ける
Business Library	ビジネスライブラリ
Business Activity	業務アクティビティ
Business Collaboration	取引コラボレーション
Business Collaboration Framework	取引コラボレーションフレームワーク
Business Collaboration Knowledge	取引コラボレーション知識
Business Context	ビジネスコンテキスト
Business Document	取引文書
B	ビジネスエンティティ
Business Entity Class	ビジネスエンティティクラス
B	業務専門家
Business Information Group	業務情報集合
B	ビジネスオブジェクト
Business Operations Map	事業構成定義
Business Operational View (BOV)	事業運用ビュー
Business Partner	取引参加者
Business Process	ビジネスプロセス
Business Process Interface	ビジネスプロセスインタフェース
Business Process Specification Schema	ビジネスプロセス仕様スキーマ
Business Profile	ビジネスプロフィール
Business Requirements View	取引要件ビュー
Business Rule	取引規則
Business Service Interface	取引サービスインタフェース
Business Service View	取引サービスビュー
Business Transaction	取引トランザクション
Business Transaction V	取引業務ビュー
Common Business Library	共通ビジネスライブラリ
Common Business Process	共通ビジネスプロセス
Electronic Business	電子ビジネス
Simple Electronic Business	シンプル電子ビジネス

### 6.3 ベーシックEDIの推進

#### (1) ベーシックEDIとは

従来のEDIで使われてきたメッセージ(データ項目、データ構造)やコードなどの標準をそのまま継承し、シンタックスルールとしてXMLを、ネットワークとしてインターネットを用いてEDIを実現する手法がある。ECOMではXML/EDI普及促進ワーキンググループの下にこの手法について調査するサブワーキンググループを設置・活動しており、この手法をベーシックEDIと名付けている。(図6-3参照)

わが国においては、CII標準に基づいたベーシックEDI(CII/XML)を構築するための技術的検討を行う目的で、2000年度に(財)日本情報処理開発協会(JIPDEC)電子商取引推進センターに「CII/XML技術委員会」を設置し、CII標準に基づくEDIメッセージをXMLにマッピングするためのルールを策定、公表した。



図 6-3



### (2) ベーシック EDI の目標

- ・導入と運用が簡単で、低コストの EDI を実現する。  
(中小企業も EDI コミュニティの仲間呼び込む。)
- ・産業界が CII 標準等の開発で集積した知的資産をそのまま継承する。(既に使われている実績のある標準メッセージとビジネスプロセスが使える。)
- ・各社各様の画面設計や操作性などに起因する Web-EDI の弊害を克服する。
- ・表計算など簡易な情報処理ツールと連携する。・ebXML (国際標準) の仕様の良いところは取り入れ、ツールの共用等によりシステム構築のコストダウンを図る。

### (3) ベーシック EDI の適用

ebXML 仕様はオブジェクト指向や Open-edi などの新しい手法を導入し、新しい XML/EDI の国際標準を構築するフレームワークとして重要である。

しかし、業界によっては、業務の合理化にはこれまで利用してきた EDI の取り決めで充分でありこれをより多くの企業(特に中小企業)に普及させたいと考えている。この場合、新しいビジネスモデルを再設計する必要はなく、ベーシック EDI の適用が適切と思われる。

図 6-4に示すように、XML は従来型 EDI のメッセージを表現することが可能である。



### (3) 会議メンバー

- ・ 日本: ECOM(電子商取引推進協議会)
- ・ 韓国: KIEC (Korea Institute for EC)
- ・ 台湾: TCA(Taipei Computer Association) , III (Institute for Information Industry)
- ・ マレーシア: Dagang Net Commerce

### (4) 会議開催経緯

- ・ 第1回: 2000年12月[韓国]ソウル] 第3回: 2001年7月[日本]東京]
- ・ 第2回: 2001年4月[台湾]台北] 第4回: 2001年11月[韓国]ソウル]

### (5) 作業項目及びアクション項目

表 6-1

作業項目	アクション項目
① ebXML 仕様の採用の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>● TCA により提案された ROCBA 向けの ebXML MSG 仕様実装ガイドのスタディ</li><li>● AFACT XML WG はこの実装ガイドをスタディ</li></ul>
アジア地域での ebXML の普及	<ul style="list-style-type: none"><li>● 2002年4月に KIEC POC デモの実施</li><li>● 次回の AFACT 会議で ebXML 普及のセミナー / ワークショップを開催する。</li></ul>
Web サービスソリューションをベースにした ebXML 実装のための IT フレームワークの検討	<ul style="list-style-type: none"><li>● ECOM はステディペーパードラフトを用意</li></ul>
ebXML 仕様開発活動への参加と貢献	<ul style="list-style-type: none"><li>● KIEC はレジストリ間統合モデルを準備する。</li><li>● TCA は, MSG 仕様 V2.0 に向けた解決すべき問題点リストを準備する。</li><li>● ECOM は, UMM と CC/BIE のための BIM のアイデアを提供する。</li></ul>

#### 6.4.2 アジア地区普及サブワーキンググループ

ebXML アジア会議の日本での受け皿として, XML/EDI 普及促進ワーキンググループ内に本 SWG を設置して活動している。

(1)役割: ebXML アジア会議にて取り上げられるテーマについて検討・推進する。

(2)SWGメンバー: ECOM 会員

(3)進捗状況: パイロットプロジェクト(ebXML 鉄鋼プロジェクト, 他)への技術支援, 仕様実証  
実験の推進(デモシナリオ作成等), 他

## 7 ebXML 採用事例

本章では、ebXML 標準フレームワークの産業界及び企業での採用状況を説明する。

### 7.1 日本国内の状況

日本では、電子情報技術産業協会 (JEITA)、及び(株)カスミが ebXML フレームワークの採用で先行している。**旅行電子商取引促進機構の有志企業**

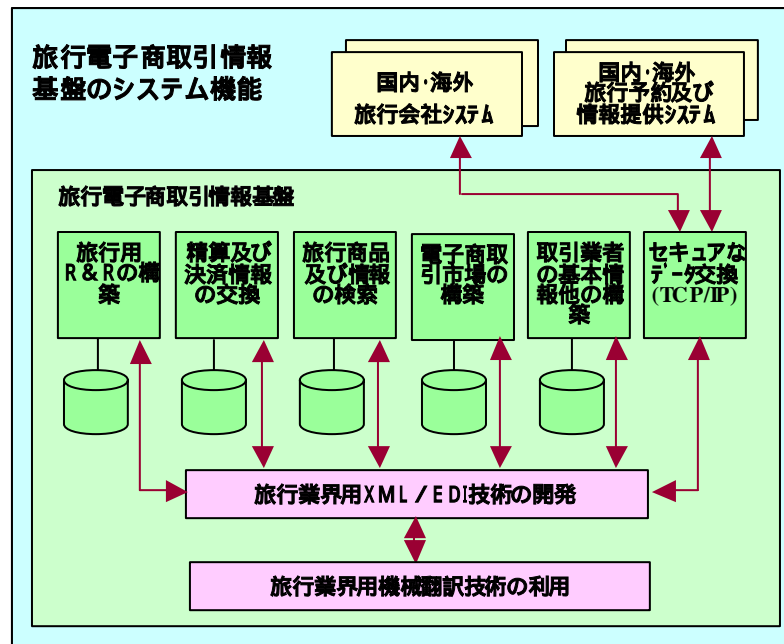


図 7-1

#### (1) 概要:

我が国の旅行業界の中で、政府プロジェクト「企業間国際電子旅行商品取引用基盤構築とその試使用の実施」を基に、旅行会社と旅行商品・情報提供会社間(航空やホテル商品などの)で情報交換システムの開発を推進する。

#### (2) 機能:

本システムの主な機能としては、旅行商品及び情報の検索、電子商取引市場の構築及び精算・決済情報の交換などがある。(図 7-1)

#### (3) 標準の適用:

本システムでは、Web サービスや ebXML など B2B 電子商取引の最新の IT フレームワークを採用する計画である。

#### (4) スケジュール, 他:

2001 年度は主として基本設計までを実施し、システム開発は 2002 年度以降に継続して実

施する。

本プロジェクトは、NTT コミュニケーションズが旅行電子商取引促進機構の有志企業と共同して開発する。

### 7.1.2 日本鉄鋼連盟(JISF)

日本と韓国の鉄鋼業界は、鋼材貿易取引業務プロセスの標準化・開発を調査・研究している。最初に導入する機能として「検査成績情報の交換」を検討しているが、順次拡大の予定。

本プロジェクトは、ebXML フレームワークを採用する。例：BP (Business Process) 仕様、MSG (Messaging Service) 仕様

推進体制： 日本：日本鉄鋼連盟、韓国：韓国鉄鋼協会 (Korea Iron and Steel Association, KOSA)

### 7.1.3 石油化学工業協会(JPCA)

JCII[(財)化学技術戦略推進機構]]とJPCAは、CIDXの「Chem eStandards」を研究しており、CIDXと連携している。(CIDXは、7.3.5を参照)

JPCAは、CIIベースのJPCA標準メッセージを持っているが、海外との取引などで、「Chem eStandards」の採用を検討している。

2001年度の活動として、「Chem eStandardsの解説書/ガイドライン」を纏めている。

### 7.1.4 株式会社(食料品、家庭用品などの小売販売の流通業)

株式会社は、NEC、日本エクセロン、及びイーシーワンと共同で、取引先と商品情報や販促情報、販売実績情報などのデータを交換・共有するシステムを構築した。

本システムは、企業間情報交換として、電子商取引の国際標準仕様である ebXML の MSG 仕様 V1.0 を採用している。ebXML を採用したシステムは国内では初となる。

本システムは、2001年11月から運用開始の予定で、当初は、味の素ゼネラルフーズ、西野商事など4社との情報共有を開始し、順次参加企業を拡大する計画。

[BCN Mail Service(2001-10-26)、日経流通新聞(2001-10-25)]

### 7.1.5 電子情報技術産業協会 (JEITA)

[電波新聞(2001-9-29)、e-Business フォーラム 2001(2001-12-13)]

#### (1) 概要:

JEITAは、電子機器業界のSCMの最適化を狙いとした企業間(B2B)電子商取引の業界標準「コラボレイティブ EDI」を開発している。

JEITA コラボレイティブ EDI は、第1ステップとして、「継続取引の受発注業務」の標準化を

推進している。実証実験を2001年10月から開始し、この結果を反映して、2002年9月までに実用レベルの標準を確立させる。実証実験には、以下の企業が参加している。

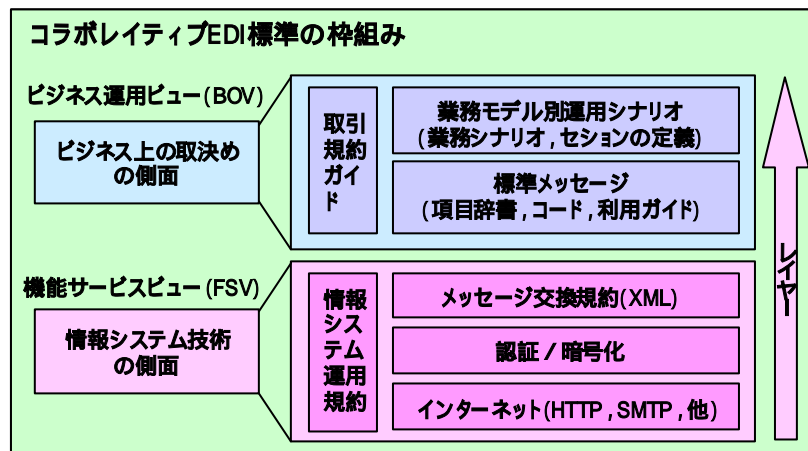
バイヤー(7社):ソニー,日立製作所,富士通,沖電気,シャープ,松下電器産業,NEC  
 サプライヤ(6社):アルプス,TDK,村田製作所,京セラ,太陽誘電,富士通

**(2) 標準の枠組み:**

ビジネス運用ビューと機能サービスビューの2面に分けた標準の枠組みとしており、相互独立性を維持できる構造としている。(ebXML仕様構成コンセプトに準拠,図7-2参照)

業務モデル別運用シナリオの定義では、ebXMLのBP(Business Process)仕様に準拠してシナリオを定義している。標準メッセージ形式は、EIAJ-EDI標準と親和性を保ちつつ、コラボレティブEDIに必要な新たな項目を追加するなど、ebXMLに準拠した標準メッセージを開発している。(UMLクラス図でメッセージ構造を再モデリングし、新しいXMLスキーマを定義)

図 7-2



**(3) 機能:**

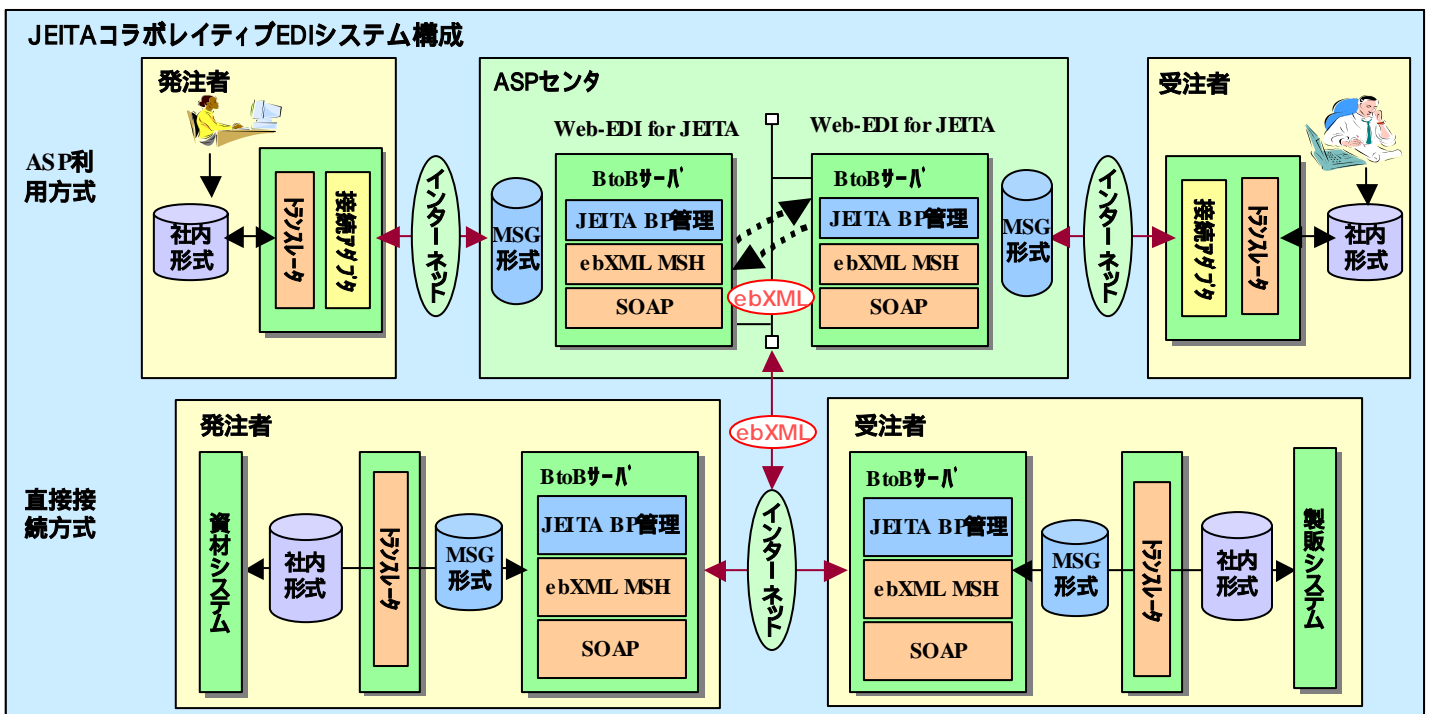
継続取引での受発注業務を、5つの取引業務の標準モデルに分類し、それぞれのビジネス電文交換シナリオを定義している。5種の取引標準モデルを表7-1に示す。

業務区分	モデル名	概要
A	所要提示 / 供給回答 + 予約 + 確定注文	長手番を要する隘路部品やカスタム部品をタイムリーかつ安定調達 / 供給する
B	所要提示 / 供給回答 + 確定注文	汎用 / 標準部品等の納期トラブルが少ないものを、短手番、タイムリーに安定調達 / 供給
C	コンサイメント・ストック	発注者の預託倉庫に、双方で合意した補充方法により受注者が自発的に在庫補充
D	VMI (Vender Managed Inventory)	第三者の預託倉庫に、双方で合意した補充方法により、受注者が自主的に在庫補充
E	引き合い	発注者が増産等の理由により、緊急にスポット調達する

表 7-1

(4) システム構成:

JEITA コラボレイティブ EDI システムを活用するユーザの要望に応えるため、ASP サービス利用の形態と直接接続方式のシステム構成形態を提供する。また、この2つのシステム形態は、ユーザの便宜に応えるため相互乗り入れを図る。本システムでは、メッセージ搬送プロトコルとして、ebXML の MSG (Messaging Service) 仕様を採用している。



7.2 アジア地区の状況

アジア地区では、韓国、台湾がナショナルレジストリ・リポジトリを開発しており、産業界での利用の取組みが始まっている。又、ebXML仕様を採用するプロジェクトが進行している。(ebXML Asia Committee Seoul Meeting, 2001-11-22, 23)



## 7.2.1 韓国ナショナル・レジストリ(韓国)

(1)概要: 韓国の KIEC (Korea Institute for Electronic Commerce) は, 韓国としてのレジストリ・リポジトリを開発している。V1.0 を開発中であり, 2001 年中に完成予定。

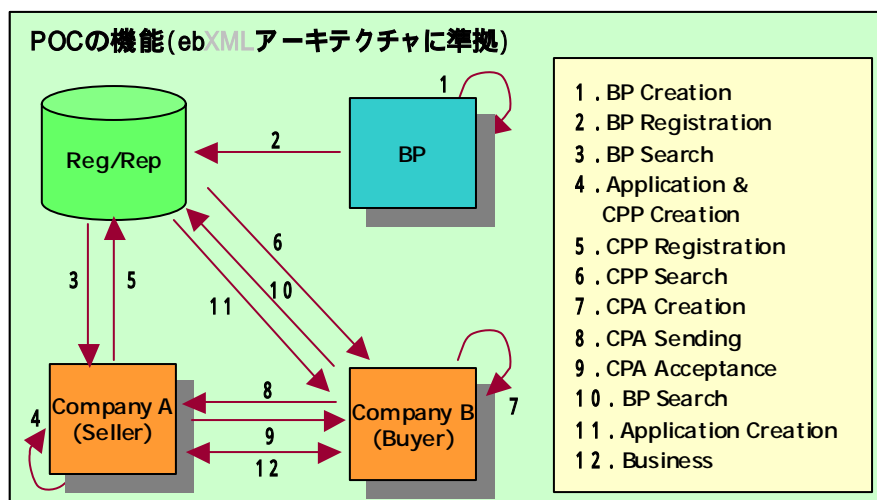
鉄鋼, 及び自動車業界合同で, レジストリ・リポジトリの実装研究を推進している。

(2)POC: このナショナル・レジストリを使用した POC (Proof Of Concept, 仕様検証) を実施している。

POC の機能 (図 7-3 参照) :

BP (Business Process) の開発・登録, CPP (Collaboration-Protocol Profile) の生成・登録, CPP の探索・発見, CPA (Collaboration-Protocol Agreement) の合成, BP の探索・発見, EDI の実行

図 7-3



## 7.2.2 PAA (Pan Asia e-commerce Alliance)

(1)概要:

アジア地区で貿易業務を実施するため, アジア地区の5カ国の主要 IT ベンダーが合同して, PAA 同盟を 1999 年に設置し, 国際電子取引サービスのシステム開発を推進している。

中国: CIECC

香港: Tradelink Electronic Commerce Ltd.

韓国: KTNET (Korea Trade Network)

シンガポール: CrimsonLogic

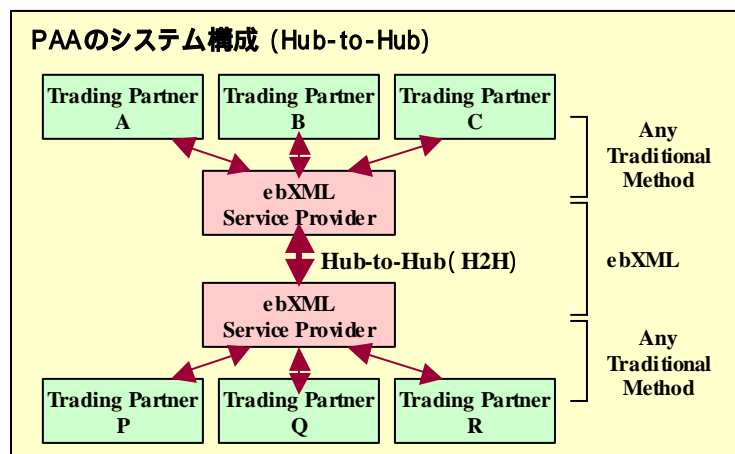
台湾: Trade Van

日本の TEDI (貿易・金融手続きの電子化推進プロジェクト) は, 2002 年 1 月末より正式会員

になった。

### (2)PAA の機能:

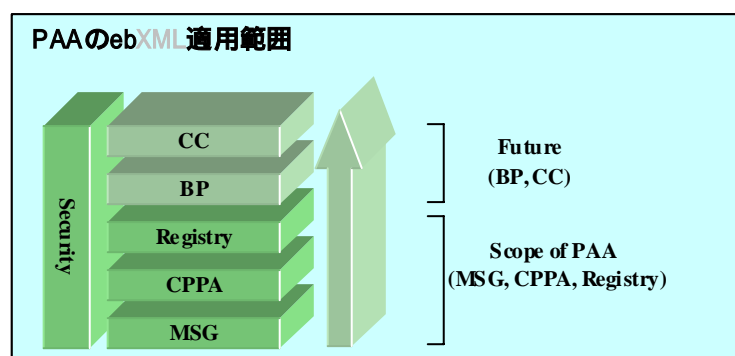
PAA はサービスプロバイダーとして、貿易関係企業にグローバルで相互運用性のある透明性のあるビジネストランザクションを提供する。PAA は、Hub-to-Hub のビジネス電文交換機能を提供することになる。ビジネス電文の交換機能として、受発注、出荷、運送などを行なう。(PAA のシステム構成を参照)



### (3)ebXML 適用範囲:

第 1 フェーズでは3つの仕様を適用する (MSG , CPPA , Registry)。次のフェーズで BP (Business Process)と CC(Core Component)を採用し、ebXML 全仕様を適用する。(図 7-4を参照)

図 7-4



(4)スケジュール: 2002年1月にテスト, 2002年3月からパイロットシステムを立ち上げる。

### 7.2.3 Trade Facilitation Project (貿易促進プロジェクト, 台湾)

台湾では、Trade Facilitation Projectが進行している。本プロジェクトは、貿易管理、税関申告、

運送、及び国際決済の貿易関係の機能を開発する。

台湾では、ebXML MSG 仕様を重視しており、ebXML MSG 仕様を採用する。

スケジュール: Phase 1(基本設計): 2002年1月～2003年12月, Phase 2(詳細設計, 開発, 運用開始): 2004年1月～2005年12月

#### 7.2.4 IFX (Interactive Financial Exchange Project, 金融データ交換プロジェクト, 台湾)

IFXプロジェクトで、金融データ交換システムを開発している。ebXML MSG 仕様を採用する。金融業界用の ebXML MSG 仕様の実装ガイドブックが作成されている。

### 7.3 欧米の状況

欧米では、各業界が ebXML 採用をアナウンスしており、最近、DGI(Drummond Group Inc.) が ebXML MSG (Messaging service) 仕様検証のパイロットプロジェクトを立ち上げた。GCI (Global Commerce Initiative)

GCI は、消費者商品 (consumer goods) 業界での B2B 貿易業務のための新データ交換システムのバックボーンとして ebXML フレームワークを採用する。GCI は、北米、南米、欧州、アジアの各地区の流通業界合同のイニシャチブであり、8 種の貿易協会と 40 のメジャーな生産企業・小売業の企業から構成され、全世界で 85 万社の企業を代表している。GCI は、1999 年 10 月に設立され、消費者向け商品の SCM など戦略的な B2B システムを開発している。(OASIS NEWS, 2000-9-11)

#### 7.3.2 OTA (Open Travel Alliance)

国際旅行コンソーシアムの OTA は、米国を中心に世界の旅行業界で、XML/EDI を実用化するために構成された標準化団体である。既に顧客情報やホテル予約のための仕様などが構築されてきている。OTA は、約 150 のメンバー企業で構成され、その中には航空業界、レンタカー業界、ホテル業界、レジャー業界、ツアー業界、GDS(国際航空券販売ネットワーク)業界の代表的な企業が参加している。

OTA は、新システム(卸売り業者と旅行オペレータ間のパッケージツアー予約システムなど)のメッセージ交換システムに ebXML MSG 仕様を採用する。(OTA は、2001 年 11 月までの目標で、ebXML MSG 仕様 V1.0 に準拠した OTA 仕様を開発する。)(ebXML NEWS, 2001-8-1)

#### 7.3.3 OAGI (The Open Application Group, Inc.) STAR (Standards for Technology in Automotive Retail)

OAGI と STAR は、「collaborative initiative」を設置し、自動車ディーラー、自動車メーカー、及び関連業者間のデータ交換標準システムを開発する。本プロジェクトは ebXML フレームワークを採用

する。(OASIS Announce, 2001-7-9)

OAGI: 世界最大の IT ベンダー及びユーザから成るグループで, B2B システムの相互運用性のある XML ベースビジネスソフトウェアのための標準仕様を開発しており, 豊富な実績を持つ。1995 年に設立され, 主な会員は, Oracle, Sun Microsystems, Intel, IBM software Solutions, AIAG, NEC, Toyota などから構成されている。

STAR: 北米の自動車販売業界の IT 標準化推進組織。

#### 7.3.4 DGI (Drummond Group Inc.)

相互運用性のリーディングコンサルタント会社の DGI は, ebXML メッセージング仕様の相互運用性パイロットプロジェクトを立ち上げた。

本プロジェクトは, ebXML MSG 仕様の検証デモ(2001 年 10 月~2002 年 2 月)を実施し, 相互運用性のあるオフザシェルフのソフトウェア製品を GCI 及び STAR など ebXML の適用を推進している業界に提供する。(OASIS Announce, 2001-11-27)

#### 7.3.5 CIDX (Chemical Industry Data Exchange)

(Chem eStandards プレゼン資料, 2001-7-26)

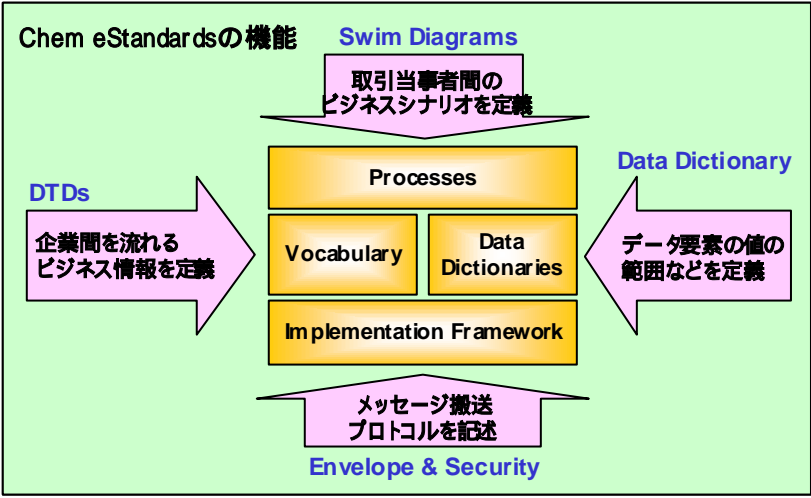
##### (1)概要:

CIDX は, 化学業界の標準化推進組織であり, 「Chem eStandards」を開発した。Chem eStandards は, グローバルな XML ベースのデータ交換標準である。

(2)機能: プロセス, 語彙, データ辞書, 及び実装フレームワークの4種の機能標準を持っている。

(47 種の標準メッセージ, 700 以上の共通データ項目, エンベロプとセキュリティ機能, イニシャルテスト報告書)。

(3)標準・状況: Chem eStandards は, RosettaNet 標準に準拠し, メッセージは独自に作成している。Chem eStandards は, 既に実運用されている。例: (化学) Dupont, The Dow Chemical Co., (eMP) Elemica



## 8 CPP/CPA と関連仕様

本章では、ebXML 仕様に準拠して電子コラボレーションビジネスを実行するための CPP/CPA 仕様と関連仕様 (BPSS 仕様, MSG 仕様) について、例示を含めて説明致します。

CPP (Collaboration-Protocol Profile): 電子コラボレーションを実施するための企業プロフィール  
(IT 情報)

CPA (Collaboration-Protocol Agreement): 電子コラボレーションを実施するための取引当事者間での合意書 (IT 情報)

BPSS (Business Process Specification Schema): ビジネスプロセスシナリオを電子的に記述するための XML 記述仕様

MSG (Message Service Specification): ビジネス電文のメッセージ搬送の仕様で封筒情報の規約 (Header, Body)

8.1 ebXML のビジネスプロセス仕様とサービスインタフェース構成ビジネスプロセスシナリオを記述した文書の作成, CPP/CPA の作成, 及びビジネスサービスインタフェース構成の作成方法及び関連は、通常、図 8-1 に示した処理を経て作成される。(ebXML BPSS V1.02)

### (1) ビジネスプロセス情報モデルの作成

UMM (UN/CEFACT Modeling Methodology, ビジネスプロセスのモデリング手法) に基づいてビジネスプロセス情報モデルを作成する。

図 8-1

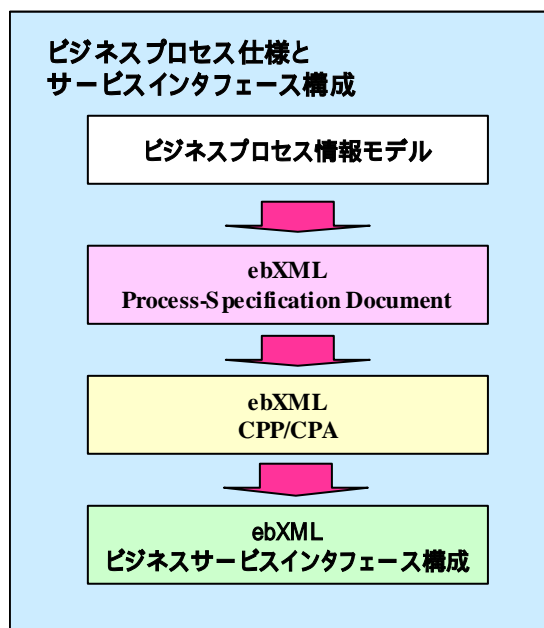
### (2) ビジネスプロセス文書の作成

上記のビジネスプロセス情報モデルと ebXML BPSS 仕様を用いて、ebXML 準拠のビジネスストラクチャを実行するためのビジネスプロセスを定義した文書を作成する。この文書を「ビジネスプロセス文書 (Process-Specification Document)」と呼ぶ。

このビジネスプロセス文書は、上記のビジネスプロセスモデリングを実施しないで、既存のビジネスプロセス基準から直接生成することも可能である。

### (3) CPP/CPA の作成

ビジネスプロセス文書は、ビジネスプロセスシナリオを定義した文書であるが、一部のパラメータは CPP/CPA 生成のインプットともなる。ビジネスサービスインタフェース構成の作



成

作成・合意されたCPAは、ebXML準拠のビジネスサービスインタフェースソフトウェアのための構成情報として利用される。具体的にはebXML MSG仕様に基づいたビジネス電文のヘッダ情報に利用される。

## 8.2 ビジネスプロセスの事例

ビジネスプロセスの事例としては、ロゼッタネットが既に130以上のPIP (Partner Interface Process) を標準化している。

本号で紹介する電子コラボレーションの例示は、RosettaNet PIP3A4(受発注処理)を題材としている。

PIP3A4で定義されている受発注処理は、ebXML BPSS仕様上は「Service」として位置付けられる。この一連の受発注処理は、2つのビジネス動作(バイヤーからの注文書の発行とセラーからの注文請書の発行)を持つが、これらは「Action」として位置付けられる。

PIP3A4のビジネストランザクション会話は図8-2のシーケンスで交換される。(RosettaNet PIP3A4 V02.00)1. 注文書(発信元:バイヤー)

図 8-2

1.1 受信確認(発信元:セラー)

1.2 注文請書(発信元:セラー)

1.2.1 受信確認(発信元:バイヤー)

4種のビジネス電文交換の制御パラメータは表8-1で定義されている。

### (表の内容の説明)

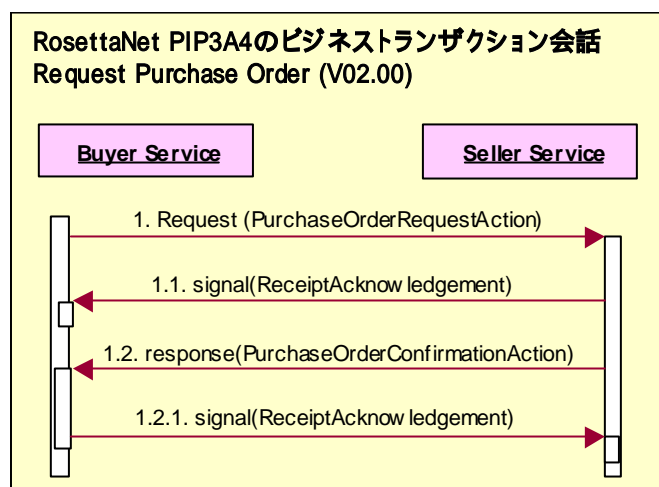
・注文書と注文請書の電文の受信確認までの時間は2時間以内(Time to Acknowledge

Receipt Signalで定義)

・注文書発行から注文請書受信までの時間は24時間以内(Time to Respond to Actionで定義)・

これらの4種のメッセージは全て、アクセス権許可(Authorization)、否認防止

(Non-Repudiation)、セキュア通信(Secure Transport)の各機能を実装して通信を実施する。



#	Name	Time to Acknowledge Receipt Signal	Time to Acknowledge Acceptance Signal	Time to Respond to Action	Included in Time to Perform	Is Authorization Required?	Is Non-Repudiation Required?	Is Secure Transport Required?
1.	Purchase Order Request Action	2 hrs	N/A	24 hrs	Y	Y	Y	Y
1.1.	Receipt Acknowledgment	N/A	N/A	N/A	Y	Y	Y	Y
1.2.	Purchase Order Confirmation Action	2 hrs	N/A	N/A	Y	Y	Y	Y
1.2.1	Receipt Acknowledgment	N/A	N/A	N/A	N	Y	Y	Y

表 8-1 RosettaNet PIP3A4 のメッセージ交換制御

8.3 ビジネスプロセス文書 (Process-Specification Document) PIP3A4 の受発注処理のビジネスプロセス(BP)は, ebXML BPSS 仕様を使用して, 以下のように XML ベースの電子文書として記述できる。

このように BP が電子化されると, 様々な BP を個別にアプリケーションとして開発する必要がなくなり, BP に関するシステム実装が容易になる。本ビジネスプロセス文書は, 以下の3部分から構成している。

(1) ビジネス電文の定義 ( Business Document )

- ・2つのビジネス電文が定義されている。(‘Purchase Order Request’ と ‘Purchase Order Confirmation’)
- ・これらのビジネス電文の項目仕様(標準メッセージ)は, specificationLocation で指定された仕様書に定義されている。ビジネストランザクションの定義 ( Business Transaction )
- ・1つのビジネストランザクションが定義されている。このビジネストランザクションは2つのアクションを持っている(‘Purchase Order Request Action’ と ‘Purchase Order Confirmation Action’)。このトランザクションが利用するビジネス電文をリンクしている。
- ・このビジネストランザクションの部分でセキュリティに関するパラメータを定義している。(‘isAuthorizationRequired’ など) バイナリーコラボレーションの定義(2者間の関係の定義)
- ・このエレメントの配下で, 役割(‘Buyer’ と ‘Seller’), 及びコラボレーションに関するパラメータを定義している, 例: ‘timeToPerform’



## ビジネスプロセス文書 (RosettaNet PIP3A4)

```

<ProcessSpecification xmlns=http://www.ebxml.org/BusinessProcess name="PIP3A4RequestPurchaseOrder">
  <BusinessDocument name="Purchase Order Request"                 ビジネス電文の定義 (Purchase Order Request)
    nameID="Pip3A4PurchaseOrderRequest" specificationLocation="PurchaseOrderRequest.xsd">
  </BusinessDocument>
  <BusinessDocument name="Purchase Order Confirmation"           ビジネス電文の定義 (Purchase Order Confirmation)
    nameID="Pip3A4PurchaseOrderConfirmation" specificationLocation="PurchaseOrderConfirmation.xsd">
  </BusinessDocument>
  <BusinessTransaction name="Request Purchase Order" nameID="RequestPurchaseOrder_BT">
    <RequestingBusinessActivity name="Purchase Order Request Action" nameID="PurchaseOrderRequestAction"
      isAuthorizationRequired="true" isNonRepudiationRequired="true" timeToAcknowledgeReceipt="POYOMODT2HOMOS">
      <DocumentEnvelope businessDocument="Purchase Order Request"
        businessDocumentIDRef="Pip3A4PurchaseOrderRequest" />
    </RequestingBusinessActivity>
    <RespondingBusinessActivity name="Purchase Order Confirmation Action"
      nameID="PurchaseOrderConfirmationAction" isAuthorizationRequired="true" isNonRepudiationRequired="true"
      timeToAcknowledgeReceipt="POYOMODT2HOMOS">
      <DocumentEnvelope businessDocument="Purchase Order Confirmation"
        businessDocumentIDRef="Pip3A4PurchaseOrderConfirmation" />
    </RespondingBusinessActivity>
  </BusinessTransaction>
  <BinaryCollaboration name="Request Purchase Order" nameID="RequestPurchaseOrder_BC">
    <InitiatingRole name="Buyer" nameID="BuyerId" />
    <RespondingRole name="Seller" nameID="SellerId" />
    <Start toBusinessState="Request Purchase Order" />
    <BusinessTransactionActivity name="Request Purchase Order" nameID="RequestPurchaseOrder_BTA"
      businessTransaction="Request Purchase Order" businessTransactionIDRef="RequestPurchaseOrder_BT"
      fromAuthorizedRole="Buyer" fromAuthorizedRoleIDRef="BuyerId"
      toAuthorizedRole="Seller" toAuthorizedRoleIDRef="SellerId" timeToPerform="POYOMODT24HOMOS"/>
  </BinaryCollaboration>
</ProcessSpecification>

```

8.4 C P P / C P A 文書 (Collaboration-Protocol Profile and Agreement) CPP 文書には、各取引当事者(一般的には企業、大企業の場合は事業部など)がインターネットを利用した電子商取引での可能な IT 技術に関する能力を記述する。CPA 文書は、取引当事者間で合意した文書であり、その内容は CPP 文書に準じる。(ebXML CPPA V1.09)

記述する項目は、売買における自身の役割(バイヤー又はセラー)、採用するビジネスプロセス文書(Process-Specification Document)の指定、採用する通信プロトコル、信頼性メッセージ搬送仕様、否認防止仕様、デジタル封筒仕様などがある。

### (上記の CPP 文書の説明)

- ・会社名は‘CompanyA’であり、企業識別子として DUNS ナンバーを採用し、番号は‘123456789’である。売買の役割はバイヤーである。
- ・採用するビジネスプロセスは、RosettaNet PIP3A4 であり、その仕様 (Process-Specification Document) はインターネット上の <http://www.rosettanet.org/processes/3A4.xml> に格納されている。(ProcessSpecification エlement)・ビジネスランザクションのアクション毎、及び送信・受信毎に通信仕様およびビジネス電文交換仕様を定義できる。(ServiceBinding Element, DeliveryChannel Element による。)
- ・通信プロトコルとして、HTTP V1.1、通信セキュリティプロトコルとして SSL V3.0 を採用する。

(Transport エlement)

・ビジネス電文交換仕様として以下を実施する。(DocExchange エlement)

- 信頼性メッセージ交換を実施する。リトライ回数は 3 回, インタバルは 2 時間。

(ReliableMessaging エlement)

- 否認防止を実施する。否認防止プロトコルは xmldsig, ハッシュ関数は sha1, 署名アルゴリズムは dsa-sha1。(NonRepudiation エlement)

- デジタル封筒仕様として, S/MIME V2.0 に準拠する。暗号化アルゴリズムは DES-CBC を採用する。

### CPP 文書 (Company A)

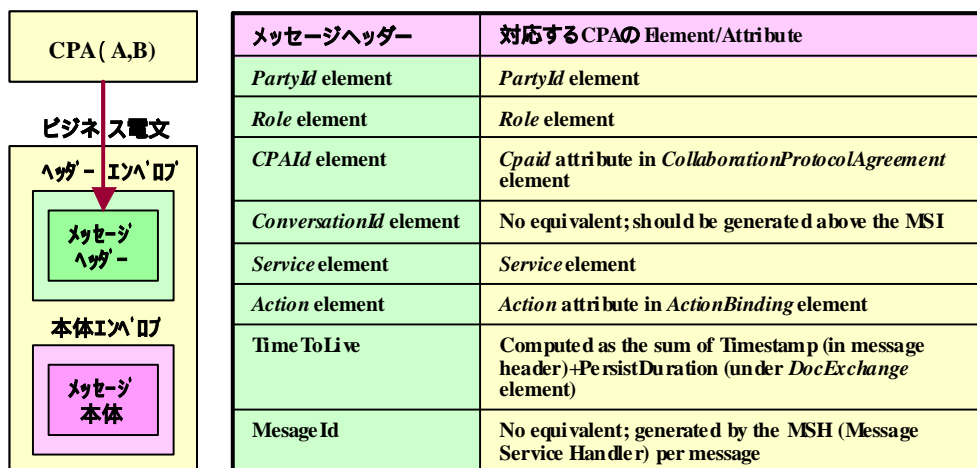
```
<tp:CollaborationProtocolProfile xmlns:tp="http://www.oasis-open.org/ebxml-cppa/schema/cpp-cpa-2_0.xsd">
<tp:PartyInfo tp:partyName="CompanyA" tp:defaultMshChannelId="asyncChannelA1">
  <tp:PartyId tp:type="urn:oasis:names:tc:ebxml-cppa:partyid-type:duns">123456789</tp:PartyId>
  <tp:PartyRef xlink:href="http://CompanyA.com/about.html" />
  <tp:CollaborationRole tp:id="BuyerId">
    <tp:ProcessSpecification tp:version="2.0" tp:name="PIP3A4RequestPurchaseOrder" xlink:type="simple"
      xlink:href="http://www.rosettanet.org/processes/3A4.xml" />
    <tp:Role tp:name="Buyer" xlink:href="http://www.rosettanet.org/processes/3A4.xml#Buyer" />
    <tp:ServiceBinding>
      <tp:Service bpid:icann:rosettanet.org:3A4$2.0</tp:Service>
      <tp:CanSend>
        <tp:ThisPartyActionBinding tp:id="companyA_ABID1" tp:action="Purchase Order Request Action"
          tp:packageId="CompanyA_RequestPackage"><tp:ChannelId>asyncChannelA1</tp:ChannelId>
        </tp:ThisPartyActionBinding>
      </tp:CanSend>
    </tp:ServiceBinding>
  </tp:CollaborationRole>
  <tp:DeliveryChannel tp:channelId="asyncChannelA1" tp:transportId="transportA2" tp:docExchangeId="docExchangeA1">
    <tp:BusinessTransactionCharacteristics tp:isNonRepudiationRequired="true" tp:isSecureTransportRequired="true"
      tp:isAuthorizationRequired="true" tp:timeToAcknowledgeReceipt="PT2H" tp:timeToPerform="P1D" />
  </tp:DeliveryChannel>
  <tp:Transport tp:transportId="transportA2">
    <tp:TransportSender>
      <tp:TransportProtocol tp:version="1.1">HTTP</tp:TransportProtocol>
      <tp:TransportClientSecurity>
        <tp:TransportSecurityProtocol tp:version="3.0">SSL</tp:TransportSecurityProtocol>
      </tp:TransportClientSecurity>
    </tp:TransportSender>
  </tp:Transport>
  <tp:DocExchange tp:docExchangeId="docExchangeA1">
    <tp:ebXMLSenderBinding tp:version="2.0">
      <tp:ReliableMessaging>
        <tp:Retries>3</tp:Retries>
        <tp:RetryInterval>PT2H</tp:RetryInterval>
        <tp:MessageOrderSemantics>Guaranteed</tp:MessageOrderSemantics>
      </tp:ReliableMessaging>
      <tp:SenderNonRepudiation>
        <tp:NonRepudiationProtocol>http://www.w3.org/2000/09/xmldsig#</tp:NonRepudiationProtocol>
        <tp:HashFunction>http://www.w3.org/2000/09/xmldsig#sha1</tp:HashFunction>
        <tp:SignatureAlgorithm>http://www.w3.org/2000/09/xmldsig#dsa-sha1</tp:SignatureAlgorithm>
      </tp:SenderNonRepudiation>
      <tp:SenderDigitalEnvelope>
        <tp:DigitalEnvelopeProtocol tp:version="2.0">S/MIME</tp:DigitalEnvelopeProtocol>
        <tp:EncryptionAlgorithm>DES-CBC</tp:EncryptionAlgorithm>
      </tp:SenderDigitalEnvelope>
    </tp:ebXMLSenderBinding>
  </tp:DocExchange>
</tp:PartyInfo>
</tp:CollaborationProtocolProfile>
```

Company AのID定義  
Company Aの詳細情報  
コラボレーション仕様記述  
ビジネスプロセス文書のURL  
PIP3A4はサービスの位置付け  
通信プロトコルの仕様記述(通信プロトコル, セキュリティプロトコル)  
信頼性メッセージングの仕様記述(リトライ回数, インタバルなど)  
否認防止の仕様記述(プロトコル, ハッシュ関数, 署名アルゴリズム)  
デジタル封筒の仕様記述(プロトコル, 暗号化アルゴリズム)

## 8.5 CPA文書 とビジネス電文ヘッダー情報

ビジネス電文が、ebXML MSG 仕様に準拠してミドルウェアにて構成される場合は、そのビジネス電文のメッセージヘッダーの幾つかのパラメータは CPA 文書から引用されて実装される。

(ebXML MSG V2.0)



(図 8-3のメッセージヘッダーの説明)

- ・このビジネス電文(注文書‘Purchase Order Request’)は、Company A (DUNS‘123456789’)から Company B (DUNS‘987654321’)に送られる。(From エレメント, To エレメント)
- ・このビジネス電文の Service は RosettaNet PIP3A4 であり、Action は ‘Purchase Order Request Action’である。
- ・ebXML メッセージヘッダーは、SOAP ヘッダー及び SOAP エンベロプで包まれている。

図 8-3

メッセージヘッダー (注文書‘Purchase Order Request’)

```

<SOAP:Envelope xmlns:SOAP=http://schema.xmlsoap.org/soap/envelope/>
  <SOAP:Header xmlns:eb="http://www.oasis-open.org/committees/ebxml-msg/schemas/msg-header-2_0.xsd">
    <eb:MessageHeader id="..." eb:version="2.0" SOAP:mustUnderstand="1">
      <eb:From><eb:PartyId>123456789</eb:PartyId></eb:From>
      <eb:To>
        <eb:PartyId eb:type="someType">987654321</eb:PartyId>
        <eb:Role>http://rosettanet.org/processes/3A4.xml#seller</eb:Role>
      </eb:To>
      <eb:CPAId>uri:companyA-and-companyB-cpa</eb:CPAId>
      <eb:ConversationId>987654321</eb:ConversationId>
      <eb:Service eb:type="anyURI">bpid:icann:rosettanet.org:3A4$2.0</eb:Service>
      <eb:Action>Purchase Order Request Action</eb:Action>
      <eb:MessageData>
        <eb:MessageId>UUID-2</eb:MessageId>
        <eb:Timestamp>2000-07-25T12:19:05</eb:Timestamp>
        <eb:RefToMessageId>UUID-1</eb:RefToMessageId>
      </eb:MessageData>
      <eb:DuplicateElimination/>
    </eb:MessageHeader>
  </SOAP:Header>
  <SOAP:Body xmlns:eb="http://www.oasis-open.org/committees/ebxml-msg/schemas/msg-header-2_0.xsd">
    <eb:Manifest eb:version="2.0">
      ----
    </eb:Manifest>
  </SOAP:Body>
</SOAP:Envelope>

```



## 付属 1 用語集\_解説付

TERM	日本語	ACRONYM	DEFINITION	日本語定義	解説	SOURCE
Abstract Class	抽象クラス		A class that cannot be directly instantiated.	インスタンスを直接生成することのできないクラス。		UML Glossary V1.3
Abstract Syntax	抽象構文		UML class diagrams are used to present the UML metamodel, its concepts (metaclasses), relationships, and constraints. Definitions of the concepts are included.	UML クラス図は、UML メタモデル、その概念(メタクラス)、関係、および制約条件を記述するために使用される。その概念の定義を内包する。	—	OMG UML Specification
Abstraction	抽象概念		The essential characteristics of an entity that distinguish it from all other kinds of entities.	あるエンティティを別の種類のエンティティと区別する本質的な特質。	抽象化、あるいは抽象化したもの。実体を他のあらゆる種類の実体と区別する特別な形態。	UML Glossary V1.3
Activity Class	活性クラス		A class whose instances are active objects.	そのクラスに属するインスタンスが活性オブジェクトであるクラス。	インスタンスにアクティブ・オブジェクトを持つクラス。	UML Glossary V1.3
Activity Graph	アクティビティ図		Shows behaviour with control structure. Can show many objects over many uses, many objects in single use case, or implementation of method. Encourages parallel behaviour.	制御構造を用いて振舞い(動作)図示するもの。多数のオブジェクトを多数の用例について表すことが可能である一方、多数のオブジェクトを1つのユースケースについて表すことやメソッドの実装を表すことも可能である。並行的な動作の記述が容易である。	アクティビティからアクティビティへのフローを図式化したもの。アクティビティ図ではシステムの動的なビューを扱う。	UML Specification+
Actor	アクター		Someone or something, outside the system or business that interacts with the system or business.	システムまたは業務とやり取りを行う、当該システムまたは業務の外部にいる個人、あるいは事物。	システムまたは業務とやり取りを行う、システムまたはシステムの外部に存在する他システムやデータベースのような実体を果たすことの出来る役割を担ったもの。	Rational Unified Process
Aggregate [Class]	集約化 [集約クラス]		A class that represents the "whole" in an aggregation (whole-part) relationship.	ある集合(全体-部分)関係における "全体" を表すクラス。	—	UML Glossary V1.3
Aggregate Business Information Entity	集約ビジネス情報エンティティ	ABIE	A collection of related pieces of business information that together convey a distinct business meaning in a specified business context.	関連するビジネスの断片情報を集約したもので、特定のビジネスコンテキストの中で固有のビジネス上の意味を持つ。	UML では、Business Information Entity (ビジネス情報エンティティ) と呼ぶ。	CC Technical Specification
Aggregate Core Component	集約コア構成要素	ACC	A collection of pieces of business information that together form a single business concept (e.g. postal address). Each Aggregate Core Component has its own unique business semantic definition and can contain either: · two or more Basic Core Components, or · at least one Basic Core Component plus one or more Aggregate Core Components	関連するビジネスの断片情報を集約したもので単一のビジネス概念を表す(例:住所)。それぞれの集約コア構成要素は固有のビジネス意味情報定義を持ち、2つ以上の基本コア構成要素、または少なくとも1つと1つの基本コア構成要素と1つ以上の集約コア構成要素から構成される。		CC Technical Specification

Aggregation	集約		A special form of association that specifies a whole-part relationship between the aggregate (whole) and a component part.	集合（全体）と構成要素部分との間に存在する全体-部分関係を規定する特別の結合形態。	関連の特殊な形で、1つ以上の小さいクラスが、大きな「全体」クラスの場合における「全体/部分」関係。	UML Glossary V1.3
Agreement	合意		An arrangement between two partner types that specifies in advance the conditions under which they will trade (terms of shipment, terms of payment, collaboration protocols, etc.) An agreement does not imply specific economic commitments.	取引を進めるにあたり、あらかじめその実施条件（出荷条件、支払い条件、コラボレーションプロトコルなど）を規定する当事者間での取り決め。合意は、特定の取引約定を意味するものではない。		BP team Terminology
Analysis	分析		The part of the software development process whose primary purpose is to formulate a model of the problem area. Analysis focuses on what to do, design focuses on how to do it.	ソフトウェア開発工程の一部で、問題とされている分野のモデルを定式化することを主目的とする部分。分析 (Analysis) では何を行うかに着目し、設計 (Design) ではその実現方法に着目する。	ソフトウェア開発プロセスで、システムでシステム化範囲を決定することも含めて、何を作成するかを決定すること。	Rational Unified Process
Analysis Class	分析クラス		An abstraction of a role played by a design element in the system, typically within the context of a use-case realization. Analysis classes may provide an abstraction for several roles, representing the common behaviour of those roles. Analysis classes typically evolve into one or more design elements (e.g. design classes and/or capsules, or design subsystems).	システム内の一つの設計構成要素が、典型的にはユースケースのコンテキストにおいて、担う役割の抽象概念。分析クラスは、幾つかの役割の共通的な振舞いを表すことにより、それらの役割に対する一つの抽象概念を提供することができる。分析クラスは、典型的には、一つ、あるいは複数の設計構成要素（つまり、設計クラス、カプセル、あるいは設計サブシステム）に進化する。	1つまたは複数のクラス概念や、システム設計中のサブシステムの抽象概念を示す。RUPでは、二つ以上のロバストネス図上で表現された、ステレオタイプ化されたクラスを表す。また、分析クラスで <<boundary>>, <<control>>, <<entity>>の3つのステレオタイプのいずれかが当てはまる。	
Application	アプリケーション		An Application is software that may implement a Service by processing one or more of the Messages in the Document Exchanges associated with the Service.	アプリケーションとはサービスに伴う文書交換において、一つ、あるいは複数のメッセージを処理することにより、そのサービスを実現するソフトウェア。		ebXML Glossary
Application Protocol Interface	アプリケーションプロトコルインタフェース	API				
Architecture	アーキテクチャ		The architecture of a software system (at a given point in time) is its organization or structure of significant components interacting through interfaces	ソフトウェアシステムのアーキテクチャーとは(所定の時点において)、インタフェースを介してやりとりするソフトウェアシステムの主要な構成要素の組織構成、あるいは構造。	システム全体の基礎となる組織。アーキテクチャには、静的要素、動的要素の2つの側面があり、その2つの要素が協調的に動作する方法やシステムの組織を導き出す。また、アーキテクチャはその使い方、機能、パフォーマンス、柔軟性、再利用などの構成・構造的な側面に加えて、経済的な面も考慮される。	Rational Unified Process

Artifact	生成物		(1) A piece of information that (1) is produced, modified, or used by a process, (2) defines an area of responsibility, and (3) is subject to version control. An artifact can be a model, a model element, or a document. A document can enclose other documents.	以下の条件をすべて満たすひとまとまりの情報。 1) あるプロセスによって作成、変更、あるいは使用される。 2) ある責任範囲が定義されている。 3) バージョン管理が行われる。 生成物はモデル、モデル構成要素、または文書の形態を取る。一つの文書は他の文書を包含することが出来る。	—	Rational Unified Process
Association	関連		The semantic relationship between two or more classifiers that specifies connections among their instances.	インスタンスの間に接続を指定する 2 つ以上の分類要素 (classifiers)間に存在する意味的な関係。	対象システムを構成するインスタンス(クラス)間(概念・実体・事象)とそれらの間に存在する意味的・物理的な関係。	OMG UML Specification
Attributes	属性		An attribute defined by a class represents a named property of the class or its objects. An attribute has a type that defines the type of its instances.	クラス、あるいはそのオブジェクトの名前付特性。属性は、そのインスタンスの型を定義する型を持つ。	クラスやオブジェクトの特質。 例: 「従業員」クラスであれば「属性」は、「従業員番号、氏名、生年月日、年齢、性別、入社年月日…」などが上げられる。なお、XML 文書ではエレメントの属性を表す。	Rational Unified Process
Authentication	認証			本人であることの証明。		
Authorisation	承認		A right or a permission that is granted to a system entity to access a system resource.	当該システムの利用者或いは他のシステムが当該システム資源にアクセスするために付与されている権限、あるいは許可。		IETF RFC 2828
Authorisation Process	承認プロセス		A procedure for granting authorisation	承認を付与する手順。		IETF RFC 2828
Basic Core Component	基本コア構成要素	BCC	A Core Component that represents a singular business concept with a unique business semantic definition. A BCC is constructed by using a Core Component Type. BCCs are used in developing Aggregate Core Components.	コア構成要素は、唯一のビジネス情報定義を持った、単一ビジネス概念を表す。基本コア構成要素はコア構成要素タイプで構成される。基本コア構成要素は、集約コア構成要素を作るときに使用される。		CC Technical Specification
Basic Business Information Entity	基本ビジネス情報エンティティ	BBIE	A core component used in a specific business context. A Basic Business Information Entity is derived from a Basic Core Component.	特定のビジネスコンテキストの中で使われるコア構成要素。基本ビジネス情報エンティティは基本コア構成要素から派生する。	UMM では、Fundamental Information Entity (基礎情報エンティティ)と呼ぶ。	CC Technical Specification
Behaviour	振舞い		The observable effects of an operation or event, including its results.	観測可能な、操作やイベント(その結果を含む)の効果。	クラスやオブジェクトに対する「アクション」や「操作」に相当する部分。実装のクラスにおいては「メソッド」に相当する。	UML Glossary V1.3
Boundary Classes	境界クラス		A Boundary is a class that lies on the periphery of a system, but within it. It interacts with actors outside the system as well as objects of all three kinds of analysis classes within the system.	境界とはシステムの外縁部に位置するが、システム内部に属するクラス。境界クラスはシステム内部の三種類すべての分析クラス及びシステム外のアクターとやりとりを行う。	システムを取り巻く環境(具体的にはアクターなど)とシステム内部の処理との間を管理するクラス。その例としてはユーザインタフェースとなる画面や、外部システムとのインタフェースとなる通信プロトコルなどが挙げられる。	OMG UML Specification



Business	ビジネス		A series of processes, each having a clearly understood purpose, involving more than one organization, realized through the exchange of information and directed towards some mutually agreed upon goal, extending over a period of time.	相互に合意した目標に向けて所定の期間に渡る情報交換を通じて実現される、複数の組織が関与し、個々のプロセスが明確な目的を持つ一連のプロセス。		(Open-edition Reference Model Standard - ISO/IEC 14662). (MoU)
Business Activity	業務アクティビティ		A business activity is used to represent the state of the business process of one of the partners.	当事者のいずれか一方のビジネスプロセスの状態 (ebXML ビジネスプロセス仕様における定義)		BP Team Terminology
Business Collaboration	取引コラボレーション		An activity conducted between two or more parties for the purpose of achieving a specified outcome.	複数の当事者間で、特定の成果を目的に進められる活動。		TA Specification Terminology
Business Collaboration Framework	取引コラボレーションフレームワーク	BCF	A collection of specifications defining electronic business exchange for two or more business partners.	複数の当事者間での電子取引交換を定義する仕様の集まり。		
Business Collaboration Knowledge	取引コラボレーション知識		The knowledge involved in a collaboration	取引慣行など、ビジネスコラボレーションに関わる知識。		TA Specification Terminology
Business Context	ビジネスコンテキスト		Defines a context in which a business has chosen to employ an information entity	ビジネスにおいてある情報エンティティを採用するために選択したコンテキスト。		CC/ Core Component Terminology
Business Document	取引文書		The set of information components that are interchanged as part of a business activity.	取引活動の一環として交換される情報構成要素の集合。		CC/ Core Component Terminology
Business Entity	ビジネスエンティティ		Something that is accessed, inspected, manipulated, produced, and worked on in the business.	取引または業務において、アクセス、検査、操作、生成及び作用のモデル化の対象となるもの。	ビジネスの「取引」「業務」「事業」に関する側面を抽象化したもので捉えて一定の抽象レベルで表したもの。例：「請求書」「受注」など...	UMM
Business Entity Class	ビジネスエンティティクラス		Group of items which are structured in the same way- that serves the fundamental missions of the company,- that has legal and/or business basis,- which may participate in exchanges with partners,- which will be implemented into objects (object technology) through a modelling process. For example order is a business entity class.	以下の条件を満たす、同じ方法で構造化された項目の集まり。(1) 企業活動の基本的な役割を果たす。(2) 法的または業務上の根拠を持つ。(3) 取引相手とのやり取りに係わる。(4) モデル作成プロセスを通じて、オブジェクトに実装される。たとえば「注文」は、ビジネスエンティティクラスの1つである。	—	
Business Expert	業務専門家		A person who is knowledgeable about the business area being modelled.	モデル作成の対象となる業務に精通している人。		
Business Information Entity	ビジネス情報エンティティ	BIE	When a Core Component is used in a real business situation it is used to define a Business Information Entity. The BIE is the result of using a core construct within a specific business context.	コア構成要素は、ビジネス情報エンティティとして実ビジネスで使われる。ビジネス情報エンティティはコア構成要素に特定のビジネスコンテキストを適用した結果である。	UMM では Business Information Object (ビジネス情報オブジェクト) と呼ぶ。	CC/ Core Component Terminology

Business Information Group	ビジネス情報集合		A set of basic and/or aggregate information entities that convey a single business function.	単一の業務機能を伝える基本情報エンティティ、あるいは集約情報エンティティの集まり		TA Specification Terminology
Business Library	ビジネスライブラリ		A repository of business process specifications and business information objects within an industry, and of common business process specifications and common business information objects that are shared by multiple industries.	ある業界内におけるビジネスプロセス仕様とビジネス情報オブジェクトの保管庫、および複数の業界で共用される共通ビジネスプロセス仕様と共通ビジネス情報オブジェクトの保管庫。		OMG
Business Object	ビジネスオブジェクト		The term business object is used in two distinct but related ways, with slightly different meanings for each usage: In a business model, business objects describe a business itself, and its business context. The business objects capture business concepts and express an abstract view of the business's "real world". The term "modeling business object" is used to designate this usage. In a design for a software system or in program code, business objects reflects how business concepts are represented in software. The abstraction here reflects the transformation of business ideas into a software realization. The term "systems business objects" is used to designate this usage.	ビジネスオブジェクトという用語は二通りの用いられ方があり、若干意味が異なるが相互に関連性がある。 (1) ビジネスモデルにおいてはビジネスオブジェクトは業務そのもの及びそのコンテキストを記述する。ビジネスオブジェクトはビジネス概念を捉え、その実世界の業務の抽象ビューを表す。ビジネスオブジェクトのモデル作成という言い方は、この用法に該当する。 (2) ソフトウェアシステムの設計或いはプログラムコードにおいては、ビジネスオブジェクトはビジネス概念をどのようにソフトウェア上で実現しているかを表している。つまり業務上のアイデアをソフトウェアへ変換して実現することを意味している。システムビジネスオブジェクトといえはこの用法を意味する。	そのビジネスに本質的に必要な事柄・概念・プロセスなどを含んだオブジェクト群。そのビジネスの活動に本質的に必要な知識・情報を表現するエンティティオブジェクト、エンティティ群を利用して、意味のあるひとつかたまりのビジネス活動を表現するプロセスオブジェクトなどからなる。	Open-edition Reference Model - ISO/IEC 14662.
Business Operational View	事業運用ビュー	BOV	A perspective of business transactions limited to those aspects regarding the making of business decisions and commitments among organisations, which are needed for the description of a business transaction.	取引トランザクションを記述するのに必要な側面に限定した取引トランザクションの捉え方。すなわち、取引上の決定および企業間で結ばれる契約の側面に限定した捉え方。		
Business Operations Map	ビジネス作業図	BOM	The partitioning of business processes into business areas and business categories; first part of Requirements Workflow	ビジネスプロセスを取引分野や取引部門別に区分すること。要件ワークフロー（工程）の最初の部分である。		
Business Partner	取引当事者		An entity that engages in business transactions with another business partner(s).	他の取引当事者との取引トランザクションに関与する主体。	特定の取引トランザクションに関与している関係者（party）。	
Business Process	ビジネスプロセス		The means by which one or more activities are accomplished in operating business practices.	取引慣行の実施にあたって、一つ、あるいは複数の活動を実現するための手段。		
Business Process Interface	ビジネスプロセスインタフェース		The definition of how to interact with one partner role in order to make partner perform a desired service.	当事者に所定のサービスを実行させるにあたり、いかにして当事者の役割と相互に影響しあうかの定義。		BP Team Terminology

Business Process Specification Schema	ビジネスプロセス仕様スキーマ	BPSS	Defines the necessary set of elements to specify run-time aspects and configuration parameters to drive the partners' systems used in the collaboration.	当事者間の協働において用いるシステムの実行時仕様と構成パラメータを指定するために必要な要素の集合。		
Business Profile	ビジネスプロフィール		Describes a company's ebXML capabilities and constraints, as well as its supported business scenarios.	企業が扱う取引シナリオと、そのebXML 適合性と制約を記述するもの。		
Business Requirements View	取引要件ビュー	BRV	The view of a business process model that captures the requirements of a business collaboration protocol; second part of Requirements Workflow	ビジネスプロセスモデルでの、ビジネスコラボレーションプロトコルの要件を捉える見方。要件ワークフロー（工程）の第2段階。		UMM
Business Rule	取引規則		Rules, regulations and practices for business.	取引に際して用いられる規則、規制、慣行等。		BP Team Terminology
Business Service Interface	取引サービスインタフェース		An ebXML collaboration that is conducted by two or more parties each using a human or automated business service that interprets the documents and document envelopes transmitted and decides how to (or whether to) respond.	二者、あるいはそれ以上の当事者間で、人手または自動化されたサービスにより、送受信される文書および文書エンベロープを解釈し、どう応答するかを決定するための ebXML コラボレーション。		
Business Service View	取引サービスビュー	BSV	The view of a business process model that specifies the electronic formation of business contracts using an electronic medium; Design Workflow	ビジネスプロセスモデルでの、電子媒体を用いて取引契約の電子的構成過程を指定する見方。設計ワークフロー（工程）に該当する。		BP Team Terminology
Business Transaction	取引トランザクション		A business transaction is a logical unit of business conducted by two or more parties that generates a computable success or failure state.	成功、あるいは失敗の状態が計算機処理可能な、複数の当事者により遂行される論理的なひとまとまりの取引。（ebXML ビジネスプロセス仕様での定義）		
Business Transaction View	取引業務ビュー	BTV	The view in a business process model that specifies the contract formation process for various types of business contracts; Analysis Workflow	ビジネスプロセスモデルでの、さまざまな種類の契約に対する契約構成過程を指定する見方。分析ワークフロー（工程）に該当する。		
Certification	証明			登録されていることの証明		
Characteristic	特質			他と比べた場合に、そのものだけに見られる性質。ある情報エンティティの特質（Characteristic）と言う場合、その情報エンティティがもつ一つ以上の特性（Property）から引き出される性格を指す。		
Choreography	振り付け		A declaration of the activities within collaboration and the sequencing rules and dependencies between these activities.	コラボレーションにおけるアクティビティと、その順序規則、およびアクティビティ間の従属性を宣言するもの。		Rational Unified Process

Class	クラス		A description of a set of objects that share the same attributes, operations, methods, relationships, and semantics.	同一の属性、操作、メソッド、関係、および意味を共有するオブジェクトの集まり。	個々のオブジェクトに共通する性質を定義したものの。クラスはデータ構造(属性リスト)と振る舞い(操作リスト)、そして他のクラスとの関係を持つ。また、クラスは個々のオブジェクトの「型(テンプレート)」に相当する。	UML Glossary V1.3
Class Diagram	クラス図		A graphical representation that shows static structure of concepts, types, and classes. Concepts show how users think about the world; types show interfaces of software components; classes show implementation of software components.	概念、タイプ、およびクラスの静的な構造を図示するもの。概念はユーザが世界をどのように捉えているかを示し、タイプはソフトウェアコンポーネントのインターフェースを示し、クラスはソフトウェアコンポーネントの実装を示す(UML Distilled より)。クラス図は、クラス、タイプ、それらの内容および相互関係など、静的モデル要素の集まりを示す(Rational Unified Process より)。	クラスやタイプの内容と関係・関連などを図式化したもの。クラス図ではシステムの静的なビューを扱う。	ebXML CC Dictionary Naming Conventions
Code	コード		A character string (letters, figures or symbols) that for brevity and / or language independency may be used to represent or replace a definitive value or text of an attribute.	簡略化や言語中立性のために、属性の特定の値やテキストを代表する、あるいは代替する文字列(文字、数字、あるいは記号)。		Rational Unified Process Terminology
Collaboration	コラボレーション		Describes a pattern of interaction among objects; it shows the objects participating in the interaction by their links to each other and the messages they send to each other.	オブジェクト間の相互作用のパターンを記述するもの。相互の連携により、相互作用に参加するオブジェクトと、それぞれの相手に送信するメッセージを表わす。	オブジェクトと、それらのオブジェクト間でやり取りされるメッセージが相互作用する様子。	Rational Unified Process Terminology
Collaboration Diagram	コラボレーション図		A graphical representation of collaboration.	コラボレーションの図示表現。	コラボレーションを図式化したもの。コラボレーション図では、オブジェクト間やクラス間の接続関係を表現できる。メッセージの順番を表現する為には、メッセージ番号が必要になる。	CPA Specification Terminology
Collaboration Protocol	コラボレーションプロトコル		The protocol that defines for a Collaborative Process.	コラボレーションプロセス用に定義される手順。		CPA Specification Terminology
Collaboration Protocol Agreement	コラボレーションプロトコル合意書	CPA	Information agreed between two (or more) Parties that identifies or describes the specific Collaboration Protocol that they have agreed to use.	二者あるいはそれ以上の当事者が利用することを合意した特定のコラボレーションプロトコルを、識別、あるいは記述するそれらの当事者間での合意情報。		CPA Specification Terminology
Collaboration Protocol Profile	コラボレーションプロトコルプロファイル	CPP	Information about a Party that can be used to describe one or more Collaborative Processes and associated Collaborative Protocols that the Party supports.	当事者が扱う一つ、あるいは複数のコラボレーションプロセス、および当事者をサポートするために付随するコラボレーションプロトコルを記述するために利用できる当事者に関する情報。		CPA Specification Terminology
Collaborative Process	コラボレーションプロセス		A shared process by which two Parties work together in order to carry out a process.	二人の当事者が一つのプロセスを遂行するために協働するとき用いる共用プロセス。		BP Team Terminology

Commitment	約定		An obligation to perform an economic event (that is, transfer ownership of a specified quantity of a specified economic resource type) at some future point in time. Order line items are examples of commitments.	将来時点における取引行為（つまり、所定の財貨の所定の量の所有権移転）を履行する義務。発注明細は約定の例。		
Common Business Library	共通ビジネスライブラリ	CBL				BP Team Terminology
Common Business Process	共通ビジネスプロセス		A business process that is used with reasonable frequency in a business community.	ある業界においてかなりの頻度で利用されるビジネスプロセス。		Messaging Service Specification Terminology
Communication Protocol Envelope	通信プロトコルエンベロープ		The outermost envelope of an ebXML Message.	ebXML メッセージの最も外側の、通信手順及び規約を定義するエンベロープ（封筒）。		Rational Unified Process
Component	コンポーネント		A physical, replaceable part of a system that packages implementation and conforms to and provides the realization of a set of interfaces. A component represents a physical piece of implementation of a system, including software code (source, binary or executable) or equivalents such as scripts or command files.	実装をパッケージ化し、一連のインタフェースに適合、かつそれを実現できるようにする、システムの物理的な交換可能部分。コンポーネントは、システムの物理的実装部分を表すもので、ソフトウェアコード（ソース、バイナリ、あるいは実行可能コード）、または、それと同等のスクリプトやコマンドファイルなどがそれに該当する。	実装をパッケージ化し、インタフェースを介して外部と結合しており、差し替え可能な部品のような役割を果たすことが可能である。また、方法論によっては分析段階からコンポーネントを定義することが可能である。	Rational Unified Process
Component Diagram	コンポーネント図		A diagram that shows the organizations and dependencies among components.	コンポーネント間の組織構成や従属性を表すもの。	インタフェースを介してのコンポーネント間の依存関係を図式化したもの。	OMG
Component Interface	コンポーネントインタフェース		A named set of operations that characterize the behaviour of a component.	コンポーネントの動作を特徴付ける、一連の名前付き操作。	コンポーネントと接続され、コンポーネントの動作を特徴付ける、一連の名前付き操作。	UML Glossary V1.3
Concrete Class	具象クラス		A class that can be directly instantiated.	直接インスタンス化することが可能なクラス	—	ISO Guide 2
Conformance	適合性		Fulfilment of a product, process or service of all requirements specified; adherence of an implementation to the requirements of one or more specific standards or technical specifications.	製品、プロセス、あるいはサービスが所定のすべての要件を充足していること。一つ、あるいは複数の特定の標準、あるいは技術仕様に基づいて実装すること。		UMM
Constraint	制約		A condition or a restriction.	条件または制限。	正しいモデルにするために満たしておかなければならない条件や制限。	
Context	コンテキスト		Context is the addition of a semantic layer that describes the business use of an otherwise neutral set of components. When a business process is taking place, the context in which it is taking place can be specified by a set of contextual categories and their associated values.	コンテキストとは、そのままでは中立的で意味が特定できない構成要素に、付加的な意味を与えるレイヤーである。ビジネスプロセスにおいてコンテキストが使用される場合は、コンテキスト分類とその値によって定義される。		CC/ Core Component Terminology

Control Agency	管理機関		Agency responsible for controlling the content of a basic information entity	基本情報エンティティの内容について管理責任を持つ機関。		Rational Unified Process
Control Class	制御クラス		A class used to model behaviour specific to one, or a several use cases.		処理を制御する役割を担ったクラス。	CC/ Core Component Terminology
Core Component	コア構成要素	CC	A building block for the creation of a semantically correct and meaningful information exchange 'parcel'. It contains only the information pieces necessary to describe a specific concept.	構造化され、正しいセマンティック上の意味を持った、情報交換で使用される情報の塊。	コア構成要素は、CCT(コア構成要素タイプ)、BCC(基本コア構成要素)およびACC(集約コア構成要素)の総称。	CC/ Core Component Terminology
Core Component Type	コア構成要素タイプ		This is a Core Component that has no business meaning on its own. For example, date on its own has no business meaning, whereas the date of birth, the contact date, the delivery date do express business meaning. Each Core Component Type contains one Content Component that carries the actual content. It will also contain Supplementary Component(s) that provide essential definition to the content.	それ自体では何ら業務的な意味を持たないコア構成要素。「日付」それ自身はビジネス上の意味を持たないが、「誕生日」、「連絡日」や「配達日」はビジネス上の意味を表す。それぞれのコア構成要素タイプは、実の値を内容として表す。また、その内容を規定するための補助情報も持つことができる。	例えば、「12」だけでは意味を持たないが、キロメートルや円と言う補助情報により「12キロメートル」や「12円」となり、有意な情報となる。	
Core Library	コアライブラリ		Contains data and process definitions, including relationships and cross references, as expressed in business terminology that may be tied to accepted industry classification scheme or taxonomy.	関連と相互参照を含む、データ、およびプロセス定義を保有するもので、それを受け入れる業界分類体系、あるいは用語体系に応じたビジネス用語により表現される。		CC/ Core Component Terminology
Data Type	データ型		A type of data to be used to represent the content of an information entity.	情報エンティティの内容を表現するために使用されるデータの型。		
Deliverables	成果物		An output from a process that has a value, material or otherwise, to a customer or other stakeholder.	顧客あるいは他の利害関係者にとって、価値、重要性、あるいは何らかの意味のある、プロセスの出力結果。		
Deployment Diagram	配置図		A diagram that shows the configuration of run-time processing nodes and the components, processes, and objects that live on them. Components represent run-time manifestations of code units. See component diagram.	実行時の処理ノードの構成、およびそのもとで動作するコンポーネント、プロセス、およびオブジェクトを図示するもの。コンポーネントは、コードユニットの実行形式。	コンポーネントがどのノードに割り当てられているのかを図式化したもの。	Rational Unified Process
Design	設計		The part of the software development process whose primary purpose is to decide how the system will be implemented. During design, strategic and tactical decisions are made to meet the required functional and quality requirements of a system.	システムの実装方法を決定することを主目的とする、ソフトウェア開発工程の一部。設計工程では、システムの要求機能と品質要件を満たすために戦略的、戦術的意思決定が行われる。	ソフトウェア開発プロセスで、システムをどのように実装するかを決定すること。	Rational Unified Process

Design Patterns	デザインパターン		A specific solution to a particular problem in software design. Design patterns capture solutions that have developed and evolved over time, expressed in a succinct and easily applied form.	ソフトウェア設計上の課題に対する特定の解決策。デザインパターンは時間をかけて開発、改良を続けてきた解決策を捉え、簡潔かつ簡単に適用された形で表現する。	ソフトウェアの設計上での問題を解決する際に用いる典型的な形式。パターンを適応・再利用・応用して利用することで時間を節約して、リスクを軽減できる。	Rational Unified Process
Diagram	ダイアグラム		A graphical depiction of all or part of a model. RUP UML: A graphical presentation of a collection of model elements, most often rendered as a connected graph of arcs (relationships) and vertices (other model elements). UML supports the following diagrams: class diagram, object diagram, use-case diagram, sequence diagram, collaboration diagram, statechart diagram, activity diagram, component diagram, and deployment diagram.	1つのモデルの全体または一部の図示表現。大抵は弧線(関連)と頂点(他のモデル要素)の結合グラフを用いて、モデル要素の集まりを図形表現したもの。UMLでは以下のダイアグラムがサポートされる: クラス図、オブジェクト図、ユースケース図、シーケンス図、コラボレーション図、ステートチャート図、アクティビティ図、コンポーネント図及び配置図。	—	Digital Signature Scheme ISO 9796
Digital Signature	デジタル署名		A digital code that can be attached to an electronically transmitted message that uniquely identifies the sender	電子的に伝送されるメッセージに添付し、送信者を一意に識別することを可能にするデジタルコード。		TA Specification Terminology
Distributed Registry	分散レジストリ		Federation of multiple registries that behaves logically as one registry.	論理的には一つのレジストリとして機能する複数レジストリの連合体。		XMI Glossary: OMG
Document Type Definition	文書型定義	DTD	Allows different instances of documents of the same type to be automatically processed in a uniform way.	同じタイプの文書の異なるインスタンスを自動的に統一の方法で処理することを可能とするもの。		CC/ Core Component Terminology
Domain	ドメイン		A district or area under someone's control, range of influence.	特定の人や組織により管理され、影響が及ぼされる領域。	互いに関連のある複数のシステムで構成し、共通の特徴を持った知識または活動の1領域。その領域(業界・地域)の構成員の間に共通の理解が得られている考え方や用語によって特徴付けられる。	Technical Architecture terminology
ebXML Infrastructure	ebXML 基盤		The full complement of technical specifications encompassed within the ebXML framework.	ebXML フレームワークで網羅される技術仕様をすべて提供するもの。		BP Team Terminology
Economic Contract	取引約定		A subtype of agreement between partner types that some actual economic exchanges will occur in the future.	当事者間で、将来的に財貨の交換が実際に履行される、契約の一種(契約のサブタイプ)。REA(Resource Event Agent)モデル用語。		BP Team Terminology
Economic Event	取引行為		The transfer of control of an economic resource from one party to another party.	一方の当事者から他方の当事者への取引財貨の支配権の移転。REA(Resource Event Agent)モデル用語。		BP Team Terminology
Economic Resource	取引財貨		A quantity of something of value that is under the control of an enterprise.	ある企業の支配下にある、ある量の何らかの価値。REA(Resource Event Agent)モデル用語。		BP Team Terminology
Economic Resource Type	取引財貨タイプ		An economic resource type is the abstract classification or definition of an economic resource.	取引財貨の抽象分類概念、あるいは定義。REA(Resource Event Agent)モデル用語。		MoU

EDI Message	EDI メッセージ		An approved, published, and maintained formal description of how to structure the data required to perform a specific business function, in such a way as to allow for the transfer and handling of this data by electronic means.	特定の取引手続きを実行するために必要なデータを構造化する方法として承認、発行、および維持されている形式記述。データの転送および取り扱いは、電子的な手段を用いて転送、処理する必要がある。		MoU
EDIFACT Messages	EDIFACT メッセージ		A electronic message formats based on UN/EDIFACT standard set developed and maintained by the UN/EDIFACT Working Group which are in UN/TDID directories.	UN/EDIFACT 標準セットに基づいた電子メッセージの形式。UN/EDIFACT 作業グループによって開発 / 維持され、UN/TDID のディレクトリに保管されている。		UN/EWG
EDIFACT Working Group	EDIFACT 作業グループ	UN/EWG	To develop and maintain UN/EDIFACT, support of harmonised implementations and the use of multi-lingual terminology.	UN/EDIFACT を開発、維持する UN/CEFACT の作業グループの一つ。その協調性のとれた実装サポート、および複数言語対応用語集の使用も担当している。		
Elaboration Phase	推敲段階		The second phase of the process where the product vision and its architecture are defined.	RUP(ラショナル統一プロセス)の第二段階。製品のビジョンおよびその構造が定義される。	RUP(ラショナル統一プロセス)の第二段階。分析段階で挙げられたユースケースを詳細に渡って定義し、システムアーキテクチャを設計するフェーズ。	(MoU)
Electronic Business	電子ビジネス	eBusiness	A generic term covering information definition and exchange requirements within and between enterprises by electronic means	企業内、および企業間における情報の定義および情報交換の必要条件を一般的に表す言葉。定義には、顧客との間の情報交換も含まれる。		
electronic business XML	ebXML	ebXML				UN/CEFACT SIMAC
Electronic Commerce	電子商取引	EC	Electronic Commerce is doing business electronically. This includes the sharing of standardised unstructured or structured business information by any electronic means.	取引を電子的に行うこと。これには、標準化された非構造化取引情報、あるいは構造化取引情報を何らかの電子的な手段（電子メール、メッセージの交換、Web 技術、電子掲示板、スマートカード、電子送金システム、電子データ交換システム、自動データ取得技術など）を用いて共用することが含まれる。		(Open-edition Reference Model Standard - ISO/IEC 14662). (MoU)
Electronic Data Interchange	電子データ交換	EDI	The automated exchange of any predefined and structured data for business among information systems of two or more organizations.	複数組織の情報システム間で、あらかじめ定義され構造化された取引データを自動的に交換すること。		UML Glossary V1.3
Element	要素		An atomic constituent of a model.	モデルの原子的構成要素。	XML 構文では、XML 文書を構成する単位。	IETF RFC 2828
Encryption	暗号化		Cryptographic transformation of data (called "plaintext") into a form (called "ciphertext") that conceals the data's original meaning to prevent it from being known or used.	元のデータ（平文）を、その意味が判読されない、あるいは利用されない形（暗号文）に暗号化変換すること。		



Entity Classes	エンティティクラス		A class used to model information that has been stored by the system, and the associated behaviour. A generic class, reused in many use cases, often with persistent characteristics. An entity class defines a set of entity objects, which participate in several use cases and typically survive those use cases.	システムに格納されている情報とその振る舞いをモデル化する際に用いられるクラス。多くのユースケースで再利用される汎用クラスで、永続的な特性を持つ場合が多い。エンティティクラスは、複数のユースケースで用いられ、通常ユースケースが終了するまで生き続ける一連のエンティティオブジェクトを定義する。	実体を表すクラス。長期間存在する、永続性のある情報をモデル化する際に用いることが多い。エンティティクラスは、個人、実社会のオブジェクト、実社会のイベントなどといった何らかの現象や概念に関する情報と、それに関連しているものを表すクラス。 制御クラスは、処理を管理・制御しているのクラスであり、メッセージを受けて実際に稼動するのはエンティティクラスである。	
Enumerations	列挙		A class used to model information that has been stored by the system, and the associated behaviour. A generic class, reused in many use cases, often with persistent characteristics. An entity class defines a set of entity objects, which participate in several use cases and typically survive those use cases.	名前付き値の一覧。特定の属性タイプの定義域を示すために用いられる。たとえば、RGBColor = {red, green, blue}。ブール演算子は既定義の演算で、値は集合 {false, true} の要素によって与えられる。		UN/CEFACT SIMAC
eXtensible Markup Language	拡張マークアップ言語	XML	XML is designed to enable the exchange of information (data) between different applications and data sources on the World Wide Web and has been standardized by the W3C.	WWW 上の異なるアプリケーションおよびデータソースの間で情報(データ)の交換を可能とするために、W3C によって標準化されたマークアップ言語の一種。		
Formal Description Technique	形式記述技法		A specification method based on a description language using rigorous and unambiguous rules both with respect to developing expressions in the language (formal syntax) and interpreting the meaning of these expressions (formal semantics).	言語での表現法(公式の構文)の開発とそれらの表現の意味の解釈(公式の意味)との両面について、厳密であいまいさのない規則を用いた記述言語による仕様化手法。		Open-edition Reference Model, ISO/IEC 14662
Functional Service View	機能サービスビュー	FSV	A perspective of business transactions limited to those information technology interoperability aspects of IT systems needed to support the execution of open-edition transactions.	標準電子取引トランザクションの実行をサポートするために必要な、ITシステムにおける情報技術の互換性に焦点が絞られている取引トランザクションの一側面。		CC/ Core Component Terminology
Functional Set	機能集合		A set of alternative representations for the same semantic concept.	同一の意味概念に対する代替表現の集合。		Rational Unified Process
Generalization	汎化		A taxonomic relationship between a more general element and a more specific element. The more specific element is fully consistent with the more general element and contains additional information. An instance of the more specific element may be used where the more general element is allowed. See inheritance.	一般的要素と特定要素との間の分類上の関係。特定要素は、その一般的要素に対し、まったく矛盾する点がなく、追加的な情報のみを含む関係。特定要素のインスタンスは、その一般的要素が許容される状況において用いることができる。	より一般的な要素とそれを除いたより特殊な要素との関係を表す。1つ以上の要素の共通な構造や振る舞いを一般的な要素(スーパークラス)として共有して、要素独自の部分は特殊な要素(サブクラス)として定義する。	NIST

Implementation	実装		An implementation is the realization of a specification.	仕様の実現のこと。		RUP
Inception phase	方向付け段階		The first phase of the Unified Process, in which the seed idea, request for proposal, for the previous generation is brought to the point of being (at least internally) funded to enter the elaboration phase.	ラショナル統一プロセス (Rational Unified Process) の第1段階。前世代の仕組みに対する要求やアイデアが提起され、次の推敲段階 (Elaboration Phase) のベースとなる。	RUP の第1段階である。要求分析を行うフェーズであり、その際には、システムの機能分析・アーキテクチャの構成やコスト面も含めて分析する。	ISO 14662
Information Bundle	情報束		The formal description of the semantics of the information to be exchanged by Open-edi Parties playing roles in a Open-edi scenario.	標準電子取引シナリオの中で役割を果たす標準電子取引当事者間で交換される情報の意味の形式記述。		Rational Unified Process Terminology
Inheritance	継承		The mechanism by which more specific elements incorporate structure and behaviour of more general elements related by behaviour.	振る舞いによって関連付けられる、一般性要素の構造及び振る舞いを特定要素に組み込む仕組み。汎化 (generalization) の項を参照のこと。	一般的な要素と振る舞いを一体化して別の要素に取り入れを可能にするメカニズム。	Rational Unified Process Terminology
Instance	インスタンス		An entity to which a set of operations can be applied and which has a state that stores the effects of the operations.	一連の操作が適用可能で、その操作結果を格納する状態を持つエンティティ。	オブジェクトとほぼ同義で使用される。クラス概念に対して、クラスが表現している型(テンプレート)の具体例であるオブジェクトを、特にクラスとして区別する場合にインスタンスと呼ぶ。	UML Glossary V1.3
Interaction Diagram	相互作用図		Shows how several objects collaborate in single use case.	ある一つのユースケースの中で、幾つかのオブジェクトが協同する様子を図示するもの。	オブジェクト間の相互作用の様子を図式化したものである。システムの動的ビューを扱う。相互作用図には、オブジェクト間の接続関係を表現するのに適しているコラボレーション図とオブジェクト間の相互作用を時系列に表現するのに適しているシーケンス図がある。	Rational Unified Process
Interface	インタフェース		A collection of operations that are used to specify a service of a class or a component. A named set of operations that characterize the behaviour of an element.	あるクラスまたはコンポーネントに属するサービスを指定する操作の集まり。ある要素の振る舞いを特徴付ける一連の名前付き操作。(behaviour の訳語は振る舞いとなっているのが)	クラス・オブジェクト・コンポーネントあるいは他の実体において外部的に公開しているオブジェクトの操作方法。クラス・オブジェクト・コンポーネントの場合に、インタフェースは操作のシグニチャを含む。	
International Standard Organisation	国際標準化機構	ISO	The International Organization for Standardization.	国際標準化機構		

Lexicon	レキシコン		The word lexicon used in UN/CEFACT Modeling Methodology express the bridge between the specific business or industry language and the knowledge expressed by the models in a more generalized industry neutral language. The lexicon contains data and process definitions including relationships and cross-references as expressed in business terminology.	レキシコン(語彙目録)という言葉が UN/CEFACT Modeling Methodology にて用いられる場合、特定の取引または業界用語と、業界に依存しないより一般的なモデルを用いた表現との間の橋渡しを意味する。レキシコンには、ビジネス用語で表現された関係およびクロスリファレンスを含む、データおよびプロセスの定義が含まれる。		Messaging Service Specification Terminology
Message Envelope	メッセージエンベロープ		A communication independent envelope, specifically MIME multipart/related, which contains the two main parts of an ebXML compliant message (the Header and Payload containers).	とくに MIME のマルチパート関連の通信独立のエンベロープで、ebXML 適合メッセージの二つの主パート(ヘッダコンテナと搬送内容コンテナ)を含むもの。		Messaging Service Specification Terminology
Message Header	メッセージヘッダ		A specification of the structure and composition of the information necessary for an ebXML Messaging Service to successfully generate or process and ebXML compliant message.	ebXML メッセージ取扱サービスが ebXML 適合メッセージをきちんと生成、あるいは処理するために必要な情報の構造、および構成の様式。		Messaging Service Specification Terminology
Message Service	メッセージ取扱サービス		A framework that enables interoperable, secure and reliable exchange of Messages between Trading Partners.	商取引当事者間で、相互運用性があり、かつ安全確実なメッセージ交換を可能とするフレームワーク。		Rational Unified Process
Messages	メッセージ		A specification of the conveyance of information from one instance to another, with the expectation that activity will ensue. A message may specify the raising of a signal or the call of an operation.	何らかのアクティビティが実行されることを想定して、一つのインスタンスから別のインスタンスへ送られる情報の伝達仕様。メッセージには、信号の発生、あるいは操作の要求を指定することができる。	オブジェクト間の通信仕様で、情報を伝え、その結果アクティビティが発生することを想定したもの。通常、メッセージの受信はイベントと考えることができる。	Messaging Service Specification Terminology
Messaging Capability	メッセージ取扱機能		The set of capabilities that support exchange of Documents between Parties.	当事者間で文書交換を扱う機能の集合。		TA Specification Terminology
Messaging Service Layer	メッセージ取扱サービスレイヤ		Enforces the "rules of engagement" as defined by two Trading Partners in a Collaboration Protocol Agreement (including, but not limited to security and Business Process functions related to Message delivery).	コラボレーションプロトコル合意書(メッセージ配信に関わる機密保護、および業務プロセス機能を含むがそれに限定されるわけではない)において両方の商取引当事者により定義する形で、参加規則を適用するもの。		
Meta Object Facility	メタオブジェクトファシリティ	MOF	Meta Object Facility			
Metaclass	メタクラス		A class whose instances are classes. Metaclasses are typically used to construct metamodels.	そのインスタンスがクラスであるようなクラス。メタクラスは通常、メタモデルの構築に用いられる。		
Metamodel	メタモデル		A model that defines the language for expressing a model.	モデルを表現するために用いられる言語を定義するモデル。		

Metaobjects	メタオブジェクト		A generic term for all metaentities in a metamodeling language. For example, metatypes, metaclasses, metaattributes, and metaassociations.	メタモデル記述言語で用いられる全てのメタエンティティを表す一般的な用語。たとえば、メタタイプ、メタクラス、メタ属性、メタ関連など。		Rational Unified Process Terminology
Method	メソッド		The detailed, logically ordered plans or procedures followed to accomplish a task or attain a goal.	課題を遂行する、あるいは目標を達成するときに踏まえる、論理的に順序化された詳細な段取りや手順。	振る舞い(操作)の実装。操作の結果をもたらすアルゴリズムまたは手続き。	
Methodology	方法論		The science of method. a body of methods used in a particular branch of activity.	技法の科学的体系。特定のアクティビティに用いられるメソッドの本体。		Rational Unified Process
Model	モデル		A semantically closed abstraction of a system. In the Unified Process, a complete description of a system from a particular perspective ('complete' meaning you don't need any additional information to understand the system from that perspective); a set of model elements. Two models cannot overlap. A semantically closed abstraction of a subject system.	意味論的に範囲を限定したシステムの抽象概念。Unified Processでは、ある特定の観点からの、一つのシステムの完備な記述のこと(「完備」とは、この観点からシステムを理解するにあたり、情報の追加を必要としないことを意味する)。モデル要素の集まり。2つのモデルが互いに重複することはない。意味論的に範囲を限定したある課題に対するシステムの抽象概念。	範囲を限定した現実を単純化したもの。開発しよとするシステムをより深く、ユーザから開発者までの幅広い人々が仕様について理解できるようにするために作成するもの。	
Modeling tools	モデル作成ツール		Any device or implement used to carry out modeling whether manually or by a machine.	人手、あるいは機械によりモデル記述を実施する際に用いられる装置または導入ソフトウェア。	モデル記述やそれに伴うコード生成が実行可能なソフトウェア(ケースツール)。	
Multipurpose Internet Message Extensions	多目的インターネットメッセージ拡張	MIME	Multipurpose Internet Message Extensions	インターネットメールのメッセージを拡張する方法の規定。		
Naming	名前付け		To give a string used to identify a model element.	モデル要素を識別するために用いられる文字列を与えること。		
Object Constraints Language	オブジェクト制約言語	OCL	OCL is a specification language that uses logic for specifying invariant properties of systems comprising sets and relationships between sets.	集合および集合間の関係を構成するシステムの不変的特性を指定するためのロジックを使用する指定言語。		Rational Unified Process
Object diagram	オブジェクト図		A diagram that encompasses objects and their relationships at a point in time. An object diagram may be considered a special case of a class diagram or a collaboration diagram.	ある時点におけるオブジェクト、およびそれら相互間の関係を網羅するダイアグラム。オブジェクト図は、クラス図またはコラボレーション図の特殊なケースとして捉えることが可能である。		
Object Oriented Approach	オブジェクト指向アプローチ	OOA	The development of classes of business objects may support and have an impact on the developments in the area of simplification of EDI and its standards. A business object is a true representation of a tangible concept stemming from real business usage.	ビジネスオブジェクトのクラスを開発することは、EDI およびその標準規格を単純化する分野において、開発を支援したり、大きな影響を及ぼす可能性がある。ビジネスオブジェクトは、現実の取引に根ざす具象的な概念を実際に表現するものである。	データ構造と振る舞いが一体となったオブジェクトを単位としてシステムを分析・設計・実装する方法。カプセル化(インタフェースのみを外部に公開してその実装を隠すこと)、継承などの機能を利用することで、依存性の低い、より独立した、再利用しやすい単位でシステム構築を可能にするアプローチ。	

Objects	オブジェクト		An entity with a well-defined boundary and identity that encapsulates state and behaviour. State is represented by attributes and relationships, behaviour is represented by operations, methods, and state machines. An object is an instance of a class.	明確に定義された境界、および状態と振る舞いを内包する識別性を備えたエンティティ。状態は属性および関係によって表され、振る舞いは操作、メソッド、および状態マシンによって表される。オブジェクトはあるクラスの一つのインスタンスである。	現実世界を構成する物事や概念を具体的に表現したものの。	(MoU) Check reference.
Open-edi	標準電子取引		Electronic data interchange among multiple autonomous organizations to accomplish an explicit shared business goal.	明示的に共通認識されている取引目標を達成するために、複数の自律組織間で行われる電子的なデータ交換。		Rational Unified Process Terminology
Package	パッケージ		A general-purpose mechanism for organizing elements into groups.	要素をグループに編成する汎用メカニズム。パッケージは、別のパッケージの中に入れ子構造にすることが可能である。	モデル要素をグループ化するメカニズム。UML の全てのモデル要素と図は、パッケージにいれることが可能である。	UML Glossary V1.3
Package Diagram	パッケージ図		Shows groups of classes and dependencies among them.	クラスの集まり (グループ)、およびこれら間の依存関係を示すもの。	パッケージを用いてシステムを図式化したもの。	CPP & CPA Specification Terminology
Party	関係者		A Party is an entity such as a company, department, organisation or individual that can generate, send, receive or relay Documents.	文書を生成、送信、受信、あるいは伝達できる企業、部門、組織、あるいは個人などの主体。	電子ビジネスのコミュニティに登場、あるいは関与する役割のプレイヤーのこと。「Party」が一般的 (特定されていない) に使用されるときは「関係者」であり、特定されている場合は「当事者」とする。	CPA Specification Terminology
Party Discovery Process	関係者探索プロセス		A Collaborative Process by which one Party can discover CPP information about other Parties.	一方の当事者が他方の当事者に関する CPP 情報を探索可能とする協働プロセス。		UML Distilled
Patterns	パターン		offers useful bits of analysis, design, and coding techniques. Good examples to learn from; starting point for designs.	分析、設計、およびコード作成に活用できる有用なテクニックの断片を提供するもの。学習にあたっての好適な事例で、設計を開始する際のたたき台となる。	ソフトウェアの分析・設計・実装上での問題を解決する際に用いる典型的な形式。パターンを適応・再利用・応用して利用することで時間を節約して、リスクを軽減できる。	Messaging Service Specification Terminology
Payload	搬送内容		A section of data/information that is not part of the ebXML wrapping.	ebXML の搬送用の封筒部分には該当しないデータ又は情報部分。		Messaging Service Specification Terminology
Payload Container	搬送コンテナ		An optional container used to envelope the real payload of an ebXML message. If a payload is present, the payload container must consist of a MIME header portion (the ebXML Payload Envelope) and a content portion (the payload itself).	ebXML メッセージの実際の搬送内容を封入するために用いる搬送容器。搬送内容が存在する場合には、搬送コンテナは、MIME ヘッダ部分 ( ebXML 搬送エンベロープ ) と搬送内容部分 ( 搬送内容そのもの ) を含む必要がある。		Messaging Service Specification
Payload Envelope	搬送エンベロープ		The specific MIME headers that are associated with a MIME part.	MIME 部分に付随する特定の MIME ヘッダ。		Rational Unified Process

Phases	段階		The time between two major project milestones, during which a well-defined set of objectives is met, artifacts are completed, and decisions are made to move or not move into the next phase.	プロジェクトにおける二つの主要な経過確認ポイント間の時間区間。その間に、明確に定義された一連の目的を満足し、生成物を仕上げたうえで、次の段階へ進むか否かの意思決定を行う。	プロセスの2つのマイルストーンには含まれた期間	
Process	プロセス		A series of actions directed toward a particular aim	特定の目的に向かって実行される一連の活動		
Projects	プロジェクト		A task or scheme that requires a large amount of time, effort, and planning to complete	成し遂げるために多大の時間、努力、および計画を必要とする課題、あるいは目論見。		Rational Unified Process
Protocol	プロトコル		A specification of a compatible set of messages used to communicate between capsules. The protocol defines a set of incoming and outgoing messages types (e.g. operations, signals), and optionally a set of sequence diagrams which define the required ordering of messages and a state machine which specifies the abstract behaviour that the participants in a protocol must provide.	カプセルの間で通信を行う際に用いられる、互換性のあるメッセージ集合の仕様。プロトコルは、入力および出力される一連のメッセージタイプ(例:操作、信号)を定義する。さらにオプションとして、所定のメッセージの順序付けを定義する一連のシーケンス図、およびあるプロトコルへの参加者が提供する必要のある抽象的振る舞いを指定する状態マシンを定義する。		
Register	登録簿		An official list in which items are recorded for reference (list of elementary data in which the meaning -i.e. semantics- of these data is defined).	参照のために、項目が記録されている公式の一覧簿(それらのデータの意味が定義されている基本データの一覧)。		TA Specification Terminology
Registry	レジストリ		A mechanism whereby relevant repository items and metadata about them can be registered such that a pointer to their location, and all their metadata, can be retrieved as a result of a query.	関連する登録項目とそのメタデータが、その所在位置を指すポイントおよびすべての関連メタデータのある検索操作により検索可能となるように登録できる仕組み。		Defined in ISO11179
Registry Authority	レジストリ管理機関		An organisation responsible for maintaining a registry.	レジストリを保守管理する責任を持つ組織。		TA Specification Terminology
Registry Clients	レジストリクライアント		An ebXML application that makes use of services offered by a Registry using the messaging services.	レジストリにより提供されるサービスをメッセージ取り扱いサービスを用いて利用する ebXML アプリケーション。		
Registry Entry	レジストリエントリ		To refer to an object that provides metadata about a repository item.	登録項目に関するメタデータを提供するオブジェクトを参照すること。		
Registry Infrastructure Provider	レジストリ基盤提供者		An entity which provides a registry/ repository to store profiles, CPPs etc.	実装規約や CPPなどを格納するレジストリやリポジトリを提供する主体。		TA Specification Terminology
Registry Interface	レジストリインタフェース		A set of Registry Services that provide access to Registry content to clients of the Registry is defined in the ebXML Registry Services Specification.	レジストリクライアントがレジストリ内容をアクセスするために提供される一連のレジストリサービス。ebXML レジストリサービス仕様で規定されている。		TA Specification Terminology
Registry Item	登録項目		The content registered in a repository.	登録簿に登録されている内容。		ebXML Registry Services Specification 222

Registry Service	レジストリサービス		A way of providing access to Registry content to clients of the Registry.	登録簿の内容へのアクセスを登録簿利用者に提供する方法。		Rational Unified Process
Relationship	関連		A semantic connection among model elements. Examples of relationships include associations and generalizations.	モデル要素間の意味的な接続。関係の例として、関連付けや汎化がある。		TA Specification Terminology
Repository	リポジトリ		A location or set of distributed locations where Repository Items, pointed at by the registry, reside and from which they can be retrieved.	レジストリによって指し示される登録項目が置かれ、検索される所在位置、あるいは分散所在位置の集まり。		CC/ Core Component Terminology
Representation Type	表現形式型		Type of data to be used to represent the content of an information entity	ある情報エンティティの内容を表すために用いられるデータのタイプ。		Rational Unified Process
Re-use	再利用		Further use or repeated use of an artifact	生成物の更なる利用または繰り返し利用。		UML Glossary V1.3
Role	役割		The named specific behaviour of an entity participating in a particular context.	特定のコンテキストに参加するエンティティの行う、名前付きの特定の振る舞い。	2 つクラス間に存在する役割や立場、責任を示すものであり、関連の一方または両方の端にロール名を付けて表現する。オブジェクト/ロール名で表現することも可能である。	(ISO 19735 part 1)
Scenario	シナリオ		A formal specification of a class of business activities having the same business goal.	同じ取引目標を持つ取引活動が形成するクラスの形式仕様。		Rational Unified Process
Schema	スキーマ		In the context of the MOF (Metadata Object Facility), a schema is analogous to a package which is a container of model elements. Schema corresponds to an MOF package. Contrast metamodel, package corresponds to an MOF package.	MOF (Metadata Object Facility) のコンテキストにおいては、スキーマは、モデル要素のコンテナであるパッケージに類似している。スキーマは MOF パッケージに対応している。メタモデル (metamodel) とは対照的に、パッケージは MOF パッケージに対応している。		IETF RFC 2828
Security Model	セキュリティモデル		A schematic description of a set of entities and relationships by which a specified set of security services are provided by or within a system.	あるシステムが内装する、あるいは提供する、所定の機密保護サービスを提供するためのエンティティおよび関連の集合を体系的に記述するもの。		IETF RFC 2828
Security Policy	セキュリティ施策		A set of rules and practices that specify or regulate how a system or organization provides security services to protect sensitive and critical system resources.	機密性が高い重要なシステム資源を守るために、システムあるいは組織が提供する機密保護サービスをどのように指定、あるいは制度化するかを規定する規則および実践。		COD
Semantics	意味情報		Relating to meaning in language; relating to the connotations of words.	ことばの意味との関係。単語の暗示の意味との関係。		Rational Unified Process Terminology

Sequence Diagram	シーケンス図		A diagram that shows object interactions arranged in time sequence. In particular, it shows the objects participating in the interaction and the sequence of messages exchanged. Unlike a collaboration diagram, a sequence diagram includes time sequences but does not include object relationships. A sequence diagram can exist in a generic form (describes all possible scenarios) and in an instance form (describes one actual scenario). Sequence diagrams and collaboration diagrams express similar information, but show it in different ways.	オブジェクト間の相互作用を時間経過に沿って整理した図。とくに、オブジェクト間の相互作用に参加したオブジェクト、および交換されたメッセージのシーケンスを表す。シーケンス図は、コラボレーション図とは異なり、時間的順序は記述するが、オブジェクトの相互関係は記述しない。シーケンス図は、汎化形式（可能なシナリオを全て記述する）と、インスタンス形式（一つの実シナリオを記述する）のどちらの形式もある。シーケンス図とコラボレーション図は、似たような情報を表現するが、異なる方法で表す。	相互作用図の1つであり、オブジェクト間のメッセージのやり取りを時系列に沿って並べて図式化したもの。コラボレーション図では、メッセージに順番を付けることで、同様のことを表現することが可能である。	Rational Unified Process
Signature	シグニチャ		The name and parameters of a behavioural feature. A signature may include an optional returned parameter.	振る舞いの機能の名前およびパラメータ。シグニチャには、戻りパラメータを含めることができる（オプション）。	操作、メッセージあるいはシグナルの名前、引数、そして戻り値を示す文字列。これらの中には、戻り値、メッセージ名、引き数リストなどの特質が存在する。	UN/CEFACT SIMAC
Simple Electronic Business	シンプル電子ビジネス	SEB	Simple Electronic Business is the application of simplified business processes, using core application data, and new and existing standardised techniques that support paperless and efficient operations.	コアアプリケーションデータ、およびペーパーレスで効率的な運用を支援する新たな、あるいは既存の標準技術を利用する、簡略化されたビジネスプロセスのアプリケーション。		UN/CEFACT SIMAC
SIMPL-EDI	シンプルEDI		Subsets of UN/EDIFACT messages especially designed for SMEs. Simple Electronic Business defines simplest processes and their required core data allowing the exchange of the minimum data to effect a business transaction electronically.	SME（中小企業）を特に考慮して設計された UN/EDIFACT メッセージの部分集合。シンプル電子ビジネスは、取引トランザクションを電子的に有効なものとする最小限のデータ交換を可能とする最も単純なプロセスとその所定のコアデータを定義する。		
Specification Schema	仕様スキーマ		An additional view of a meta model.	メタモデルの追加的なビュー。		Rational Unified Process
Stakeholder	利害関係者		An individual who is materially affected by the outcome of the system.	システムの成否によって多大な影響を受ける個人。	—	UML Distilled
State Chart Diagram	ステートチャート図		Shows how single object behaves across many use cases.	一つのオブジェクトが数多くのユースケースにまたがって、どのように振舞うかを示す図。	1つのオブジェクトに注目して、その状態の変化を表した図。外部からの刺激に対する、あるオブジェクトの反応の様子を示す。	Rational Unified Process
State Machine	ステートマシン		A behaviour that specifies the sequences of states that an object or an interaction goes through during its life in response to events, together with its responses and actions.	一つのオブジェクト、あるいは相互作用が、事象に対する応答におけるライフサイクルの間に経過する状態のシーケンスを、その応答、およびアクションとともに指定する一つの振る舞い。	オブジェクトがそのライフサイクルの中で、イベントへの応答として通過する状態をそれらのイベントへの応答と一緒に指定する。	Rational Unified Process



States	状態		A condition or situation during the life of an object during which it satisfies some condition, performs some activity, or waits for some event. Contrast state [OMA].	オブジェクトのライフサイクルの中で、そのオブジェクトが何らかの条件を満足するか、何らかの動作を実行するか、あるいは何らかのイベントの発生を待つ条件、または状況。	そのオブジェクトがとりうる1つの状態、段階を示す。オブジェクトに属する状態は、状態遷移によって変化し、そのオブジェクトが持つ属性値の範囲や、イベントによって変化する。	OMG
Stereotype	ステレオタイプ		A new type of modeling element that extends the semantics of the metamodel. Stereotypes must be based on certain existing types or classes in the metamodel. Stereotypes may extend the semantics, but not the structure of pre-existing types and classes. Certain stereotypes are predefined in the UML, others may be user defined. Stereotypes are one of three extensibility mechanisms in UML..	メタモデルの意味情報を拡張する、新しいタイプのモデル記述要素。ステレオタイプは、メタモデル内の既存のタイプまたはクラスにもとづき定義する必要がある。ステレオタイプは、意味情報を拡張することはできない。ある種のステレオタイプは UML にあらかじめ定義されているが、その以外はユーザが定義可能である。ステレオタイプは UML における三つの拡張メカニズムのうちの一つである。	UML の拡張メカニズムの1つ。個々のユーザ問題に固有の新しい規則を追加したり、既存の規則を修正したりして、UML のモデルを拡張するメカニズム。正しいモデルになる為に満たしておかなければならない条件を記述する。	OASIS
Submitting Organisation	申請組織		Any organisation that submits a repository item to be registered in a repository.	登録簿に登録する登録事項を提出する任意の組織。		UN/CEFACT SIMAC
Supply Chain	サプライチェーン		A sequence of events, which may include conversion, movement or placement, which adds value to goods, products, or services.	変換、移動あるいは設置など、商品、製品、あるいはサービスへ価値を付加する一連の事象。		Rational Unified Process
System	システム		As an instance, an executable configuration of a software application or software application family; the execution is done on a hardware platform. As a class, a particular software application or software application family that can be configured and installed on a hardware platform. In a general sense, an arbitrary system instance. A collection of connected units that are organized to accomplish a specific purpose. A system can be described by one or more models, possibly from different viewpoints.	インスタンスとしては、ソフトウェアアプリケーションまたはソフトウェアアプリケーション群の実行可能な構成；ハードウェアプラットフォーム上で実行される。クラスとしては、一つのハードウェアプラットフォームに構成し、設置できる特定のソフトウェアアプリケーションまたはソフトウェアアプリケーション群。一般的には、任意のシステムインスタンス。特定の目的を遂行するために組織化され、連係された機能単位の集まり。一つのシステムは、異なる観点から、1つ以上のモデルによって記述できる。	—	OMG UML Specification
Tagged value	タグ付値		The explicit definition of a property as a name-value pair. In a tagged value, the name is referred as the tag. Certain tags are predefined in the UML; others may be user defined. Tagged values are one of three extensibility mechanisms in UML. OMG UML Specification	一つの特性を「名前と値」の対の形で明示的に定義したもの。タグ付値に関しては、名前はタグと呼ばれる。ある種のタグは、UML であらかじめ定義されている。その以外のタグはユーザ定義可能である。タグ付値は、UML の3つの拡張メカニズムのうちの一つである。	UML の拡張メカニズムの1つ。キーワードと値が対になったもので、キーワードも値も、文字列で表される。	Rational Unified Process
Template	テンプレート		A pre-defined structure for an artifact.	成果物に対し、あらかじめ定義されている構造。		

Type	型		Description of a set of entities which share common characteristics, relations, attributes, and semantics. A stereotype of class that is used to specify an area of instances (objects) together with the operations applicable to the objects. A type may not contain any methods.	共通の特徴、関係、属性、および意味情報を共有するのエンティティ集合の記述。インスタンスの範囲(オブジェクト)を、そのオブジェクトに適用可能な操作とともに指定するために用いるクラスのステレオタイプ。タイプは、メソッドを一切含んではならない。	—	
Unified Modelling Language	統一モデリング言語	UML	A set of diagrams that communicate requirements regarding a business process.	業務プロセスに関する要件を伝達する一連の図。		
Unique Identifier	一意識別子	UID	The abstract concept of utilizing a standard mechanism and process for assigning a sequence of alphanumeric codes to ebXML Registry items, including: Core Components, Aggregate Information Entities, and Business Processes	コア構成要素、集合情報エンティティ、ビジネスプロセスなど、ebXML 登録事項に対し、一連の英数字コードを割り当てるために、標準的な仕組みやプロセスを活用することの抽象概念。		DCE 1.1: Remote Procedure Call. Open Group Technical Standard. Document Number C706. The Open Group (Reading, UK: August, 1997).
Universally Unique Identifier	絶対一意識別子	UUID	An identifier that is unique across both space and time, with respect to the space of all UUIDs.	すべてのUUID空間に関して、空間および時間をまたがり固有である識別子。		UML
Use Case	ユースケース		The specification of a sequence of actions, including variants, that a system (or other entity) can perform, interacting with actors of the system. See use-case instances. A use-case class contains all main, alternate flows of events related to producing the 'observable result of value'. Technically, a use-case is a class whose instances are scenarios.	システム (またはその他のエンティティ) から実行でき、システムのアクターと相互作用を持つ、変形アクションを含む、アクションのシーケンスの仕様。ユースケースインスタンスの項を参照のこと。一つのユースケースクラスは、「認識可能な価値のある結果」の生成に関連する事象のメインフロー、代替フローの全てを含んでいる。技術的には、ユースケースは、そのインスタンスがシナリオとなるクラスである。	システムの利用者(アクター)に対して何らかの結果やサービスを提供するためにシステムが実行する機能。	UML Glossary V1.3
Use Case Model	ユースケースモデル		A model that describes a system's functional requirements in terms of use cases.	ユースケースを用いて、システムの機能面での要求条件を記述するモデル。	ユースケースとアクターの相互関係を図式化したもの。ユースケース図はシステムのユースケースビューの静的な側面を表す。	Rational Unified Process
View	ビュー		A simplified description (an abstraction) of a model, which is seen from a given perspective or vantage point and omits entities that are not relevant to this perspective.	所定の見方、あるいは立場から見た単純化(抽象化)されたモデル記述。	—	IETF RFC 2828
Vulnerability	脆弱性		A flaw or weakness in a system's design, implementation, or operation and management that could be exploited to violate the system's security policy.	システムの機密保護ポリシーに違反して悪用される可能性のあるシステム設計、実装、あるいは運用管理における欠点、あるいは弱点。		OMG UML Specification

Well-formedness rules	ウェルフォームドルール		The rules and constraints on valid models are defined. The rules are expressed in English prose and in a precise Object Constraint Language (OCL).	有効なモデルに適用される規則および拘束条件を定義する。規則は散文体の英語、および精確なオブジェクト制約言語 (OCL : Object Constraint Language) を用いて表現される。	—	Rational Unified Process
Workflow	ワークフロー		The sequence of activities performed in a business that produces a result of observable value to an individual actor.	個々のアクターに対し、識別可能な価値のある結果を生み出す業務において実行されるアクティビティの順序。	部門における活動の流れや業務の手順、アプリケーションのある機能の動作の様子。UML ではアクティビティ図を用いて表現する。	

## 付属 2 XML/EDI 標準化専門委員会

### (1) XML/EDI 標準化専門委員会委員名簿

#### XML/EDI 標準化専門委員会委員名簿

委員長	東芝物流	大久保秀典
委員	アクセンチュア	森田 勝弘
委員	富士通株式会社	成田 雅彦
委員	(財)港湾空間高度化環境研究センター	鬼頭 吉雄
委員	(財)流通システム開発センター	坂本 真人
委員	NEC ソフト株式会社	岡 充弘
委員	インフォテリア株式会社	広瀬幸泰
委員	日本信販株式会社	落合宣明
委員	沖電気工業株式会社	藤岡 慎弥
委員	沖電気工業株式会社	高良 信広
委員	株式会社 NTT データ	遠城 秀和
委員	株式会社アルゴ 21	小林俊夫
委員	株式会社イー・ブリッジ	岡部恵造
委員	株式会社テクノロジックアート	長瀬 嘉秀
委員	株式会社テクノロジックアート	畑田 成広
委員	港湾職業能力開発短期大学校横浜校	保田 弘隆
委員	三菱電機株式会社	北山 泰英
委員	松下電器産業株式会社	小西 文男
委員	川鉄情報システム株式会社	伊深 達哉
委員	鉄道情報システム株式会社	武山 一史
委員	日本ユニシス株式会社	大沼 保夫
委員	日本電気株式会社 NECソリューションズ	中垣 俊平
委員	株式会社NTTデータ	畑 恵介
委員	富士重工株式会社	岡 和宏
委員	日本アイ・ピー・エム株式会社	山崎康彦
委員	株式会社日立情報ネットワーク	桑原英樹
委員	マイクロソフト株式会社	河本 吉夫
委員	株式会社日立製作所	小池 博
委員	株式会社日立製作所	秋藤俊介
委員	富士通株式会社	笠井 利一
委員	株式会社管理工学研究所	大林 正晴
委員	株式会社日立製作所	藤井 慶三
委員	JNT システム株式会社	松本 聰
委員	(社)港湾物流情報システム協会	小久保行正
委員	NEC ソフト株式会社	細田 直正
委員	駿河台大学	太田 可允(かいん)
委員	日本電信電話株式会社	村山 隆彦
委員	株式会社日本電子貿易サービス	鍛冶 俊彦
委員	テディ・アドバンスト・ネットワーク株式会社	高木 堅志

事務局	株式会社テクノロジックアート	久保 雅恵
事務局	電子商取引推進協議会	菅又 久直
事務局	電子商取引推進協議会	斉藤 幸則
事務局	電子商取引推進協議会	若泉 和彦
事務局	電子商取引推進協議会	溝口 邦雄

#### ビジネスプロセス標準化小委員会委員

委員長	アクセンチュア	森田 勝弘
委員	(財)港湾空間高度化環境研究センター	鬼頭 吉雄
委員	(財)流通システム開発センター	坂本 真人
委員	沖電気工業株式会社	藤岡 慎弥
委員	沖電気工業株式会社	高良 信広
委員	株式会社 NTT データ	遠城 秀和
委員	株式会社テクノロジックアート	長瀬 嘉秀
委員	港湾職業能力開発短期大学校横浜校	保田 弘隆
委員	松下電器産業株式会社	小西 文男
委員	鉄道情報システム株式会社	武山 一史
委員	富士重工株式会社	岡 和宏
委員	株式会社日立製作所	秋藤俊介
委員	日本電信電話株式会社	由良俊介
委員	JNT システム(株)	松本 聡
委員	株式会社日立製作所	藤井 慶三
委員	株式会社管理工学研究所	大林 正晴
委員	駿河台大学	太田 可允(かいん)
事務局	株式会社テクノロジックアート	久保 雅恵
事務局	電子商取引推進協議会	菅又 久直
事務局	電子商取引推進協議会	斉藤 幸則
事務局	電子商取引推進協議会	若泉 和彦
事務局	電子商取引推進協議会	溝口 邦雄

#### 情報技術フレームワーク小委員会委員

委員長	富士通株式会社	成田 雅彦
委員	NEC ソフト株式会社	岡 充弘
委員	インフォテリア株式会社	広瀬幸泰
委員	日本信販株式会社	落合宣明
委員	株式会社 NTT データ	遠城 秀和
委員	株式会社アルゴ 21	小林俊夫
委員	株式会社テクノロジックアート	畑田 成広
委員	川鉄情報システム株式会社	伊深 達哉
委員	日本電気株式会社 NECソリューションズ	中垣 俊平
委員	株式会社NTTデータ	畑 恵介
委員	日本アイ・ピー・エム株式会社	山崎康彦
委員	株式会社日立情報ネットワーク	桑原英樹

委員	マイクロソフト株式会社	河本 吉夫
委員	株式会社日立製作所	小池 博
委員	富士通株式会社	笠井 利一
委員	株式会社管理工学研究所	大林 正晴
委員	NEC ソフト株式会社	細田 直正
委員	日本電信電話株式会社	築 栄司
委員	株式会社東芝	山本 純一
事務局	株式会社テクノロジックアート	久保 雅恵
事務局	電子商取引推進協議会	菅又 久直
事務局	電子商取引推進協議会	斉藤 幸則
事務局	電子商取引推進協議会	若泉 和彦
事務局	電子商取引推進協議会	溝口 邦雄

(2) XML/EDI 標準化専門委員会日程

XML/EDI 標準化専門委員会会議日程

回数	開催日時	内容
第 1 回	5 月 30 日 (水)14:00 ~ 17:00	<p>(1)本調査研究の趣旨説明では、平成12年度に実施した調査研究の成果を踏まえ、本格的な普及に向かう企業間電子商取引に関し、その普及を確実な成果を伴うものとするため、国際的に標準化が進められている XML/EDI を基盤とした国内向けの導入方策の検討を目的としていることが強調された。</p> <p>(2)ebXML ウィーン会議の、概要・ebXML 最新仕様及び Proof-of-Concept について各々報告がされた。</p> <p>(3)専門委員会の作業計画では事務局としては Registry &amp; Repository に焦点を当て、審議を進めたい旨提案した。</p> <p>(4)本専門委員会内に設置する「ビジネスプロセス標準化小委員会」「情報技術フレームワーク小委員会」両小委員会設置の趣旨と小委員会編成について討議を行った。</p>
第 2 回	7 月 24 日 (火)14:00 ~ 17:00	<p>(1)ビジネスプロセス小委員会報告:本年度の当委員会での検討事項として、特に日本語化タスク(用語集の日本語化・CC の日本語命名規則作り・CC の日本語化提案)に重点を置いて議論していくことに決定した。</p> <p>(2)TMWG ダブリン会議(7/16~20)報告</p> <p>(3)ソリューションベンダー5社の WEB サービス・ソリューション製品の紹介:          ・NEC.....RosettaNet ソリューション BizEngine を紹介          ・日立.....次世代 E ビジネスビジョンと Cosminexus          ・富士通.....Interstage          ・IBM.....ダイナミック e-business          ・マイクロソフト.....Biztalk Frame Work2.0 と UDDI</p> <p>(4)情報技術フレームワーク小委員会の報告:国内 R&amp;R 構想は、国家予算が計上されることは期待出来ない為、実施するとなると民間ベースになると予想される。セキュリティと実装に関しては、ebXML を使用した実証プロジェクト事例の検討結果を踏まえながら、当小委員会でもフォローアップしていく。</p>

第 3 回	9月25日(火) 14:00～17:00	<p>(1) ビジネスプロセス標準化小委員会報告 ビジネスプロセス標準化小委員会では、用語集の作成と日本の言語的な特質を踏まえての Naming rule 作成の2つに重点をおいて検討を進めている。</p> <p>(2) 情報技術フレームワーク小委員会の報告 情報技術フレームワーク小委員会では、仕様の部分(CPP/CPA・Messaging Service)とテクニカルな部分(VAN-EDI と認証局・登録局)に関する検討を進めている。</p> <p>(3) 課題の整理 &lt; 今後の課題 &gt; &lt; ビジネスプロセス標準化小委員会 &gt; XML インスタンスレーションの問題点の整理 BP/CC におけるコンテキストに関する課題の整理 &lt; 情報技術フレームワーク小委員会 &gt; レポジトリの検討 Web サービスソリューションの紹介に関するの共通指針作成の検討</p> <p>(4) XML/EDI 用語集 XML/EDI の用語集の検討が行われたが、時間の関係で検討できなかった用語については、後日メーリングリストでサーキュレートすることになった。</p> <p>(5) 他に「AFACCT ebXML アジアにおけるデモ案」・「ポスト ebXML 体制」等に関して、報告及び討議がなされた。</p>
第 4 回	11月30日 (金) 14:00～17:00	<p>(1) 第 3 回 ビジネスプロセス標準化小委員会では、コンテキストを中心に CPA(Collaboration Protocol Agreement) や CC(Core Component) ・BP(Business Process)との関連性について討議がなされた旨報告された。</p> <p>(2) 第 3 回 情報技術フレームワーク小委員会では、10月1～5日に開催された OASIS ebXML CPPA/MSG TC 会議報告に基き、Intermediary という概念が現実社会で何を意味するか等討議が行われた旨報告された。</p> <p>(3) メーリングリストを中心に討議が行われている XML/EDI 用語集の解説について、事務局より最終的な内容検討が依頼された。</p> <p>(4) 来月 12/11 に福岡で開催予定の「XML/EDI 普及説明会」に対するベンダー側の準備状況について、最終確認を行った。また東京で「第 2 回 XML/EDI 普及説明会」を来(H14)年 2月 15日(金)に実施することが確定した。</p>
第 5 回	3月8日 (金)14:00～17:00	<p>(1) 1/28～1/30 サンフランシスコで開催された OASIS ebXML CPPA TC の会議報告がなされた。</p> <p>(2) 2/4～8 シアトルで UN/CEFACT の eBTWG 会議が開催され、eBTWG 以降の新体制等についての討議内容、及び同時開催の UN/CEFACT の TMWG 会議の討議内容に関して報告がなされた。</p> <p>(3) ビジネスプロセス標準化・情報技術フレームワーク両小委員会の H13 年度活動報告と H14 年度への課題に関し討議がなされた。</p> <p>(4) 本専門委員会の「H13 年度次世代 EDI 導入検討調査報告書」の骨子に関し、報告がなされた。</p>

#### ビジネスプロセス標準化委員会会議日程

回数	開催日時	内容
第 1 回	6月19日 (火)14:00～17:00	<p>今年度本小委員会の課題への取り組み方を次のように決めた。</p> <p>(1) 実装の課題(BP エディタ / コンテキスト・アセンブラー)の検討はベンダの意見を聞きながら、その成果に対するコメントをまとめる。</p> <p>(2) 標準開発への継続的参画(UML to XML 変換 / ビジネス文書構成法 /</p>

		XML インスタンスエーション)は、国際的な動きに対応しながら行う。 (3)ebXML 仕様の解釈と解説(対日本語の整備)を、本委員会での重点的な成果物とする。(対日本語の整備は、日本標準となる)
合宿	8月12日 (日)13:00～13日 (月)12:00	ebXML の理解を促進するための日本語 Glossary の整備が当合宿の課題であり、そのために以下の作業を中心に行った。 (1)用語定義チームに分かれて作業 ebXML Glossary、(OMG) UML Glossary、Rational Unified Process 等を原典に作成された英文 Glossary に関し日本語での用語定義を行うことは、ebXML を始めとする XML/EDI 関連技術文書の専門用語を理解する上で、ユーザ業界からも期待されており、今回のビジネスプロセス標準化小委員会合宿での主要課題となった。今回の用語定義集は業務担当者が将来 ebXML を導入する際の手引書の一つのドキュメントとして位置づけ、出来るだけ業務担当者が理解出来る水準まで咀嚼するように努める。 (2)日本語命名規則に関する討議 コア構成要素の日本語命名規則に関してフリーディスカッションを行った。Naming については、一意に識別可能なネーミングでなければならない。曖昧さを排除し、Naming Rule に従ったコア構成要素英語名と互換性を保つ必要はあるものの、国内業界慣用語や日本語としての自然さをなるべく損なわない規則を検討すべきである。そのため、自然言語の専門家の意見を聞く必要があり、助言を頂けそうな専門家を紹介して貰う事となった。
第2回	8月21日 (火)14:00～17:00	(1)BP 小委員会合宿報告 用語定義と日本語命名規則についての議論が行われた。その成果は、資料(02-05)の用語のワークシートにまとめられている。日本語命名規則については、Naming Rule に従ったコア構成要素英語名と互換性を保つ必要があるが、国内業界慣用語や日本語としての自然さをなるべく損なわない規則を検討すべきであるとする観点から、専門家に助言を求めることにする。 (2)用語(Business)アンケート結果 用語(Business)アンケートの集計結果では、そのまま「ビジネス」でもよいとする意見が過半数を超えていた。各委員のアンケートのコメントを整理すると、「ビジネス」は「事業」「業務」「取引」を包含した意となっており、意味的な要素が明確な際は、それに応じて日本語の使い分けを行う方が良いとの意見が上げられた。 (3)XML/EDI 用語集 合宿後の各委員からのコメントがあった用語について検討が行われ、用語ワークシートに反映された。
第3回	10月19日 (金)14:00～17:00	(1)eBTWG (eBusiness Transition Working Group) サンフランシスコ会議報告に基づき討議を行った。eBTWG サンフランシスコ会議は、次(2002)年度からの UN/CEFACT 新体制に向けての移行処置として、ebXML 関連仕様のフォローアップを行う為に行われた。今回は、UN/CEFACT 担当分である、「ビジネスプロセス」と「コアコンポーネント」関連仕様の改善作業他、関連する新たなプロジェクトのキックオフが行われることになった。 (2)新コア構成要素仕様ドラフトの紹介資料に基づき討議を行った。当該仕様は、今(10)月中にコアコンポーネント・チーム内の合意を取り、本(2001)年中にも UN/CEFACT 事務局より Development Group の公開レビューの手続きが取られる予定である。 (3)コンテキストの仕組みについて討議を行った。コンテキストに関して、コンテキストの適応可能部分を限定しその範囲内で構造を変化させるシンプル



		<p>な形にして、structure が明確になるアプローチにする方がよいのではないかとの提案がなされた。</p> <p>(4)コア構成要素日本語命名規則に関して、言語学の専門的な観点から、産業技術総合研究所の専門家を交えてディスカッションした際の報告に基づき討議を行った。命名規則の観点からいえば、修飾順のみ階層で限定する命名構造に従う方が構造的にも判りやすく、簡潔になると考えられる。</p>
第 4 回	12月4日 (火)14:00～ 17:00	<p>(1)ebXML の現状のコンテキストに関しては、コンテキストに関する分類が多いので誰がどうやって管理していくのか？また、コンテキストルールを整理した形で標準の対象として整理できるのか？国際的にディスカッションされている。そこでコンテキストの構造体系について見直した処、2つの案が提案され、それらに対する比較検討がなされた。これまでの経緯もあることから、今後はこれらの提案を受け止め、国際的な動きがあった際に対応していくことになった。</p> <p>(2)コア構成要素タイプ(CCT)検討の中では、特に Measure と Quantity の相違について討議がなされた。Measure については「物差し」で測った測定値ということで概ね合意が取れたが、Quantity については様々な解釈が出された。CCT に関しては、今後、公開されるコア構成要素の仕様に記載されている具体的な事例において、その事例が CCT の定義に該当しないと判断した場合に、提案を提出することになった。</p> <p>(3)ビジネス情報モデルとビジネス文書構築法に関しては、次(第 5)回の当小委員会で検討し、本(H13)年度の成果とすることになった。</p>
第 5 回	1月22日(火) 14:00～17:00	<p>(1)XML/EDI 標準化専門委員会の「H14 年度次世代 EDI 導入検討調査報告書」構成について説明が行われた。</p> <p>(2)eBTWG シアトル会議(1/31～2/8)の日程および議題内容の説明が行われ、同会議出席予定の本小委員会委員の参加 WG を確認した。会議初日(1/31)は合同プレナリーが予定されており、各 WG の進捗状況確認と本会議での課題の整理(事前準備)が合同で行われ、各 WG 中でのアジェンダが決定される。</p> <p>(3)コンテキストの課題検討に関しては、eBTWG シアトル会議でコンテキストとアセンブリドキュメントの関係、BIO とアセンブリドキュメントの関連性等について、確認して報告することになった。</p> <p>(4)UMM のビジネス情報モデルに関連して、ビジネス情報構造設計パターンの意図が明確でないので、eBTWG シアトル会議で確認することになった。</p>

情報技術フレームワーク小委員会会議日程

回数	開催日時	内容
第 1 回	6月27日 (水)14:00～ 17:00	<p>今年度本小委員会の作業計画について討議を行い、次のような指針を決めた。</p> <p>(1)JEITA の「電子電機業務モデル」やアジア地域旅行 EDI 等の実証プロジェクトについては積極的に進める。</p> <p>(2)Registry &amp; Repository については、実証プロジェクトの推移を見守りながら feasibility を検討する。</p> <p>(3)アジア地域でのパフォーマンス実験(相互接続実験)に向けて、日本側としての受け皿のグループをベンダー中心に作る。</p> <p>(4)IT ベンダー各社より RosettaNet・ebXML・UDDI・SOAP をサポートしてい</p>

		る BtoB の Web ソリューションについて、次の XML/EDI 標準化専門委員会で簡単な紹介説明を行う。
第 2 回	8 月 30 日 (木)14:00 ~ 17:00	次の議題に関し討議を行った。 (1) 7/17 ~ 18 ダラスで開催された OASIS ebXML Message Service TC の報告 (2) 7/24 ~ 25 スコットデールで開催された CPP/CPA Meeting (TC of OASIS)の報告 (3) VAN-EDI と認証局・登録局について、ECOM の認証・公証 WG からのプレゼンに基く討議 (4) ebXML アジアにおけるデモ案の紹介と討議
第 3 回	10 月 31 日 (水)14:00 ~ 17:00	(1)10/1 ~ 5 に開催された OASIS ebXML CPPA/MSG TC 会議報告を元に、電子交換協定とメッセージ搬送標準について討議を行った。コマースワンの主張する、電子交換協定当事者間に位置付けられている仲介者の役割が問題になった。 (2)10/8 ~ 12 に開催された第 1 回 eBTWG サンフランシスコ会議報告を元に、ebXML の新アーキテクチャに関し検討を行った。テクニカル・アーキテクチャー・ビューは今回初めて提示されたものであり、問題点が散見されるので、コメントとして纏め eBTWG に提出することになった。 (3)ベンダー各社の Web サービス IT フレームワークが ebXML 仕様をどのように取り入れているかについて討議を行い、12 ~ 2 月にかけて、福岡・東京及び大阪で開催予定の「XML/EDI 普及説明会」に向けて、ECOM 事務局側でテンプレートを整備することになった。
第 4 回	12 月 12 日 (水)14:00 ~ 17:00	(1)12/11 に開催された「九州 XML/EDI 普及説明会」では、各ベンダーの商品のプレゼンテーションが立て続けに行われた為セミナー説明会に来られた方々が疲れたのか、時間が経つにつれて徐々に人数が少なくなってしまった。公平性を保つために次々回(H14/2/8)大阪で開催される「近畿 XML/EDI 普及セミナー説明会」においては、ベンダーのプレゼンテーション順を福岡の時と逆にすることになった。 (2)「九州 XML/EDI 普及説明会」アンケート結果から、福岡における Web サービスに関する知名度は予想以上に低く、参加者の半数が IT ベンダーだったにも関わらず、基本的なものは理解していてもその詳細について理解しているのは、参加者の 2 ~ 3 割程度であったことが補足された。 (3)ebXML アジア会議報告に関連して、日本においても本小委員会の成果として各社のプレゼン紹介資料ををベースにして、Web サービスの IT フレームワークを作成したいと考えているが、IT フレームワークの作成にあたっては、W3C における Web サービスの定義を参考にして、その意味・定義を明確にした上で ebXML を考えることになった。 (4)本小委員会の中で「UML2XML 変換規則」を検討する案に関して、UML2XML には複数のやり方や考え方が存在し混乱しており、もう少し現状把握・調査をした後の検討課題とした方がよいという結論になった。
第 5 回	2 月 19 日 (火)14:00 ~ 17:00	(1) 1/28 ~ 1/30 サンフランシスコで開催された OASIS ebXML CPPA TC の会議報告がなされた。 (2) 2/4 ~ 8 シアトルで UN/CEFACT の eBTWG 会議が開催され、eBTWG 以降の新体制等についての討議内容、及び同時開催の UN/CEFACT の TMWG 会議の討議内容に関して報告がなされた。 (3) 昨(H13)年 12 月 ~ 本(H14)年 2 月にかけて、福岡・東京(2 回)及び大阪で開催された「XML/EDI 普及説明会」の報告がなされた。標準化については

		<p>Web サービスへの期待感を除いて各地域共認識が一致しているが、IT キーワードの認知度においてかなり地域格差があること等が報告された。</p> <p>(4)本小委員会の H13 年度活動の総括と H14 年度への課題について討議を行った。</p>
--	--	---

### 付属 3 XML/EDI 普及促進ワーキンググループ

#### (1) XML/EDI 普及促進ワーキンググループ委員名簿

##### XML/EDI 普及促進ワーキンググループ委員名簿

主査	財団法人日本貿易関係手続簡易化協会	伊東 健治
委員	旅行電子商取引促進機構	鈴木 耀夫
委員	NBS 研究所	関根直弘
委員	NTT コミュニケーションズ	隅田 陽一
委員	NTT コミュニケーションズ	福田 亜希子
委員	セイコーエプソン株式会社	千野 晃
委員	プライスウォーターハウスクーパースコンサルタント株式会社	濱田 隆一郎
委員	プライスウォーターハウスクーパースコンサルタント株式会社	垂水 宏明
委員	マイクロソフト株式会社	太田 和俊
委員	安田火災海上保険株式会社	石津 秀明
委員	沖電気工業株式会社	藤岡 慎弥
委員	株式会社NTTデータ	遠城 秀和
委員	株式会社SRA	阪本 善通
委員	株式会社アルゴ21	倉田 雅之
委員	株式会社イーアイティー	森田 純生
委員	株式会社東芝	山本 純一
委員	株式会社日立製作所	秋藤 俊介
委員	株式会社日立製作所	鎌田 芳栄
委員	株式会社日立製作所	小池 博
委員	佐川急便株式会社	吉岡 賢宏
委員	三菱電機株式会社	浜田 敬
委員	三菱電機情報ネットワーク株式会社	神代 トシコ
委員	社団法人鋼材倶楽部	広瀬 昌志
委員	新日本製鉄株式会社	吉留 徹
委員	(株)小糸製作所	山下 正洋
委員	東電ソフトウェア株式会社	水原 義幸
委員	日本インターシステムズ株式会社	小林 誠二
委員	日本ユニシス株式会社	大沼 保夫
委員	日本ユニシス情報システム株式会社	横田 邦彦
委員	日本信販株式会社	安部 義徳
委員	富士電機情報サービス株式会社	上岡 朋来
委員	日本アイ・ピー・エム株式会社	野中 弘之
委員	(財)住宅産業情報サービス	石井 均
委員	(社)港湾物流情報システム協会	小久保行正
委員	(社)日本電機工業会	平野伸夫
委員	(社)日本電線工業会	松川信也
委員	(社)日本物流団体連合会/物流 EDI センター	根本忠昭
委員	QR推進協議会	浅田伸二
委員	QR推進協議会	潮田 直樹

委員	日本化学繊維協会	広瀬誠一郎
委員	日本玩具協会	有馬ヨシ江
委員	日本製紙連合会	田中恵太郎
委員	日本貿易会	小園 泰宏
委員	流通システム開発センター	坂本真人
委員	中小企業総合事業団	三木良治
委員	川鉄情報システム株式会社	市川 純一
委員	株式会社三和銀行	清水 比佐雄
委員	株式会社帝国データバンク	和田 宗樹
委員	日本電気株式会社	佐藤 伸一
委員	株式会社日立情報ネットワーク	桑原 英樹
委員	富士通株式会社	成田 雅彦
委員	富士通株式会社	高草 健治
委員	三菱マテリアル株式会社	齊藤 聡
委員	社団法人電子情報技術産業協会	鈴木 正昭
委員	株式会社三菱総合研究所	飯村 次郎
リエゾンメンバー	オブジェクト・マネジメント・グループ・ジャパン	伊藤友里恵
リエゾンメンバー	コマースネットジャパン	堀川章人
リエゾンメンバー	ロゼッタネット ジャパン	岡部恵造
オブザーバー	財団法人金融情報システムセンター	檀上 博史
オブザーバー	テディ・アドバンスト・ネットワーク株式会社	石川 利久
オブザーバー	テディ・アドバンスト・ネットワーク株式会社	寺田 学
事務局	電子商取引推進協議会	菅又 久直
事務局	電子商取引推進協議会	斉藤 幸則
事務局	電子商取引推進協議会	若泉 和彦
事務局	電子商取引推進協議会	溝口 邦雄

#### ベーシック EDI サブワーキンググループ委員

主査	NBS 研究所	関根直弘
委員	株式会社NTTデータ	遠城 秀和
委員	株式会社SRA	阪本 善通
委員	株式会社アルゴ21	倉田 雅之
委員	三菱電機株式会社	浜田 敬
委員	三菱電機情報ネットワーク株式会社	神代 トシコ
委員	社団法人鋼材倶楽部	広瀬 昌志
委員	新日本製鉄株式会社	吉留 徹
委員	日本インターシステムズ株式会社	小林 誠二
委員	日本アイ・ピー・エム株式会社	野中 弘之
委員	(財)住宅産業情報サービス	石井 均
委員	(社)港湾物流情報システム協会	小久保行正
委員	(社)日本電機工業会	平野伸夫
委員	(社)日本電線工業会	松川信也
委員	(社)日本物流団体連合会/物流 EDI センター	根本忠昭
委員	QR推進協議会	浅田伸二

委員	QR推進協議会	潮田 直樹
委員	日本化学繊維協会	広瀬誠一郎
委員	日本玩具協会	有馬ヨシ江
委員	日本製紙連合会	田中恵太郎
委員	中小企業総合事業団	三木良治
委員	日本電気株式会社	佐藤 伸一
オブザーバー	中小企業総合事業団	三木良治
事務局	電子商取引推進協議会	菅又 久直
事務局	電子商取引推進協議会	斉藤 幸則
事務局	電子商取引推進協議会	若泉 和彦
事務局	電子商取引推進協議会	溝口 邦雄
事務局	株式会社三菱総合研究所	飯村 次郎

#### アジア地区普及サブワーキンググループ委員

主査	旅行電子商取引促進機構	鈴木 耀夫
委員	安田火災海上保険株式会社	石津 秀明
委員	沖電気工業株式会社	藤岡 慎弥
委員	株式会社NTTデータ	遠城 秀和
委員	株式会社東芝	山本 純一
委員	株式会社日立製作所	秋藤 俊介
委員	日本ユニシス情報システム株式会社	横田 邦彦
委員	富士電機情報サービス株式会社	上岡 朋来
委員	丸紅情報システムズ株式会社	小園 泰宏
オブザーバー	財団法人金融情報システムセンター	檀上 博史
オブザーバー	テディ・アドバンス・ネットワーク株式会社	石川 利久
オブザーバー	テディ・アドバンス・ネットワーク株式会社	寺田 学
事務局	電子商取引推進協議会	菅又 久直
事務局	電子商取引推進協議会	斉藤 幸則
事務局	電子商取引推進協議会	若泉 和彦
事務局	電子商取引推進協議会	溝口 邦雄

#### (2) XML/EDI 普及促進ワーキンググループ会議日程

##### XML/EDI 普及促進ワーキンググループ会議日程

回数	開催日時	内容
第1回	5月31日 (木)14:00～ 17:00	(1)本調査研究の趣旨説明では今年度のテーマとして、XML/EDI 普及促進のため、まず我が国産業界の重要な知的資産である従来型 EDI のビジネスモデル及び辞書を利用し、XML/EDI 標準技術と結合することにより、簡単かつ短期間に導入することができる「シンプルEDI」を取り上げること、及び国際的に進められている XML/EDI 標準(ebXML)の実装に関し、共通の課題を有する韓国・台湾他のアジア諸国と ebXML アジア会議でコラボレーション

		を推進すると共に、アジア地区への XML/EDI 普及促進の具体的テーマに取り組んでいくことが明確にされた。そのために本 WG 内に設置する「シンプル EDI SWG」「アジア地区普及 SWG」両 SWG 設置の趣旨と SWG 編成について討議を行った。(2)JEDIC 加入団体等産業界代表委員に自己紹介に加えて業界での EDI への取り組み状況を紹介して貰ったが、1 年前に比較して XML/EDI を視野に入れている業界がかなり増えているという印象を受けた。(3) ebXML ウィーン会議の、概要・ebXML 最新仕様及び Proof-of-Concept について各々報告がされた。
第 2 回	7 月 27 日 (金)14:00 ~ 17:00	<p>(1)TMWG ダブリン会議(7/16 ~ 20)報告:TMWG は UN/CEFACT に 6 つある常設作業グループの 1 つであり、TMWG では、既に「次世代の EDI として、UML(統一モデル化言語)に基づいたオブジェクト指向 edi」を勧告しており、これは UN/CEFACT で方向性として機関決定されている。最近のこの作業グループの主たる課題は、「UML に基づいたオブジェクト指向 edi」に移行するためのガイドブック(UN/CEFACT Modeling Methodology)作りが中心になっているが、作業が大幅に遅れており、今回の TMWG 会議でも完成することはできなかった。</p> <p>(2)シンプル EDI SWG 報告:国内取引のためのシンプル EDI に関しては、スタンスを CII 標準に置き、中小企業への普及拡大を主目的とする。また、シンプル EDI という呼称は既に別の意味で使用されており、名称を変更しようということになり、現在ベーシック EDI・ファンダメンタル EDI 等が候補として挙げられている。</p> <p>(3)アジア地区普及 SWG:当 SWG では ebXML をアジア地区全体に普及する上での課題を洗い出し、パイロット・プロジェクトを実施する中で問題点・課題を探っていこうというスタンスであり、実施できたプロジェクトから問題点を探っていく。</p> <p>(4)第 3 回 ebXML アジア会議報告</p> <p>(5)標準化普及アンケートについて:今回のアンケートの趣旨は、日本における EDI 標準化の実情・業界調整機能がない・紙ベースの会議・国際会議への参加が少ない等、経済産業省から指摘があり、業界からの意見聴取を求められていたからである。アンケートの結果、現状は業界間での調整が行われておらず、業界別々に進めており、業際的な調整機関がいるのではないかと、という認識は過半数の委員が持っていることが判明した。</p>
第 3 回	9 月 28 日(金) 14:00 ~ 17:00	<p>(1) UN/CEFACT の EWG ロッテルダム会議等報告の中で、UN/CEFACT のポスト ebXML 体制が紹介された。</p> <p>(2) 第 2 回ベーシック(シンプル)EDI SWG の報告</p> <p>(3) 第 2 回アジア地区普及 SWG の報告</p> <p>(4) XML/EDI 用語集に関連し、「Business」関連用語アンケートの集計結果を中心に報告及び討議が行われた。</p> <p>(5) AFACT 会議での ebXML デモシナリオの紹介</p> <p>(6)「XML/EDI 普及説明会」紹介&lt;実施時期と実施場所&gt; 九州 XML/EDI 普及セミナー.....12 月 11 日(火)&lt;於福岡商工会議所&gt;(定員 150 名) 東京 XML/EDI 普及セミナー.....1 月(未定) (定員 300 名) 近畿 XML/EDI 普及セミナー...2 月 8 日(金)&lt;於大阪国民會館大ホール&gt;(定員 150 名)</p>
第 4 回	11 月 29 日 (木)	(1)今(11)月 5 ~ 9 日に香港で開催された TMWG(Technology & Methodology WG) 会議で、UN/CEFACT Modeling

	14:00 ~ 17:00	<p><b>Methodology(UMM)ガイドブックの今(H13)年度内完成が明確になった。</b></p> <p>(2)第3回ベーシック EDI SWG 会議報告では、EDI 導入が進まない理由を計量的に分析するために、ベンダーを対象に EDI ソリューションに関するアンケートを実施したことが報告された。</p> <p>(3)第3回アジア地区普及 SWG 会議報告では、旅行関係プロジェクトは <b>Open Travel Alliance</b> の動きに注力しながら、ebXML 仕様の実装について今後討議を行っていくとの意向が明示された。</p> <p>(4)今月 22 ~ 23 日ソウルで開催された第 4 回 ebXML アジア会議の内容が報告された。今回はマレーシアが初めて参加し、韓国のナショナルレジストリの進捗状況等の ebXML 関連活動が参加各国から報告された。</p> <p>(5)既に申込みを締め切った福岡及び東京で開催予定の「XML/EDI 普及説明会」申込み状況について、各々企業別に申込者の分析を行った。</p>
第 5 回	2月20日(水) 14:00 ~ 17:00	<p>(1) 1/28 ~ 1/30 サンフランシスコで開催された OASIS ebXML CPPA TC の会議報告がなされた。</p> <p>(2) 2/4 ~ 8 シアトルで UN/CEFACT の eBTWG 会議が開催され、eBTWG 以降の新体制等についての討議内容、及び同時開催の UN/CEFACT の TMWG 会議の討議内容に関して報告がなされた。</p> <p>(3) 昨(H13)年 12 月 ~ 本(H14)年 2 月にかけて、福岡・東京(2 回)及び大阪で開催された「XML/EDI 普及説明会」の報告がなされた。各説明会共申込サイト開設時のフィーバー振りに比較し出席率が低迷したこと、IT キーワードの認知度においてかなり地域格差があること等が報告された。</p> <p>(4)本 WG の「H13 年度 XML/EDI 普及促進調査研究報告書」の骨子に関し、報告がなされた。</p>

#### ベーシック EDI サブワーキンググループ会議日程

回数	開催日時	内容
第 1 回	6月18日 (月)14:00 ~ 17:00	<p>本 SWG 会議で決定された事項は次の通りである。</p> <p>(1)本 SWG の検討テーマ、進め方、スケジュール等につき基本的に了承された。</p> <p>(2)以下の点について事務局にてアンケートを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本 SWG で EDI 普及を狙う普及対象</li> <li>・本 SWG で作成する手引き・FAQ の想定読者</li> <li>・現状の EDI の課題、問題点について</li> </ul> <p>(3)検討テーマのうち「XML/EDI のシステムモデル」について事務局にて再整理を行う。</p>
第 2 回	9月10日(月) 14:00 ~ 17:00	<p>(1)「シンプル EDI」の名称の再検討 UN/CEFACT で推進している「SIMPL/EDI」とまぎらわしいので名称を再検討した結果、「ベーシック EDI」に決定した。従って、今後、当 SWG の名称も「ベーシック EDI/SWG」とする。</p> <p>(2)「ベーシック EDI」の定義 既存の業界標準を含む公的標準を利用することを前提とする。 基本契約による継続取引を前提とした predefined な EDI を対象とし、dynamic ないわゆる「オープン EDI」は対象外とする。 安価でかつ簡易な実装・運用を可能とする。 XML 技術を利用する。 対象ユーザとしては、本格的な業務 AP を導入している企業から業務 AP</p>



		<p>を導入していない企業までを対象とする。</p> <p>業務 AP とのデータ連携は人手による再入力ではなく、自動的に処理できる。</p> <p>取引データは単に取引相手に閲覧させるだけではなく、取引相手側のコンピュータ上のファイルに記録できる仕組みを備える。</p> <p>その際のファイル形式はコンピュータシステムが自動処理可能で広く相互運用可能な形式である。</p> <p>(3)「ベーシック EDI」の利用対象ユーザの絞り込み・「中小企業へのベーシック EDI 導入の手引き」等について報告及び討議を行った。</p>
第 3 回	10 月 16 日 (火)14:00 ~ 17:00	<p>(1)前回に引き続き下請法関連の追加調査報告に基き、EDI の基本要件に関して討議を行った。下請法によれば、「下請取引」は物品の製造委託および物品の修理委託のみ該当し、汎用的な商品を売買する行為(購買依頼)は該当しない。</p> <p>(2)前回実施した「EDI 普及の課題」に関するアンケート結果に基き、ベーシック EDI がどこまで応えられるか討議を行った。</p> <p>(3)ベーシック EDI 導入の手引き作成のための、ベーシック EDI に関するベンダー調査案について討議を行った。本調査の目的は、ベーシック EDI の要件を満足するソリューションとして現在考え得るものを把握するための基礎資料として、各ベンダーが考えているソリューションの情報を収集することにある。</p>
第 4 回	12 月 6 日(木) 14:00 ~ 17:00	<p>(1)ベーシック EDI ソリューションに関するベンダーへのアンケートの集計結果の報告に基き討議がなされた。回答のあったベンダーのソリューションは、既存の汎用 EDI プラットホームを XML に拡張したものと、XML/EDI に特化した EDI プラットホームに大別される。各ベンダーのベーシック EDI に対する問題意識は共通しているが、XML/EDI のソリューションが直接的に安価な EDI 実現に結び付くという確証は得られなかった。</p> <p>(2)「ベーシック EDI 導入の手引き」の作成については、企業トップから事例が一番判り易いという声があることから、ベーシック EDI の要件を満たす先進業界の事例を中心に纏める方向が確認された。</p>
第 5 回	1 月 18 日(金) 14:00 ~ 17:00	<p>「ベーシック EDI 導入の手引き(Draft)」について討議を行った。</p> <p>(1)本「手引き」の位置付けとして、既存の EDI を導入できない中小企業の EDI 担当者が「ベーシック EDI」を容易に導入できるものとすることを確認した。</p> <p>(2)ベーシック EDI の要件に対する、従来型 EDI の課題や EDI 導入・運用における関係者の役割等に関して、( 、 × という)断定的な評価は行わないことを確認した。</p> <p>(3)本文中での個別企業名の表記については、本「手引き」作成が経済産業省委託調査研究であることから、事務局基準に従うことになった。</p> <p>(4)本「手引き」作成スケジュールとしては、2/1 までに各委員より事務局まで原案に対するコメント・修正意見等を送付して貰った後、2/8 に修正版を各委員に配布し、修正版に対する各委員のコメント・修正意見は 2/15 までに送付して貰うことになった。</p>

アジア地区普及サブワーキンググループ会議日程

回数	開催日時	内容
第 1 回	6 月 29 日	今年度本 SWG での成果物を絞るために、次のテーマについて討議を進める

	(金)14:00 ~ 17:00	<p>ことになった。</p> <p>(1)旅行電子商取引促進協議会で経済産業省(日自振)等の予算で進めている「企業間国際電子旅行商品取引情報基盤構築とその試使用の実施」への支援</p> <p>(2)ebXML アジア会議と連携し、韓国で国の予算で進められているR&amp;Rに関する情報を参考に、我が国における ebXML R&amp;R の適用性の検討</p>
第 2 回	8 月 31 日 (金)14:00 ~ 17:00	<p>概略以下のような討議を行った。</p> <p>(1)7/5 ~ 6 の両日東京で開催された第 3 回 ebXML ASIA Committee の報告がアクションプランを中心になされた。</p> <p>(2) 鋼材倶楽部から日韓で進められている鉄鋼 XML/EDI 日韓プロジェクトの現状が紹介された。</p> <p>(3) 10 月初旬ジャカルタで開催される AFACT 会議での ebXML デモシナリオが紹介され、その内容について討議した。</p>
第 3 回	10 月 26 日 (金)14:00 ~ 17:00	<p>(1)10 月 1 ~ 5 日、ジャカルタで開催された AFACT/EDICOM 会議での ebXML 説明・デモが報告された。AFACT のホストはジャカルタの知事が務め、EDICOM はインドネシアの情報通信大臣がホストとして挨拶を行う等、開催国であるインドネシア側の力の入れ方は並大抵ではなかった。POC(Proof Of Concept)デモに関しては、米国における同時多発テロの影響で関係者が不参加であったため、ECOM 側で擬似的なデモを実施した。</p> <p>(2)10 月 8 ~ 12 日に開催された、UN/CEFACT eBTWG サンフランシスコ会議の報告と討議がなされた。eBTWG は UN/CEFACT が EDIFACT 中心の体制から eBusiness 中心の体制に移行する過程での、1 年間の限定アドホック会議として設立された。同会議にはアジアからは日本から 2 名、韓国から 3 名が参加したが、初めてということで 10 個のプロジェクトがキックオフを行った。</p> <p>(3)10 月 8 日開催された日韓 EC 推進協議会ワークショッププログラムでの日韓連携プロジェクトの報告内容について紹介がなされた。</p> <p>(4)11/22 ~ 23 の両日ソウルで開催予定の第 4 回 ebXML アジア会議のワークアイテムを中心に報告がなされた。今回からは日韓台の他、マレーシア・シンガポールも参加予定。</p>
第 4 回	12 月 14 日 (金) 14:00 ~ 17:00	<p>(1)第 4 回 ebXML アジア委員会ソウル会議報告の中で、各国のカントリー・ステータス・レポートや韓国レジストリの POC シナリオ等を中心に説明された。アジア各国では、業界への導入ガイドラインを作ることにより ebXML の普及推進に取り組んでおり、台湾銀行協会の例等が典型的な事例である。一方韓国では KIEC が来(H14)年 4 月にナショナル Registry &amp; Repository (R&amp;R) を使用した実証実験を行う予定であり、今回は日韓のリポジトリ間の相互接続が課題である。今回初めて会議に参加したマレーシアでも、AFACT とジョイントでセミナーが予定されている。</p> <p>(2)現在アジア地区で貿易業務を実施するため、アジア地区の 5 か国の主要 IT ベンダーが合同して、PAA (Pan Asia e-commerce Alliance) 同盟を 1999 年に設置し、国際電子取引サービスのシステム開発を推進している。日本から paa にオブザーバーとして参加している、TEDI (貿易・金融手続きの電子化推進プロジェクト) の概要が紹介され、今後 TEDI 側から詳細な話を聞かせて貰うことになった。</p> <p>(3)UMM-BIM (Business Information Model) と、ebXML の CC (Core Component)/BIE (Business Information Entity) との連携のアイデアが紹介された。</p> <p>(4)事務局より、R&amp;R アンケートを XML/EDI 関係委員会・WG 委員に対して実</p>

		施すことに対し、協力方依頼がなされた。
第 5 回	1月25日(金) 14:00 ~ 17:00	<p>(1) 旅行電子商取引促進機構が推進している、旅行情報基盤プロジェクトの最新状況が紹介された。本プロジェクトはNTTコミュニケーションが旅行EDI普及促進協議会からプロジェクト運営を引継ぎ、Web サービスプラットフォーム上で旅行情報基盤構築を目指し、10月からサービス開始を予定している。</p> <p>(2) TEDIの活動状況を中心に紹介された。TEDIサービスでは船荷証券の電子化が大きな狙いであり、貿易関連業務のペーパーレス化を電子政府の一環として、申請手続きのワンストップ化に取り組んでいる。</p> <p>(3) アジア地区普及促進SWGの報告書目次(案)に基き、検討がなされた。</p>

禁無断転載

平成 14 年 3 月発行

発行所 財団法人 日本情報処理開発協会

電子商取引推進センター

東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館 3 階

TEL 03-3436-7500

印刷所 山陽株式会社

東京都千代田区神田神保町 1-18 千石屋ビル 3F

TEL 03-3293-5411

この資料は再生紙を使用しています。